

特警第四小隊 真人隊長の 女体陥落



milda7

旧女人化研究所作品(復刻版plus)

日本科研データ集積センター



メスクリン帝国特務隊第三小隊 ミルダ中尉

神、来るわよ



ZUTYA

ZUTYA

ZUTYA



キヤッ



その彼女も
元陸自だろ、状況を
よく見なくっちゃ



警視長特警第四小隊長 片桐 真人



どうゆう状況？

伊集院特務
第三小隊長
ミルダ中尉確保
だよ。

新鋭特警
第四小隊だ、
きみは包囲されてる

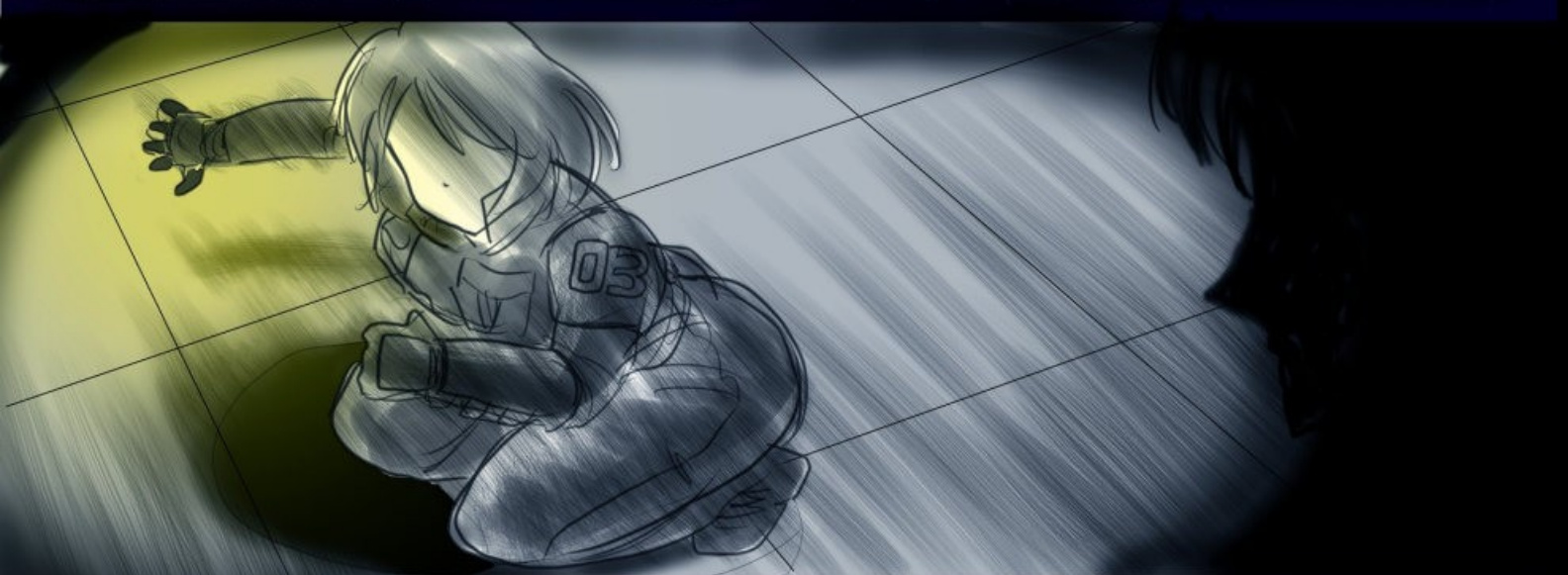


加速装置でも
ないと無理だよ

ん蘭の
香り？

あ.る.と.
し.た.ら.？

KATi



いいサテンの
ドレスがあるの♡

うぐっ

あなたには
あたしの家で
特別メニューで
もてなして
あげるわ！

女に陥落
させてあげる

フフフ

B
MILDA

ミルダ邸



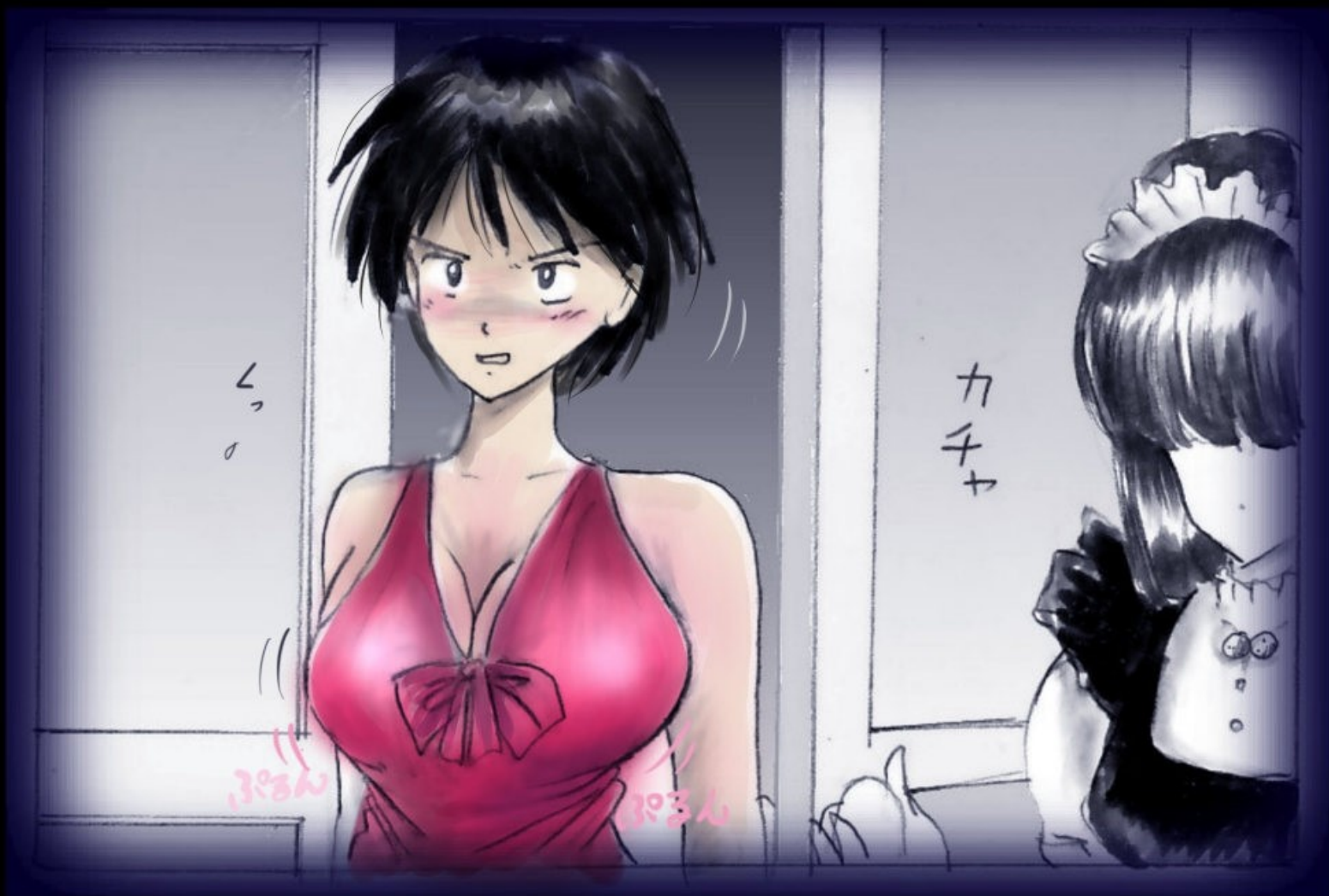
そう
入って。



ミルダ様
真子様が目を覚ませ
られましたのでこちらへ
お連れしました。



「カチャ・・・」



あーらびったしじゃない！
ウエストもばっちり

もっとも、ケガの
治療でついでに
肋骨二本取っちゃ
ったものね。
細いはずだわ

おっぱいは
ごめんなさい。その
ドレスに合わせる
ために大っきくし
ちゃった♡

二本



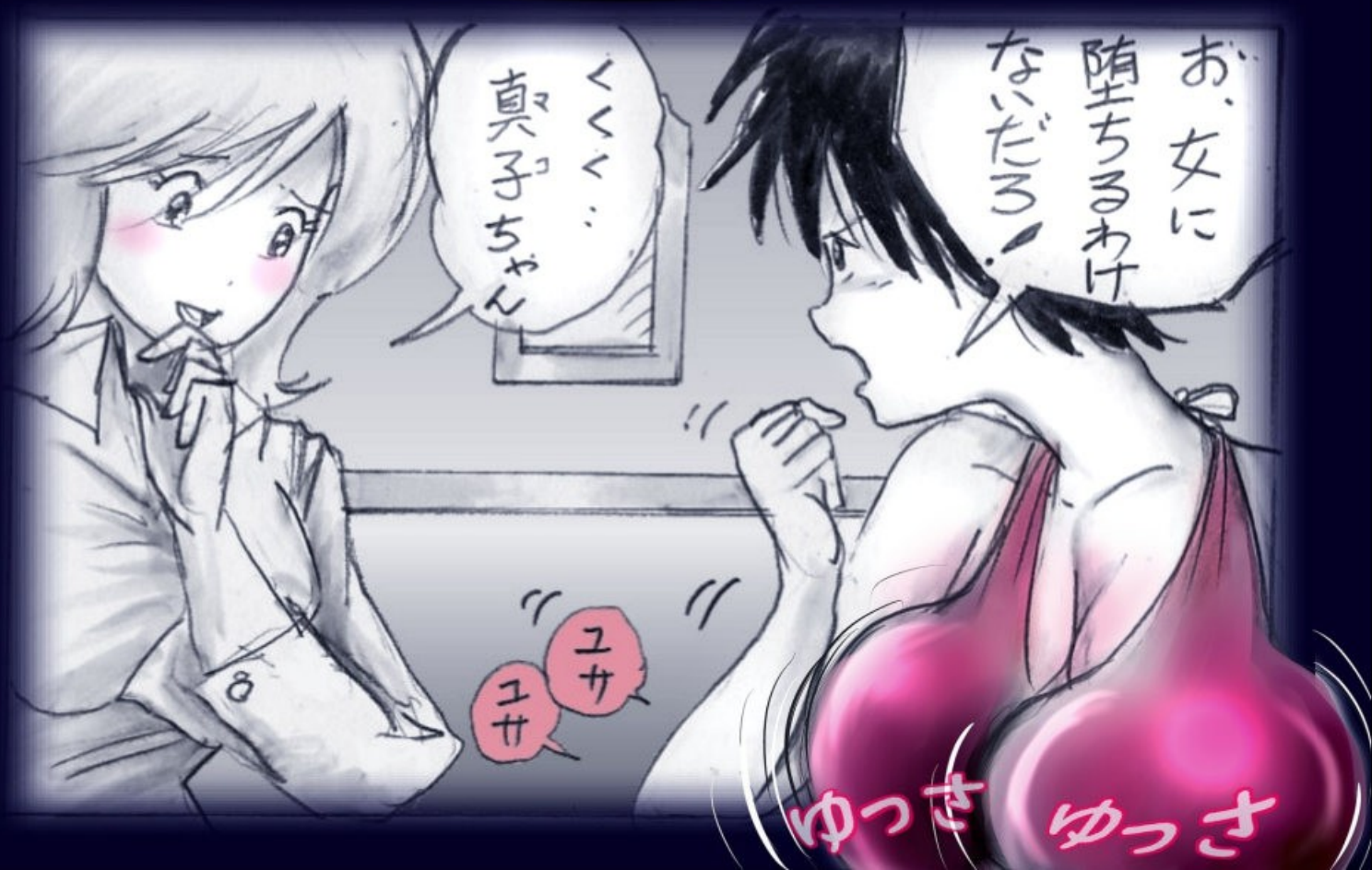
元陸自特戦隊
現メスクリン特務隊

榊少尉





だって、
あなたこれから
女子化調教する
のよ。
毎日毎日素敵な
女の衣装を着て
お化粧し、髪を
女らしくして
過ごすの。
そして身も心も
メスクリンの
女に堕ちて
いくの



お、女に
堕ちるわけ
ないだろ！

くくく…
真子ちゃん

ユサ

ユサ

ゆっさ ゆっさ



「かわいいわ、真子ちゃん…」

「今晚は もう、お部屋に帰っていいわ、素敵なお部屋よ」

「着替え用意してるから、ちゃんと着替えて寝るのよ、真子ちゃん」

触るな

今晚は
お部屋帰って
いいわ……



明日は
脳を弄って
女脳にしちゃ
おっと♥



うっ... こんなのと... ..





明朝、ミルダ邸付きメイドに起こされた時にはすでに正体不明の拘束具に包まれていた。



「かわいいボブカットにしましょ。
ブラウンに髪そめて」

「女の子の髪型にしちゃいますね、 隊長」。

メイドは 不適な笑いを浮かべ
真人の頭髪をなめるように眺める。

拘束した男を前に
メイドは手にした鋏を「チャキ、チャキ」
と弄ぶ。その表情はいままでのメイドでは
ない冷酷な笑みに満ちていた。

真人は動けない。

メイドは彼を「隊長」と呼ぶ……

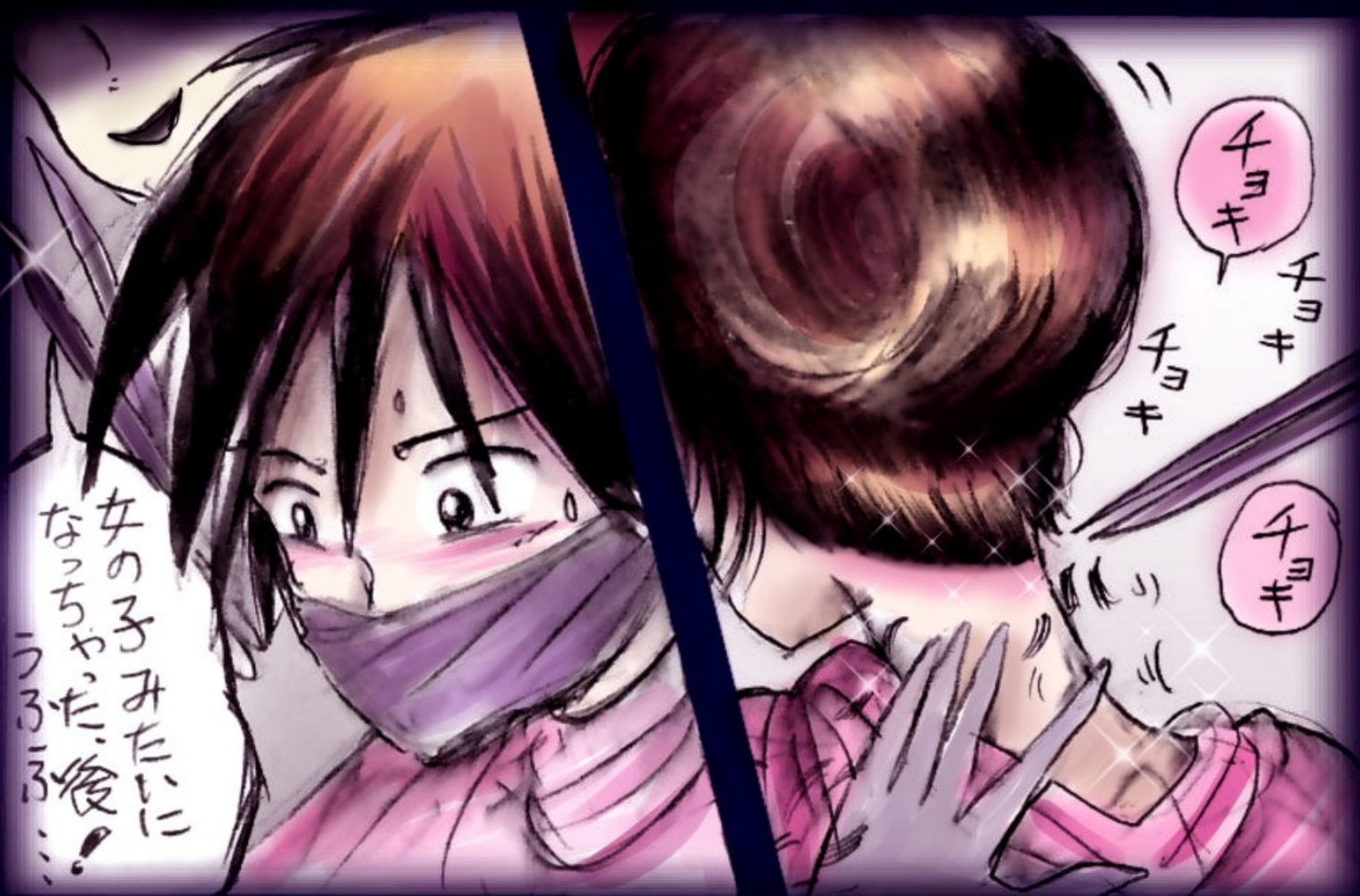


チヨキ、チヨキ

チヨキ

チヨキチヨキ、

チヨキチヨキ、 チヨキチヨキ、 チヨキ チヨキ



真人の髪はみるみるうちに揃え、梳かれ、

そのシルエットは
女性的なラインと膨らみに満たされていった。

「うう……」

屈辱に身を震わせ抵抗しようとするが全身を拘束され口腔さえ
固定された真人に成す術がない。

カチャ

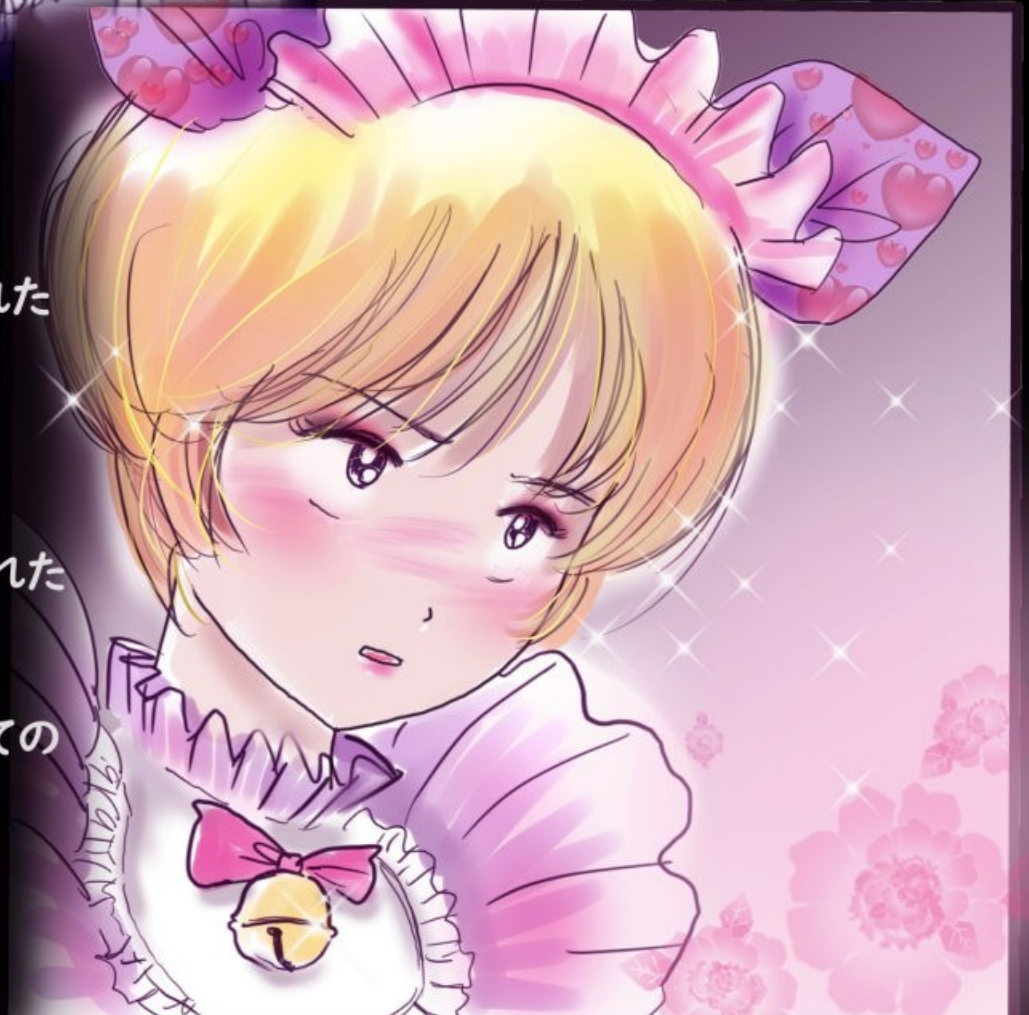


「カチャ」

ミルダ邸のダイニングルームのドアが開き真人が案内されて入ってくる…

そこには
髪を染められ
髪を女性らしくカットされた
真人が立っていた。

ピンクのメイド服に包まれた
その容姿に
もう
特警第四小隊隊長としての
面影はもう無かった……

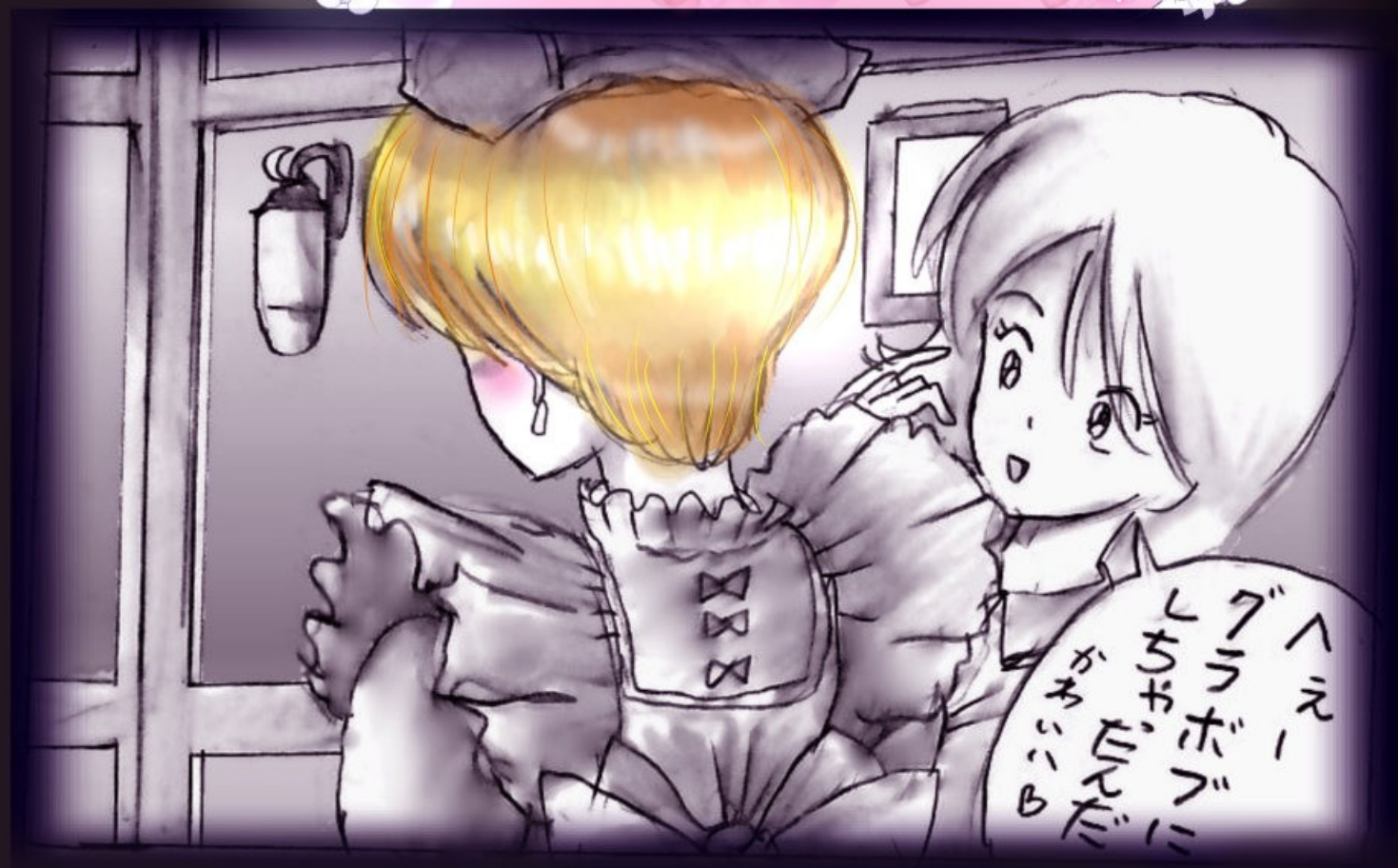


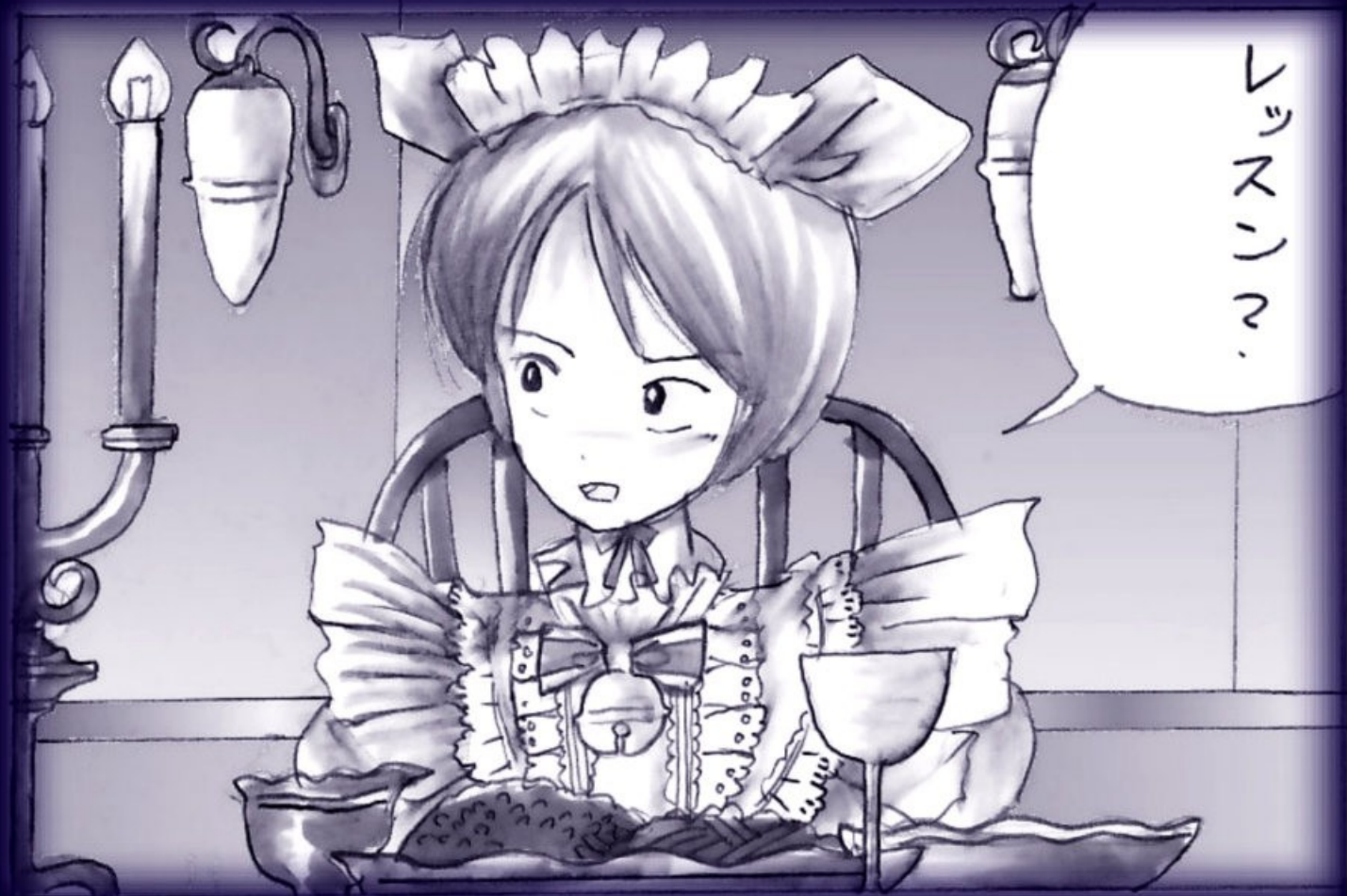
揃えられた前髪。

頬に掛かる内側にカール
した髪の毛先が

奇しくも自分の視界に
わずかに入る。

真人は情けなかった





メイド服に包まれ、シャイニーブラウンのグラデーションボブの髪型に変えられた真人を食卓に座らせ、遅めの朝食をとりはじめた。

そして、中尉は世間話でもするように真人に恐ろしい「処置」について語りかけた。



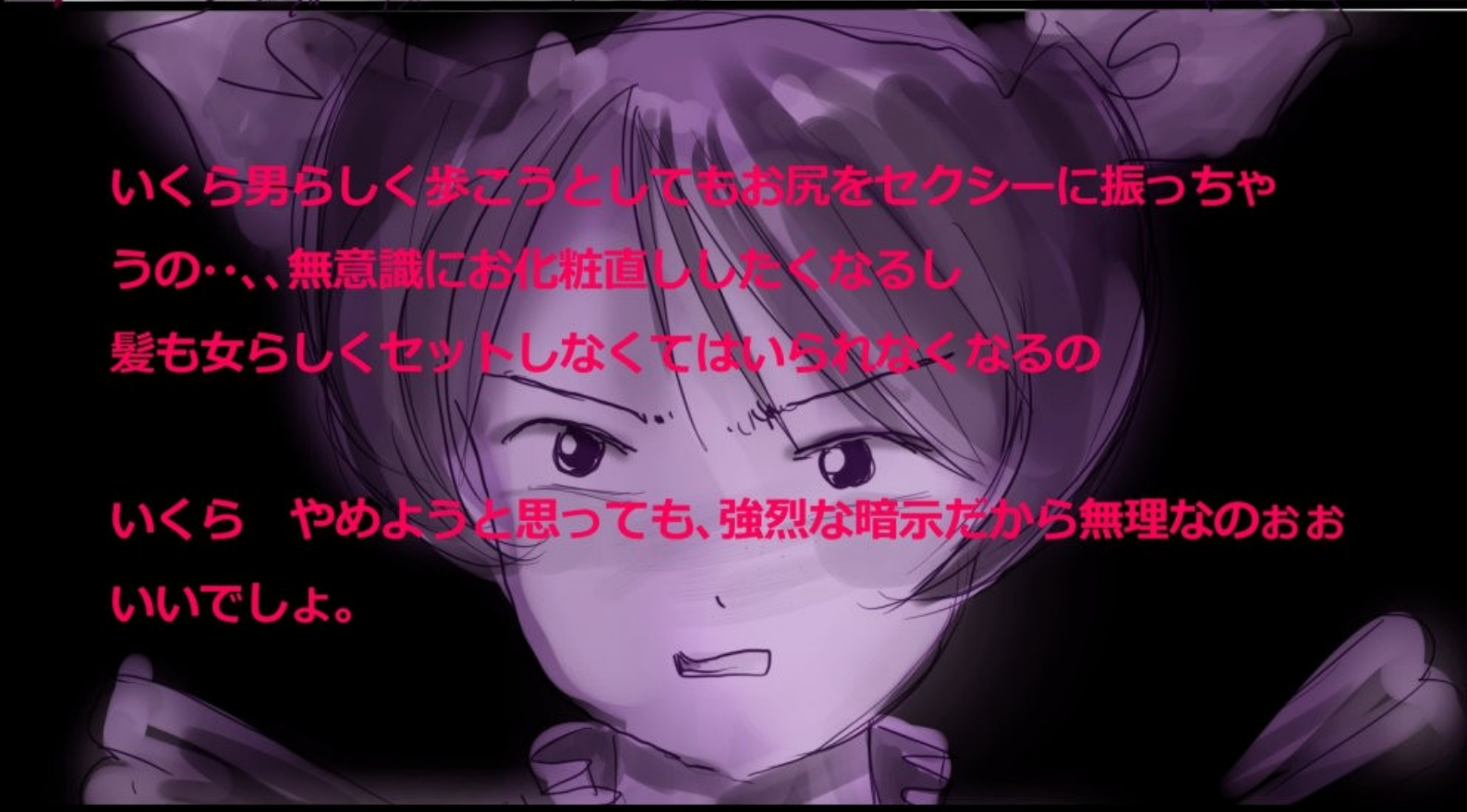
強烈な暗示をかけて、どうしても女らしい仕草、口調になっちゃうようにするの。

何度も何度も座り直しても女座りしちゃうの。
自然と女みたいに脚、揃えちゃうの。素敵でしょ、



いくら男らしく歩こうとしてもお尻をセクシーに振っちゃうの…、無意識にお化粧直したくなるし
髪も女らしくセットしなくてはいられなくなるの

いくら やめようと思っても、強烈な暗示だから無理なのおおいでしょ。

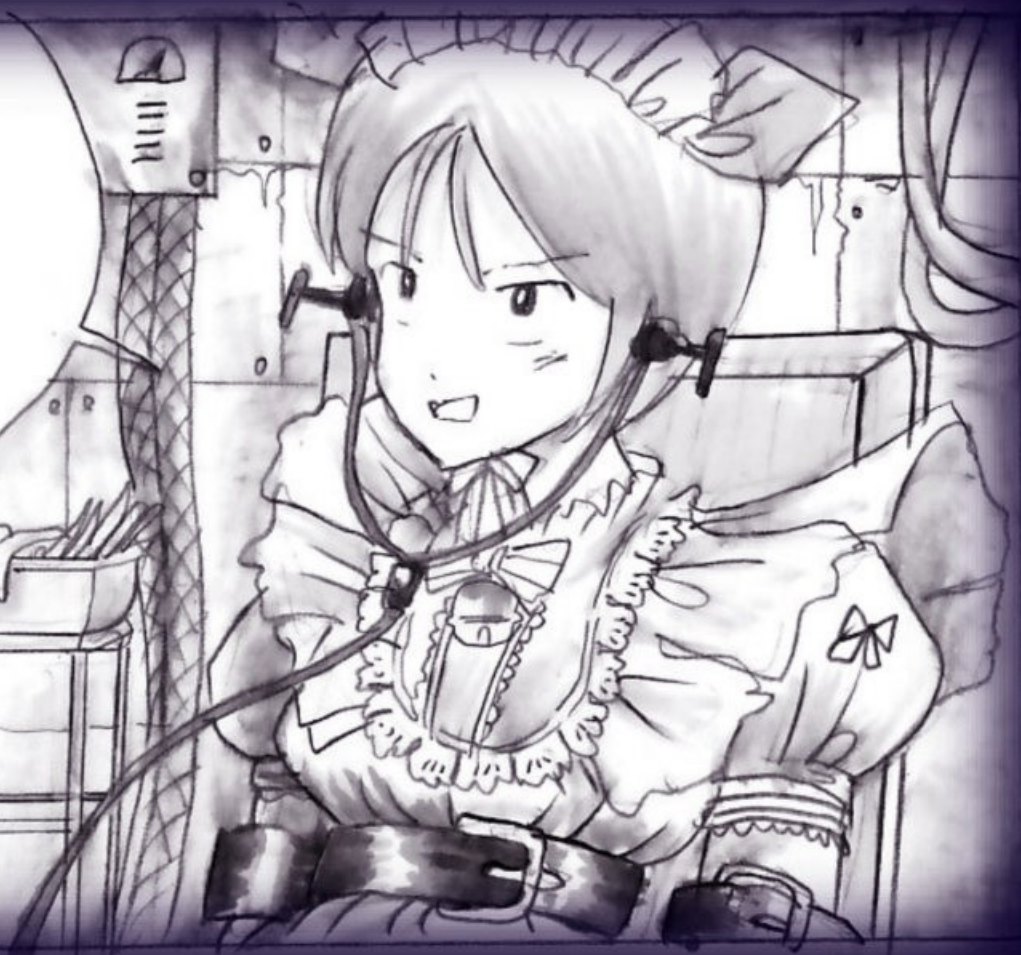


ミルダ中尉は真人との食事が済むと
邸宅の地下にある「第三施術室」に
真人を連れ込み、再び拘束した

居間とは別世界のような
冷たいコンクリートの壁。
薄暗い照明に照らされた
歯医者のような奇妙な工具の並んだ
机や棚が、真人を迎える。
僅かに異臭を含んだ冷たい空気が
真人の肺に入り込む……



何を
する
気だ
拷問
しても
無駄
だ！
俺は
訓練
を
受
け
て
る
ん
だ



突然だった

いっいやだ!
女らしいしぐさ!
なんて、しない...

キル
キル

キル
キル
キル

脳味噌を掻き回されている…そんな感覚だった。

そんな殺人的音響の中に、本人でも気づかぬ囁きが混じっていた…

「あなたは、女らしく振る舞ってしまう…」

「そう、あなたは、普通の女性より、もっと、もっと
女らしくしたくなる……」

違う…

オレは…女 じゃない…

お、オナナになんか…



キル

あなたは女らしく振る舞う..女のしぐさをする..

キル

しない！女のしぐさ..なん..て..し ない....

いいえあなたは 女だから女らしく、女らしく振る舞うの...

し . な . い

女らしくする

PAKITHI!



どう？
頭の中に
乙女心
埋め込まれた
気分は？



一生取れないのよ
それ。グクグク

あなたの名は真子。
どう抗っても自分のこと
「真子」って言ってしまふの。
どう抗っても
女言葉になっちゃうの。



いい？
真子ちゃん

そう：
どうしても脚を女の子みたいに
揃えちゃうの。
どうしてもお尻振って歩いちゃうの。
どうしても女らしい仕草になっちゃうの。



はい

女らしく
振る舞います……



真人はふと自分の足元を見てしまう...

そこには無意識に女性らしく揃えた脚があった…。
ゆうべの出来事..！



真人はショックだった。まったく意識していない。

なのに....

真人は男としての意識も記憶もはっきりしている..なのに....。

再び脚をばらしてみる...

なのに、自然と自分の脚がしなを作りながら揃えていく.....

真人の背筋に悪寒が走る。

もう一度 やってみる.....しかし、同じだった、
真人の意識とは別に脚は
女らしく、女らしく、揃えられていく...

そして真人は、ふと気づいた。

脚以外のしぐさ、手や腰、振る舞いすべてが女らしく
動いていたことを...





真子となってしまう、真人。
そのまま身をベットに預けてしまう…がその姿すら…

女性らしくカットされた襟足、強制的に履かされたレースのフリルを
スカートから露出させながら
屈強な男だった特警第四小隊隊長 真人隊長は泣き伏せる姿は
すでに 女 だった。

しかし「調教」はまだ始まったばかりだった。……



その日の夕方の真人は
淡いピンクのチャイナドレスに身を
包まれていた…





真人は決してしおらしく振舞いたくないのに、

バスト100以上にされた胸。

肋骨下部を切除され、くびらされた腰、

女性らしくボブヘアーにされた髪、

そして毎日恭しく着せられる女性用の服。

その現実をいやがる動作
ひとつひとつが
どうしても
女性らしい趣を放ってしまう。

濃厚女性ホルモンを大量に
打ち込まれ、
ポッチャリと
皮下脂肪が付いてしまった
太ももは
何故か自然と内股と
なり
女らしさを不本意にも
さらけ出していた...





本部への定時連絡を終えた
ミルダ中尉は
暗示により「しおらしくした」真人に向かって

その暗示の効果が
もう一つ有ることを伝えたく楽しげに
その部屋を去っていった。

「暗示」の効果を目の当たりにしてる
真人にとって、我が身のこれ以上の
女性化は到底受け入れがたいもので
あった..。

「逃げないと..」

すさまじい焦燥感に駆られた
真人の視界に
ミルダ中尉の置いていった携帯が
映った。



逆探準備して

榊、真人は
恐らくSAT
本部に連絡
しようとし
るわ。

ピ

カッ
コッ

MAKO

了解しました。
逆探と同時に
ネットワーク
侵入を図ります

99

10

SAKAKI



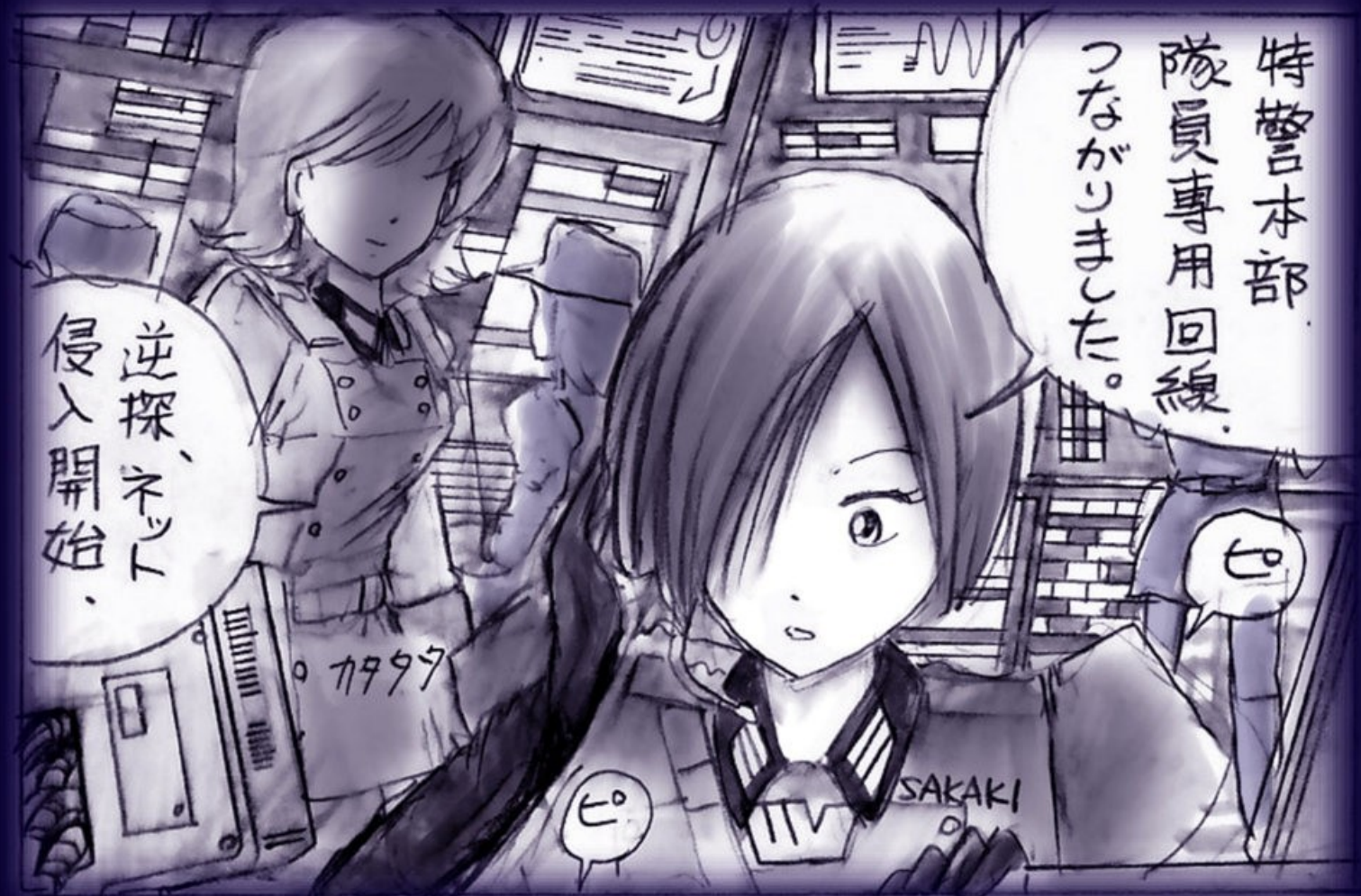
真人は 部屋から出て遠ざかっていったことを確認すると、
急いでミルダ中尉の忘れていった携帯に飛びつく。

震える手で、

隊員しか知らない

警視庁特別警察SAT本部
特別回線のナンバーを押す

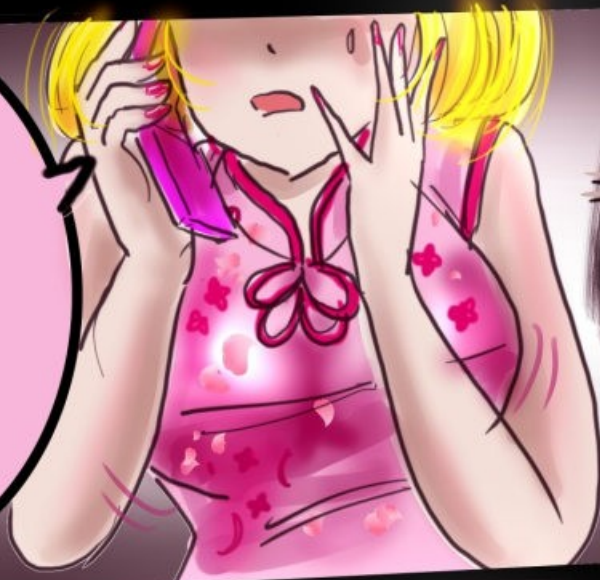




もちろん携帯を
忘れたのは、
SAT本部の在処を
突き止めるための
ミルダが仕掛けた罠であった。

こちらSAT本部
この回線は緊急用だ
貴殿のコード及び
部隊名、名前を述べよ

コード8022
特警第四小隊所属、
あたしは…
真子、片桐真子よ！



コードは存在するが
「真子」という隊員は
いない。女子隊員は
いない。貴様は誰だ！

え！？

あたし

真子って



ううん、違うの、
あたし… 真子よ
ち、違う…

真子よ！

違うの、あ、あたし

真子、なの

ううう





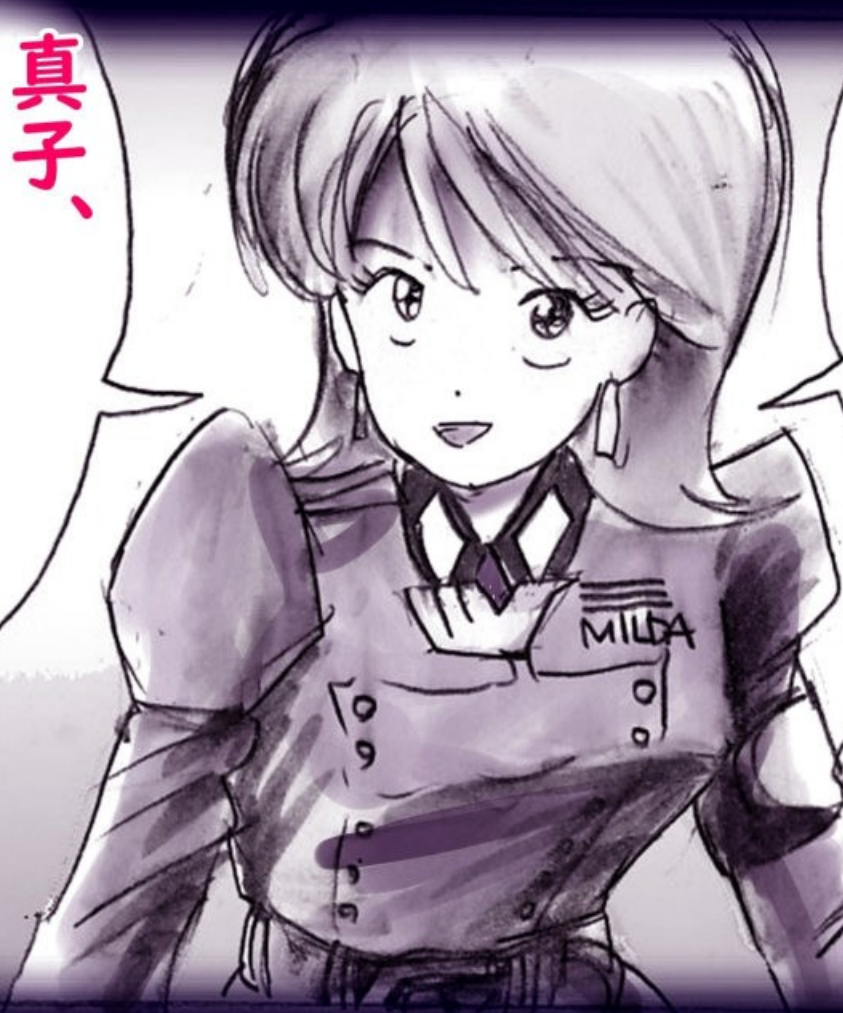
勝手にあたしのケイタイ使うからよ、



言ったでしょ…
もう一つ暗示があるって、
女言葉しかしやべえない
暗示よ。



特警もばかじゃない、
コードを伝えたから、
一心調べに
来るわ。

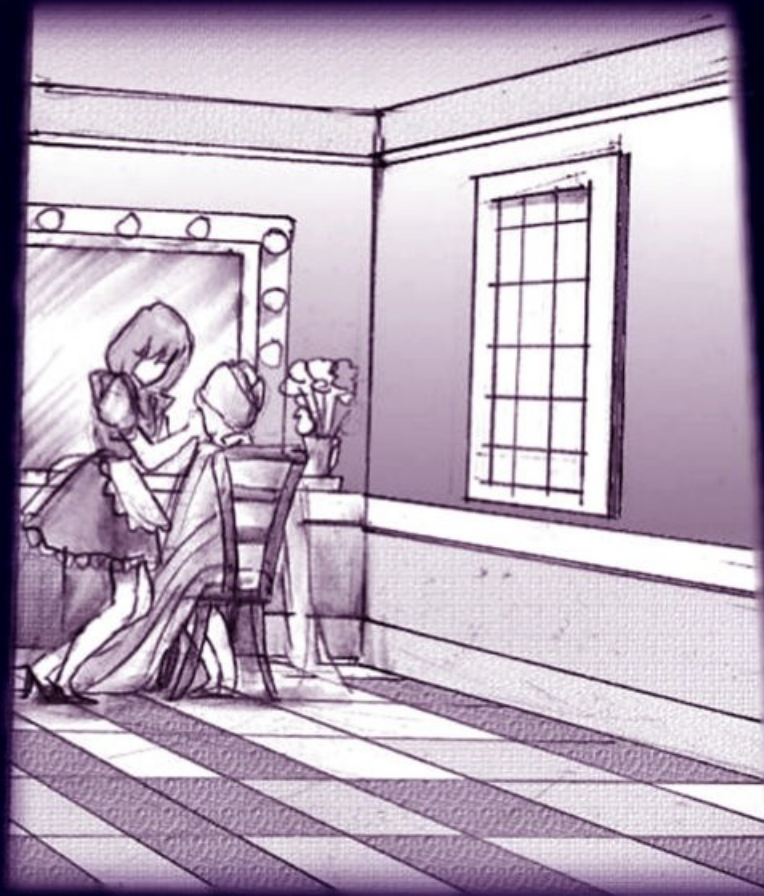


真子、

お化粧するのよ

可愛い女の子として
お出迎えするの。



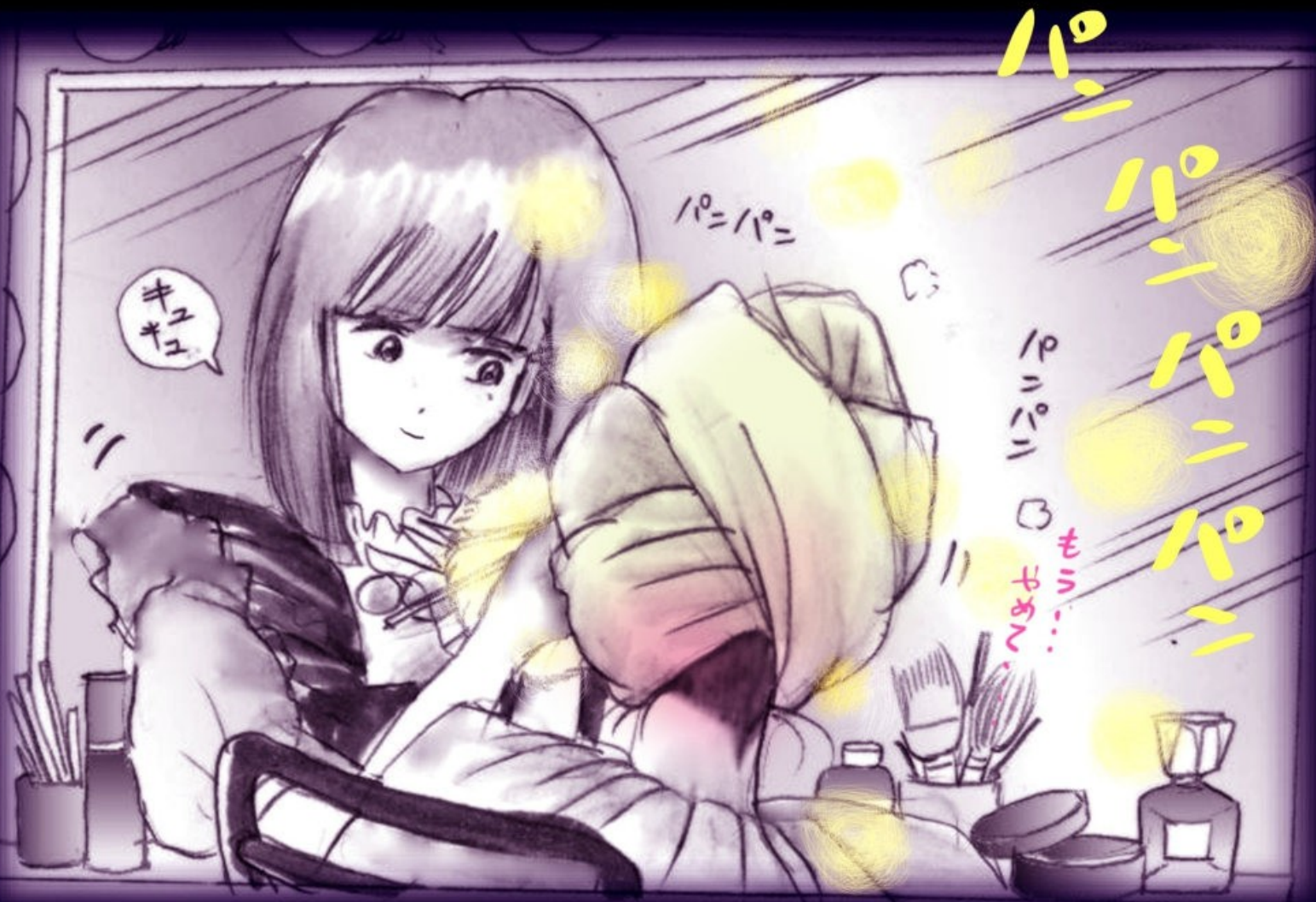


ぱん、ぱん、 ぱん、ぱん…

ミルダ邸の化粧室に
パウダーで執拗に叩く音が
響いていた。

部屋は鼻を衝くほどの化粧の匂いが
充満していた…

これほどの匂いのキツイ化粧臭を
放つ男を周囲の人はさぞ眉を
顰めるだろう…。



鏡の前に、厚化粧した女がいた。



発情

真人はまだ鏡を正視できない、
幾重にも塗り込められたファンデーションによる肌のつっぱり。
大量の付け睫毛の重み。
唇のルージュの粘着感。
どれも 想像するに 正視できない有様だと真人は感じていたからだ。

しかし ミルダ中尉は容赦なかった。
うつむく真子の頭を強引に引き上げる。

「ほうら、ちゃんと見なさい、
厚化粧の真子ちゃん！」

グアイッ



もう真子ったらあ
さっきまで勇ましい特警隊長だった
のにい〜お化粧濃い過ぎるわよ、
化粧クッサ！プンプン化粧臭いわ！
クッサ、クッサ、変態よね、あんた！



特警第四小队隊長だった 真人、

バスト100に豊胸、肋骨を2本切除、
高純度ハイエストロモン大量投与され体を女性化、
暗示装置により女言葉と女性のしぐさを強制させられ、

そして今度は ミルダ中尉の携帯を無断使用した罰として
派手目な強制メイクをされた 真人。

その風体にもう隊長の面影はない……………。

もうすぐ警察と
SATが捜査に来るの
来たら、真子、あなたが出るのよ。

そしてこう言うの、

『あたし今からお風呂入るの
恥しいから帰ってくださる？』

って答えるのよ。

オッパイ揉みながら。



いっいぢやよ
そんなこと…
言わないわ

おっぱいなんて
揉むわけないでしょ！

んん、これも暗示。
「男性の声」により
一層、女として発情
して答えるよう
暗示かけちゃ、たの



厚化粧にベビードル、そしてどう抗っても
口からは女言葉しか出ない暗示。
身振りも女らしく女らしくしてしまう身体。

こんな身体で同僚の前に出て自部は真人だと証明できる
自信がない...

むしろこんな恥辱な姿になってしまったことを仲間に
見られたくない、ああ、あたしは一生女としてここに
いなきゃいけないの？

そしてミルダは

さらに恐ろしい暗示を真人に搔けていることを告げた。

男性の前で「発情」してしまう暗示。

ピンポ〜

男に：発情なんて
するわけ：ないわ.....

オトコの人がかかる...
ドキ
ドキ
ドキ

警察です

何？

きゅん

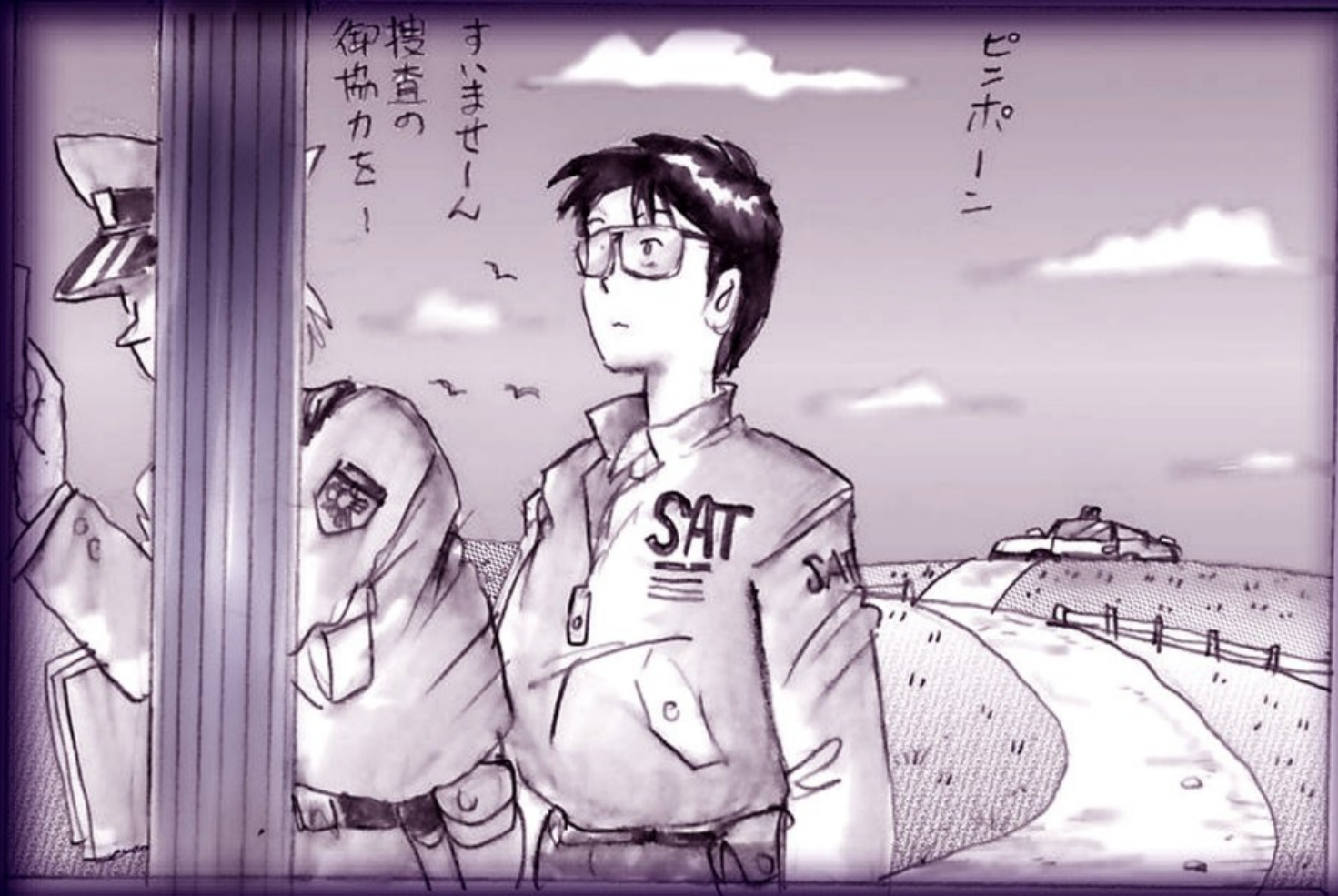
だん♡

きゅん

すみませーん

ピンポ〜

いざ
体か
熱



すいませーん
捜査の
御協力をー！

ピンポーン

さあ、仲間に真人ですって喋ったら？ ただし…
女言葉は失礼よねー、
ましてや助けに来たのに女として発情して色気振り撒く奴って同僚さん
許さないと思うわ



あなたが
呼んだのよ。
ちゃんと階級とよ。
名前言って、
事情しげぶたらうっ。
ただし…

いや！
いやいや！！

ただし、
女言葉は
失礼よねー！

化粧臭いし…

ピンポーン

ポン

ポン

絶対にいやだった..

こんな格好..なのに体が

男の声の方へと歩いてしまう..

胸が高鳴る、

今にも強制的に付けられたこの胸を揉み解したくなる
そんな衝動に包まれつつある自分。

真人は許せなかった... 「いや! いやよ! どして..」

なのに また一歩、

玄関に近づいてしまう..

すみません



不本意に玄関を自ら開けてしまった真人に 衝撃が走った…



そこに立っていたのは
直属の部下だった「真田」だった、

部隊で最も真人隊長を信頼し尊敬してくれていた部下だった。



「真人なんて知りません、ここにはいません」

真田・・・ごめんなさい
あたし・・・女に
されたの、

あなたに
気付かたくないの
こんな姿。

ハア...

ハア...

フリ

フリ

キュ

キュ

ムキ

男！男だわ！

興奮しちゃうわー

真人の中で
屈強の第四小队隊長として
生きてきた
男として生きてきた
すべての
アイデンティティが
音を立てて
崩れていく瞬間だった。

真田、見ないで
お化粧されちゃった顔、
大きくされちゃったオツパイ
女みたいになされちゃった尻
見ないで！ 真田！

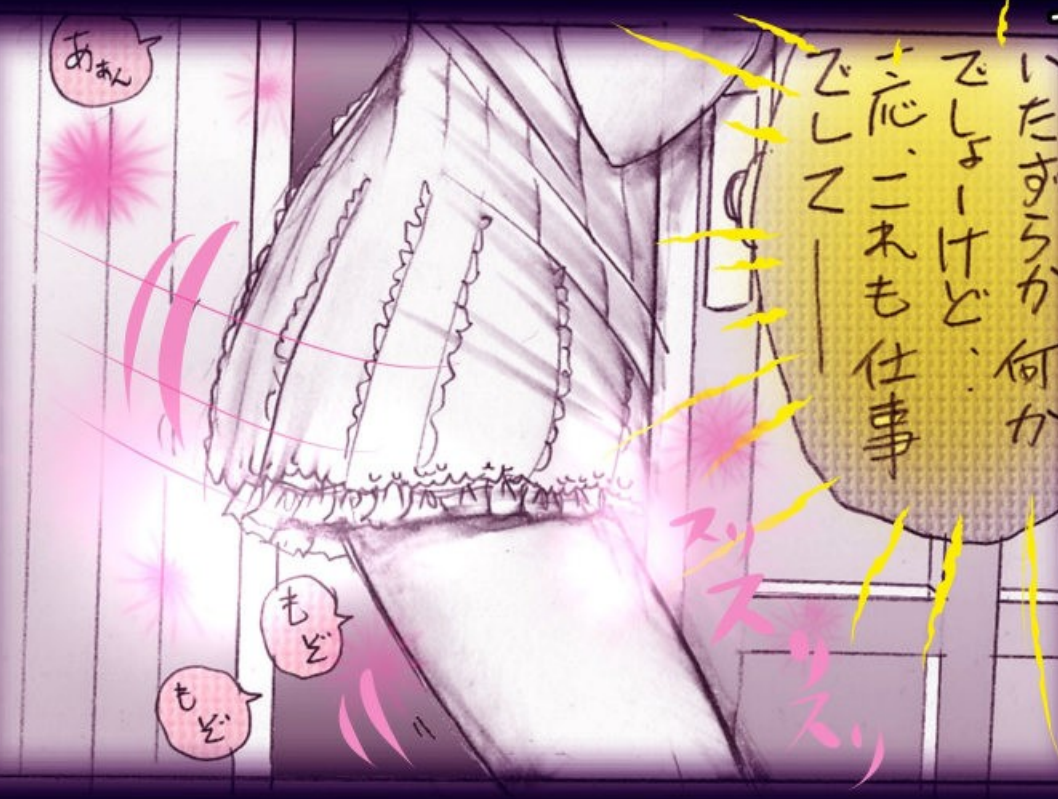




男性の声に「発情」してしまう

そんな事実を知らずに訪れた警官はその男の声で真人に質問を浴びせる。

すでに真人の中では色情と恥辱二つの感情が怒濤のごとく入り乱れ正常な意識を保てなくなっていた。



もう耐えられなかった。下半身のそこは

もう女として濡れ初めていた...

思わず戸口で股間を擦る真人。

淫乱だった。

情けない真人。



精一杯だった。

もうこんな自分をさらけ出したくない
色欲に埋もれつつある自分の中で唯一
この場を去れる手段、助けてほしいのに
「女としてお風呂」
と言ってしまった……………
「ああ、真田、助けてあたしを」
「女になっちゃう」

「女にされちゃう」

「助けて。…真田」

「女に…」



真人の頭の中でその時「何か」がはじけてしまった

女たのあたし

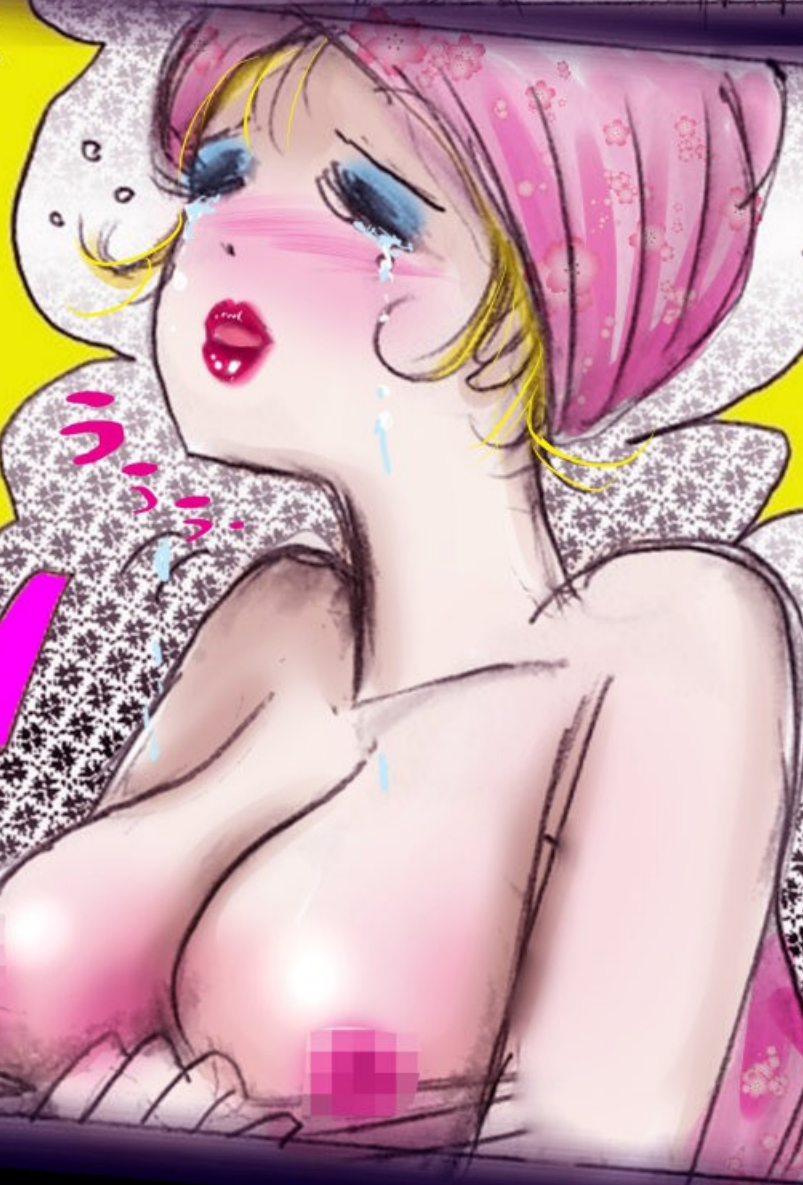
ももも
来ないで

サヨナラ
真人ノ



あ、ちがうわ
真たし
女子よ
女子よ

特警隊長か
こころ思いの



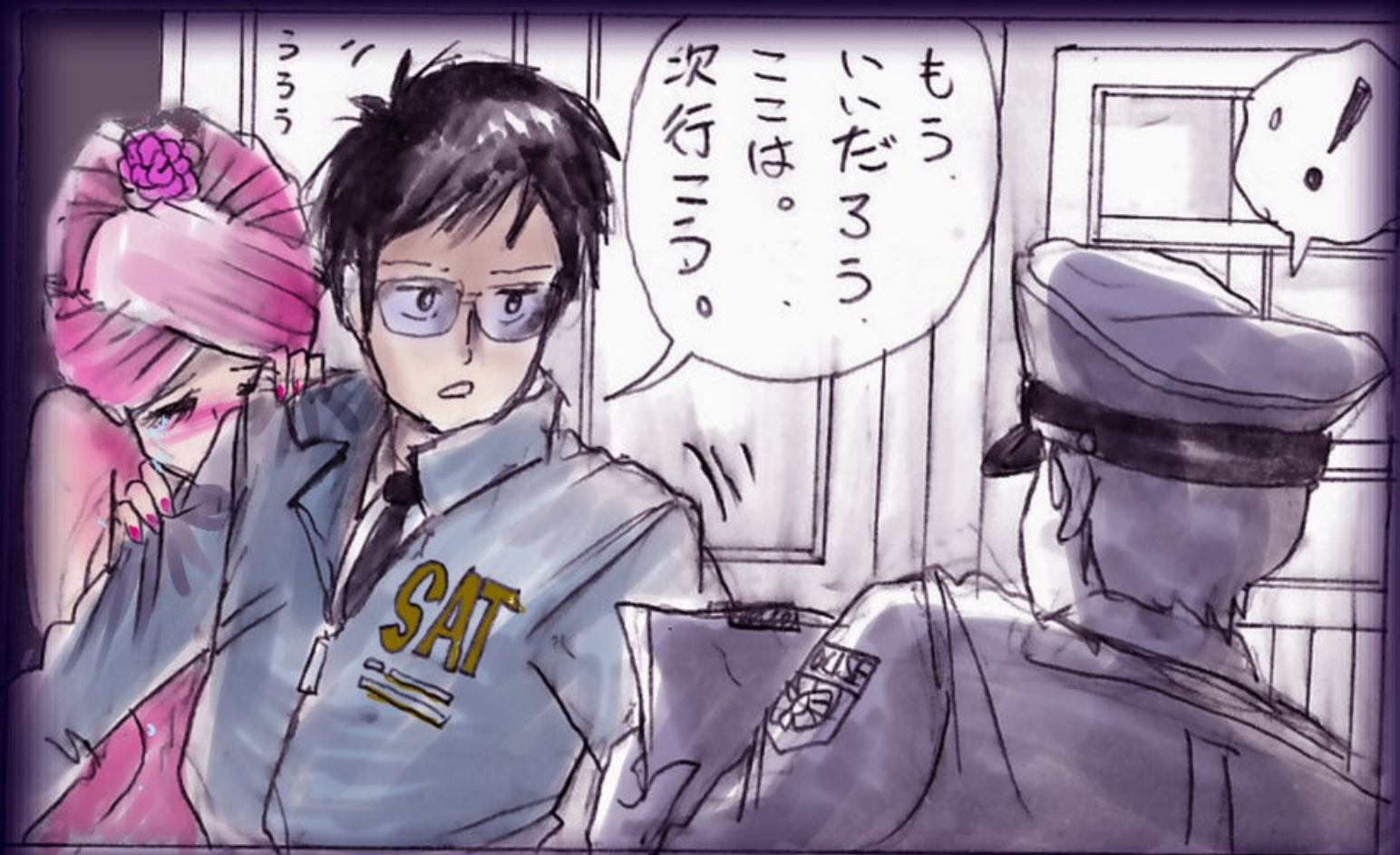
見てよ！
こんな
おっぱいの

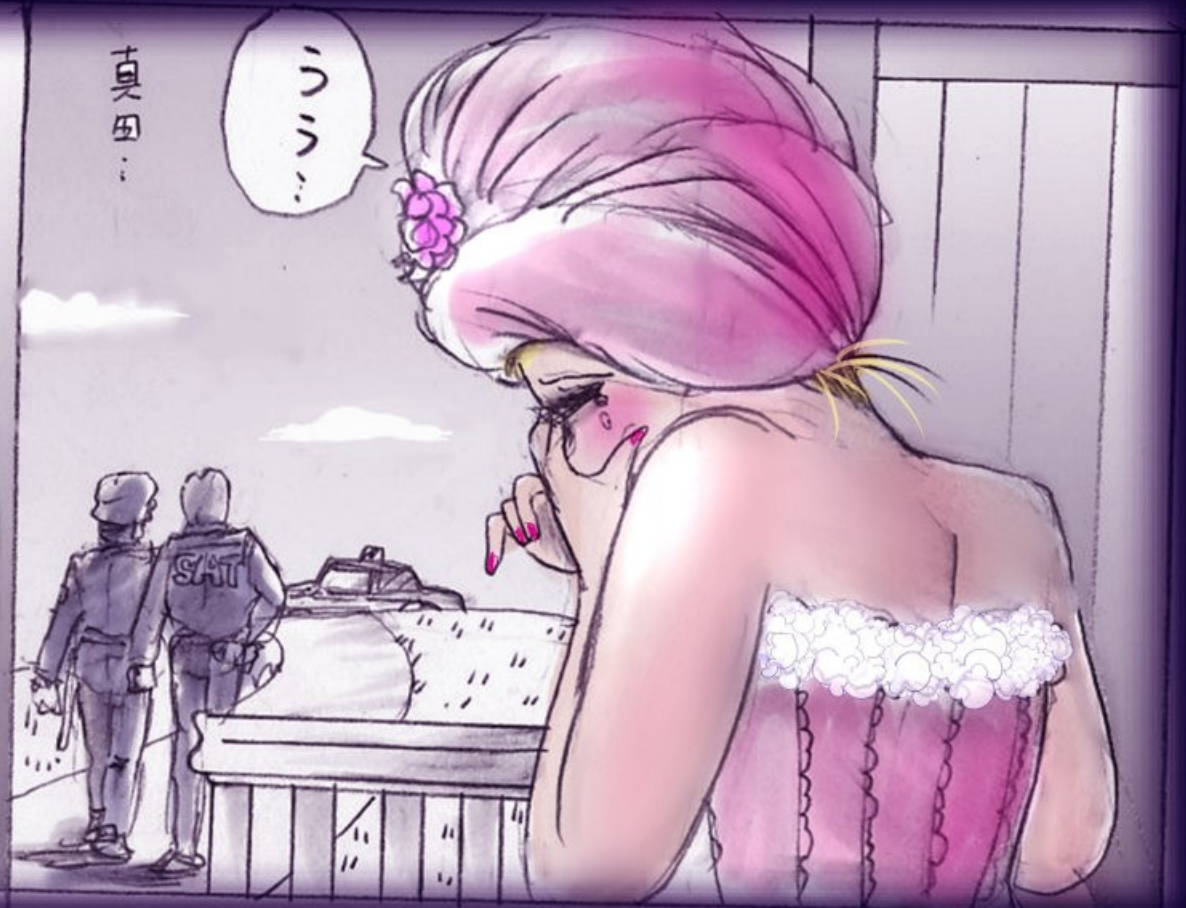
Plin

Plin

真人は真子として生きることを決めたのである。

しかし真田は、彼女とはまた違った決心をしていた。





真田

ううう



バレちゃたかなう
厚化粧のオカマになっちゃたの

ううう

どう？
真田隊員
って親友
だったよね



魔薬化粧

あれから数日間、真人は
泣いて暮らした。

涙も枯れ果てた頃、
どうしてか
真人の髪は伸び
女らしさが一層増していた。

もう自分の身体に何が
作用しているのか
危惧する気力は失いつつ
あった。
元の自分を忘れていく自分。



ふと、鏡台に並んだ化粧品が
視界に入る。...

それはいつも並んでいるものだった。

普段は気にもしなかった
真っ赤なルージュ。

なのに
真人はいつになくその色に魅せられる。

沸き上がる欲情…



どうしたのか…

目の前のルージュが気になって仕方がない。

やがて
押さえようもない衝動が真人の脳を包み出す。

体中がそのルージュを求めている…

そんなはずない…
いくら格好やしぐさを女性的なものに変えられても自ら女らしく化粧なんて…

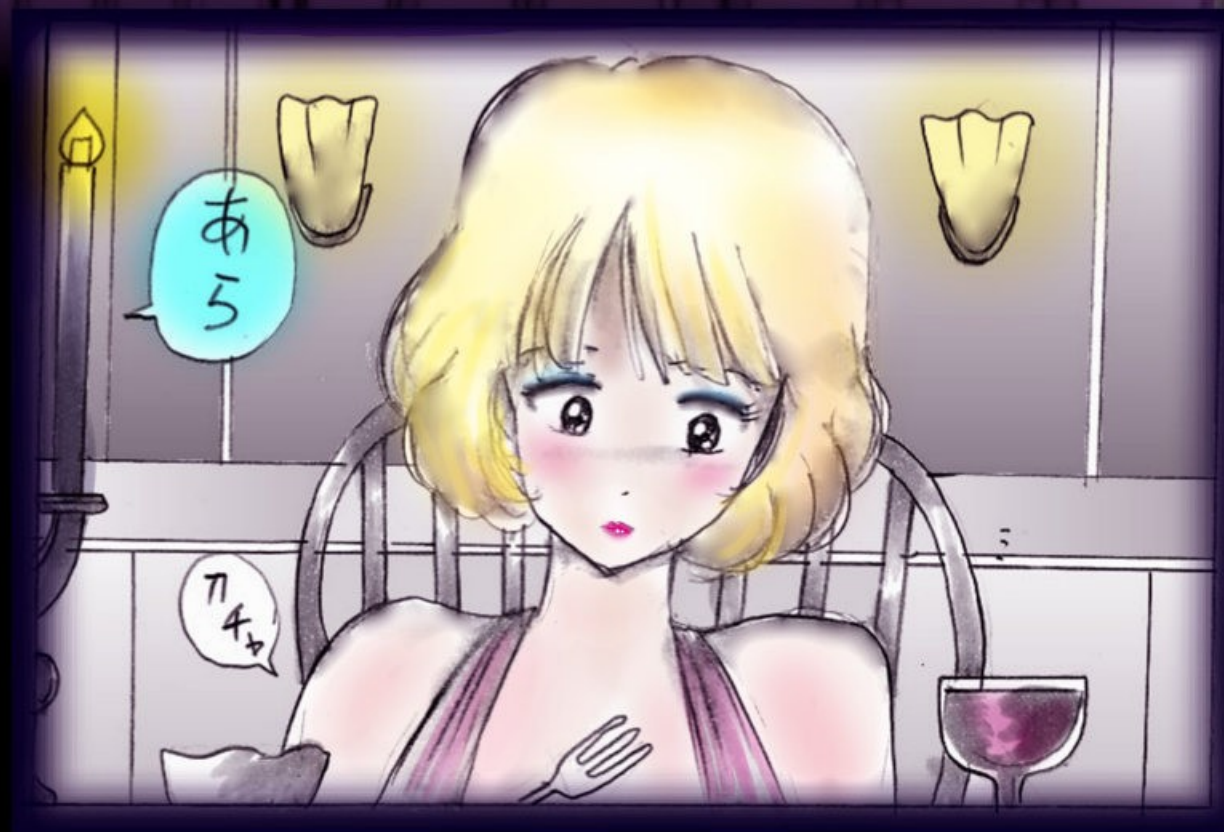
しかし、そんなためらいも
いつしか消えていく…

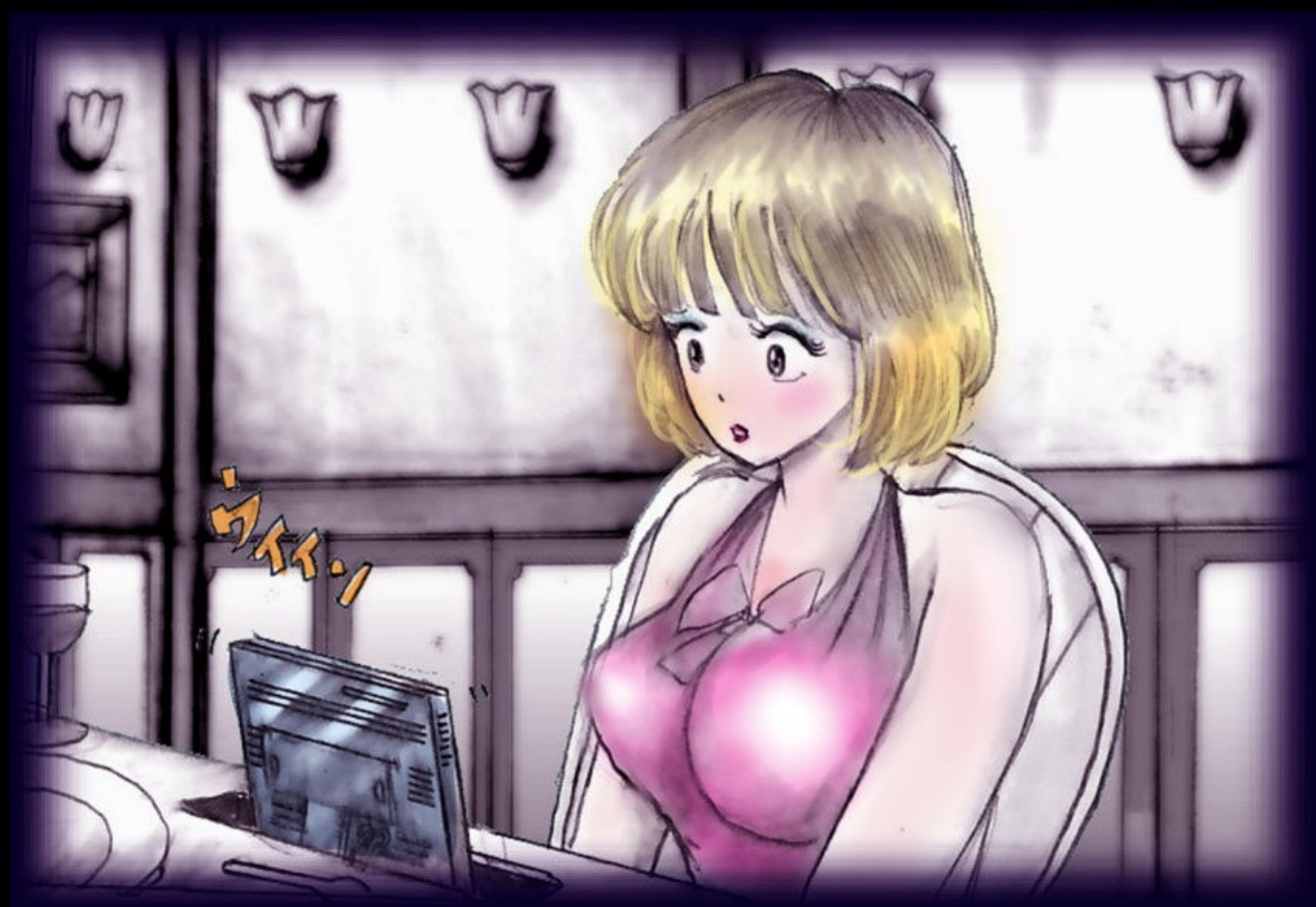
眼前の真っ赤な先端が
を見つめ生唾を飲む…
真人。



ゴク…
ゴク…

カチャ...





特警第四小隊の
待機事務室監視カメラの
映像よ、なつかしいぞ、

何か入ってるかも

お！

真子ちゃんのか
調べてるみたいよ。

なんだ？

小隊長の机中、
何入ってた？

化粧の…
コンパクト

パカ

LOVE

うわ化粧臭くっせー！

違う、そんなの、あたし
入れてない！

おいパンスト

入ってる！

香水も

わあくっせー！

おい女物の下着も入ってるぞ
くっせ、香水くっせー！

おい女物の..
フリフリの..



ちがうわ

あたしの
じゃない！！

女物のハニカキ..
うわっくっせ..
香水の臭い！！

おい..
化粧や..
入ったぞ..
隊長の引出し
に！！



違う！
誰かが
入れたの！

ちから

こうへーこれ
口紅ふいた、
ティッシュで
まじがよ

おい、もしかして…
小隊長、女装の
シムミあったのか…
お、写真！！
うっお！！

そんなの
あたしのじゃ
ない！違うわ！

か4+

とうとう、真子
ちゃんの素敵な写真、
本部4階の掲示板に
貼り出してたよ。
見るう？

サカキ！
4階モニター
映して。

syers

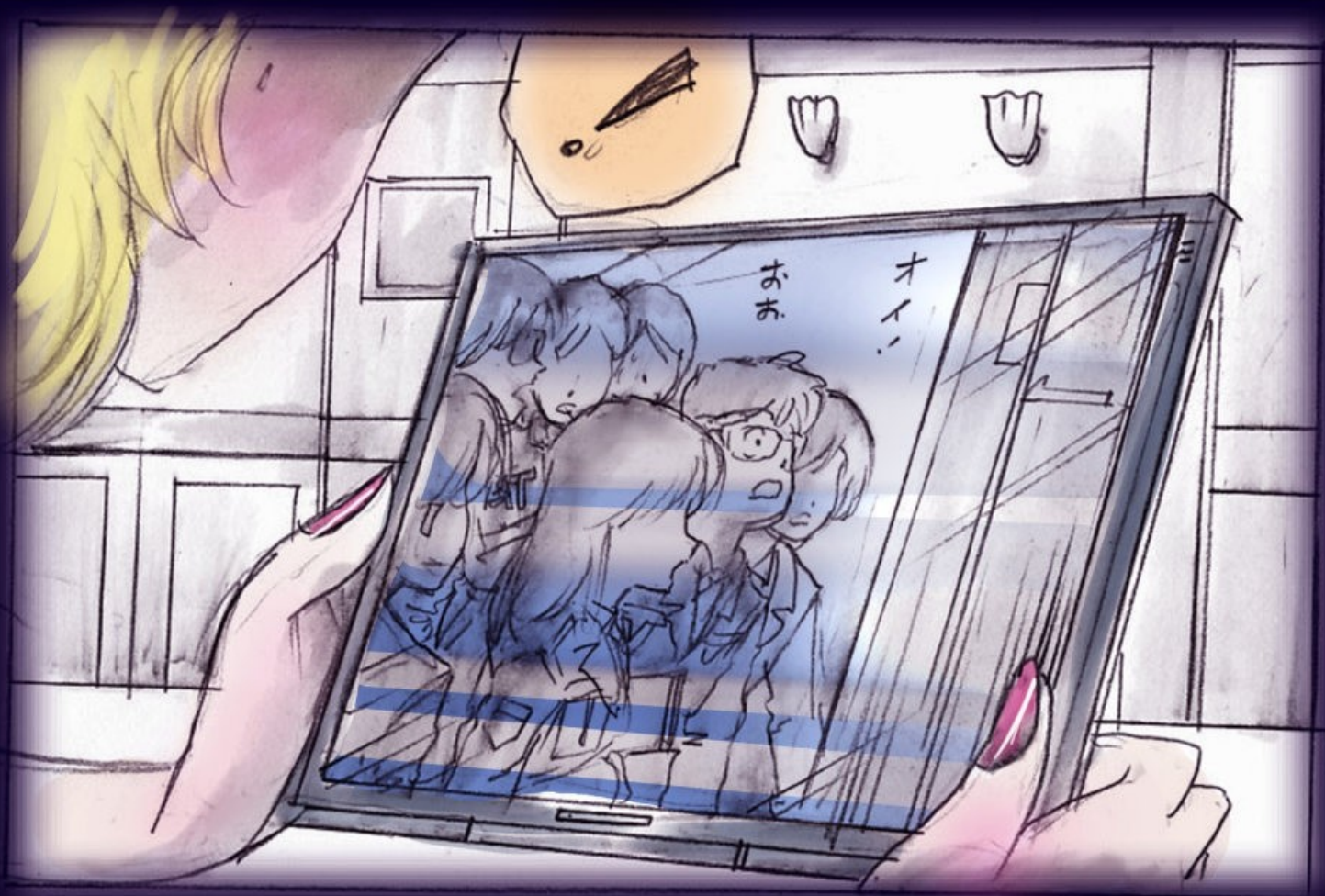
「yes sir!」

隠しマイクを通じてどこからか
榊三佐の声が聞こえた。

真人のモニターが特警本部四階掲示 板モニターに切り替わる…
真人の使用した回線から侵入させたミルダたちのプログラムは、
すでに特警本部内のあらゆる情報工作を可能にしていた…

ブォン

真人が見ていたモニターの映像がSAT本部4階の掲示板前
を映し出した



やがてモニターは、真人の職場の人たちが群がる掲示板に貼られた
幾枚もの写真の一枚をアップする。

そこには真人にとって予想だにしない己の姿がさらけ出されていた。

掲示板には真人の
女装趣味の写真がこれでもかと
貼りだされていた

女子になりたい
特警の真人隊長です♡

男 募集 集中

思っ 切っ 執っ い じや もー

きつも!

やだ、
サイテー

おい特警の隊長
おかまだったんだ、



やだ、
サイテー

思いつく
救いじゃない





わかりきっていた。
ミルダたちの仕業だった。
写真の捏造も所持品の仕込みも…

しかし職場の職員を騙すには
十分な仕掛けだった。



悔しい。これはウソだと仲間たちに叫びたい…

しかし…

実際には真人の見た目はもう胸には豊かな女の胸が形成され、
髪型も口調も仕草も、女性らしくされ、女そのものだった…

あまつさえ、男の前では 戸口に股を擦り興奮してしまう落ちぶれようだ。

もうこんな成りで、同僚の前で叫んでも、まったく説得力がない
身体にされてしまった…



いや、真人を信じる男が、ひとり、まだいた。



そして彼を監視する視線もあった。

ミルダ特務隊工作員
コードネーム ナオコ



真子さま
今夜は可愛くパーマを掛けて差し上げます

くるんくるんの
可愛い乙女ヘアーに
なりましょうね、
隊長！



カチャ…カチャ……

メイドは手際よく真人の髪にカーラーを巻いていく。

今日は可愛らしく
パーマを掛けられるのだ。

男なのに……

ふと…
メイドは顔を寄せ耳元で呟いた。

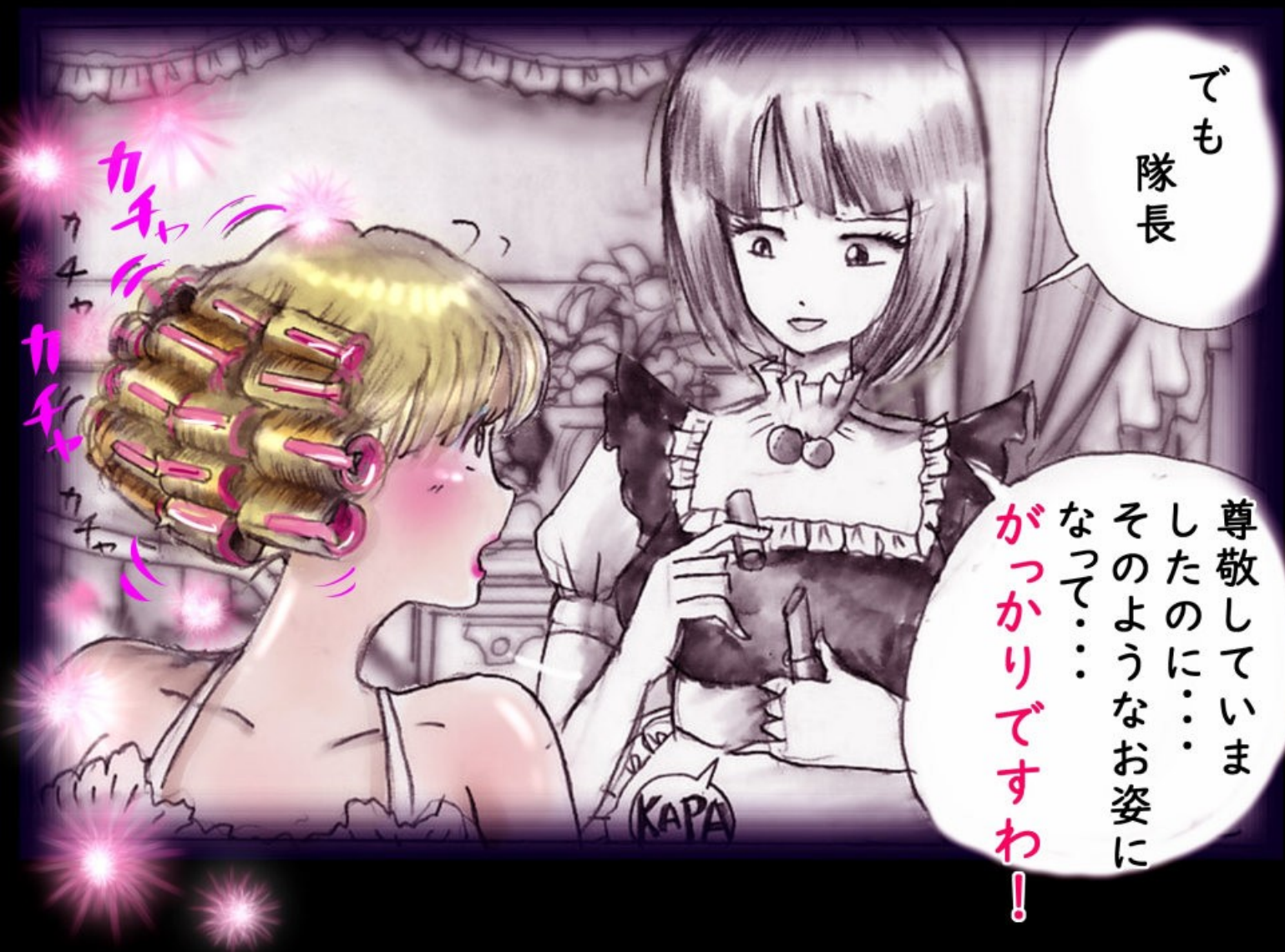


第三小队
突撃班
島崎です。
お綺麗になり
嬉しいです。
隊長

「島崎!? あの特警小隊切っての果敢な狙撃手!？」

そう、彼も真人より先に
メスクリンの毒牙にかかり変わり果てた姿となっていたのだった…

真人の頭に巻かれたカーラーが動揺し、愛らしく揺れる…

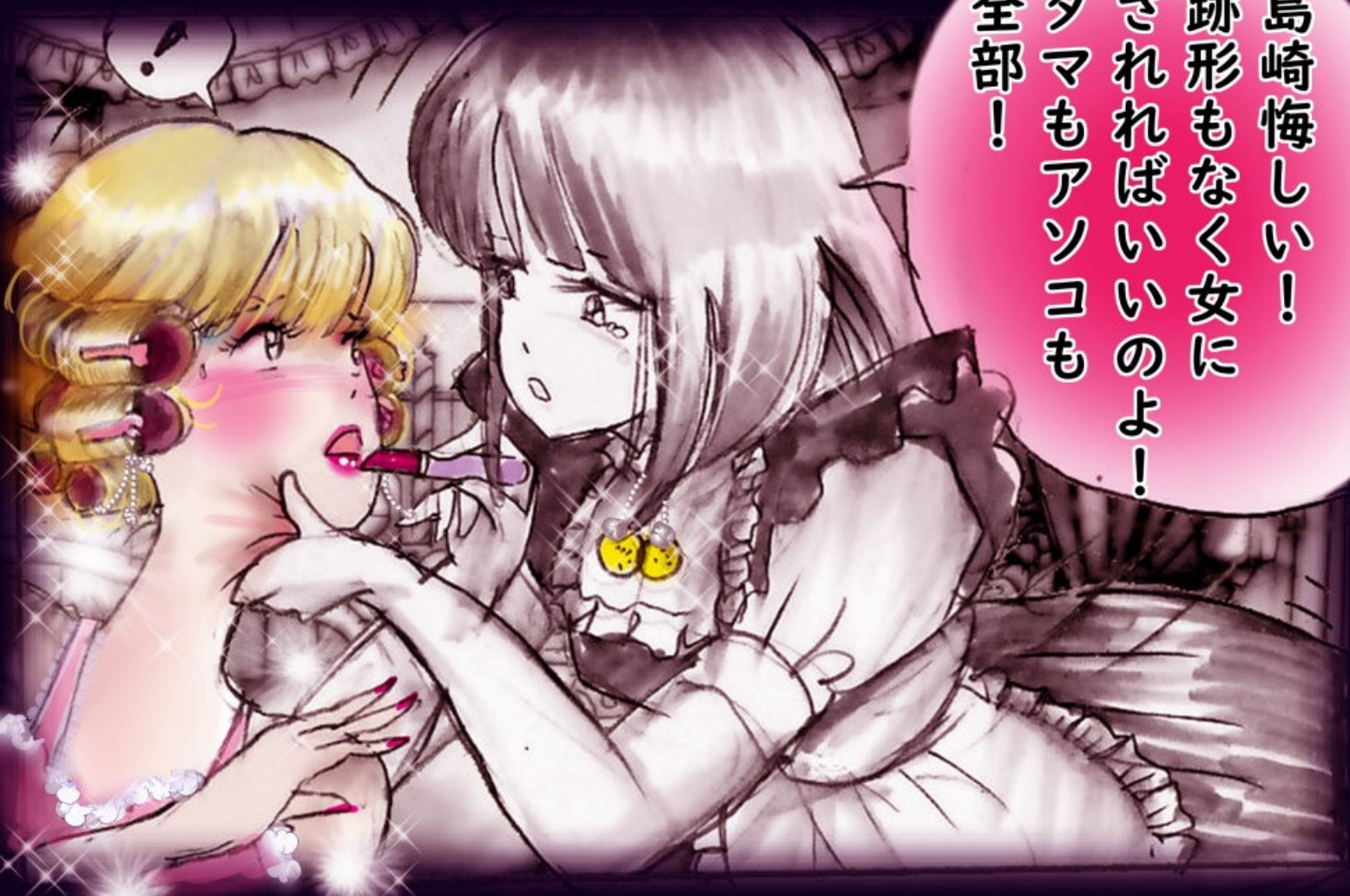


「男らしい島崎」だったメイドは、突然今の姿を呪うかのように
真人に己の感情をぶつけ出した…

己にされた処置を思い起こしたのだろう……

かつての上官と認知しながらも、あまりにも美しく変貌しつつある
隊長に複雑な感情が絡みはじめ、

「わたしより女に墮としてしまいたい」という欲情が湧いてきていた。



そして 島崎はついに 真子に**禁断のルージュ**を彼女の唇に塗ってしまった

別名「魔薬化粧」

あん

一度塗ったら一生辞めれない
禁断の魔薬ルージュ

ぐゅ……

島崎は抑えきれない
感情で思わず
真子の唇を奪った…

あん



己の唇で真子に二度と辞めれない魔薬入りルージュを
塗りたくる、
真子も何故か抵抗しない……
そう真子もすでに禁断のルージュの虜にされつつあったのだ……

ぐゅぐゅぐゅっ

2人のルージュの塗り合いが続く…



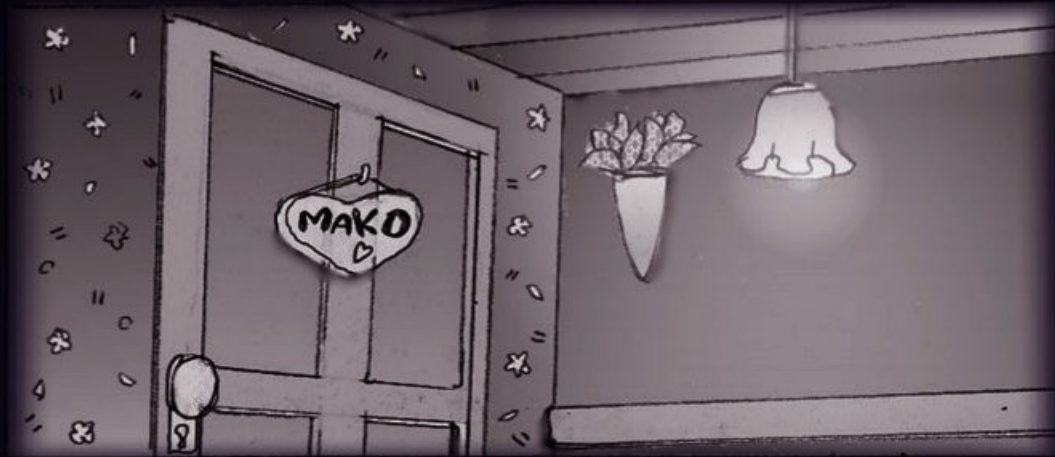
女となった元部下の島崎の濃厚なキッス

塗りたくられていく魔薬ルージュ

官能的な交わりに真子は
もう....

もう、女でいい...

そう思い始めていた....



ディープキスの
余韻無を残し島崎は
部屋を去っていった。

真子に巻いた
パーマロットを放置した
まま。

仕方なく寢床につこうと思い始めた時
真子に猛烈な枯渇感が襲う

塗りたい

塗りたい
塗りたい
塗りたい

唇をあのルージュで真っ赤に

塗りたい

いや唇だけじゃない
お化粧したい

顔中お化粧塗りたくりたい!

塗りたくりたい塗りたくりたい

なに!?
これ!?





先日、うっかり試してみた時とはまったく異なる感覚だ。
島崎の唇から塗りこまれてからその症状は劇的に悪化した。

猛烈な枯渇感。
呼吸困難。
全身の震え……

真人はその症状と似た薬物を知っていた。
麻薬類の禁断症状だ。

**真人は一生化粧していかないといけない
身体にされてしまっていた。**

ぬちょ.ちゅぱくちゅんぱちゅんぱ

静かな部屋に 化粧を塗りたくる音だけが響く。
女らしく巻かれたカールがカチャカチャと揺らしながら、

今、真人の中の「男」が消失しようとしていた……

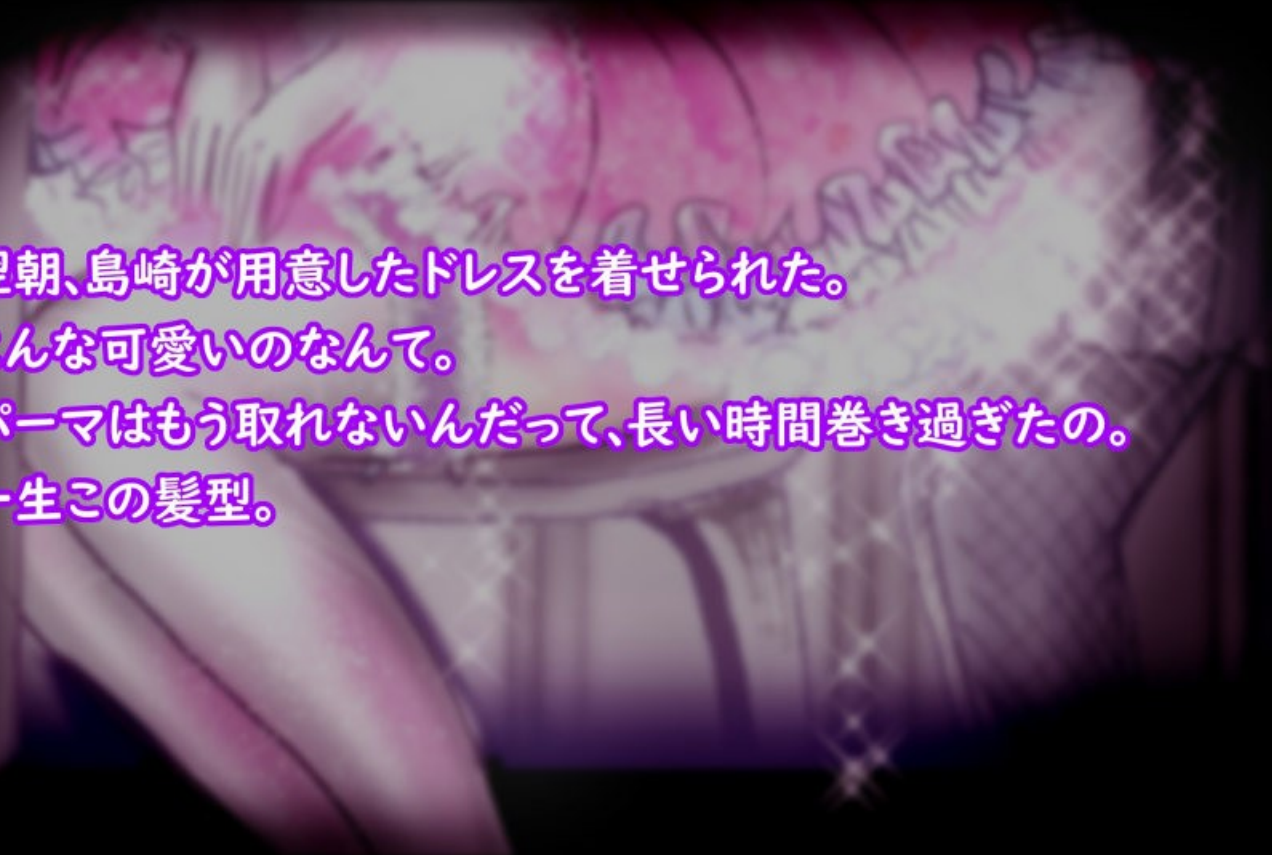


もう真人は生涯化粧しないと生きていけない…
しかも薄化粧なんて許されない。
ケバいいケバいい濃厚メイクをしないと耐えられない
身体になってしまった……

ちゅぱ あん ちゅぱくちゅんぱちゅんぱ
ぬちょ ちゅぱくちゅんぱちゅんぱ
あーん ちゅぱくちゅんぱちゅんぱ
あたしー いや、こんなの ちゅぱ 止めてー

睾丸摘出

もう戻れないんだわ、特警にも、男にも、……



翌朝、島崎が用意したドレスを着せられた。
こんな可愛いなんて。
パーマはもう取れないんだって、長い時間巻き過ぎたの。
一生この髪型。



メイクは…
メイクは、あたしがしたの。

嫌なのに、無我夢中で…
濃いすぎるわ!もう、いや!

臭いし! 化粧臭い、鼻が曲がりそう!
これも一生続くの……

あたしは特警第四小隊
隊長だった…
男だったのに…
姿も仕草も
みんな女！ 女、女、女！…





化粧臭いわよう

どーしちゃった
のお真子ちゃん。
自分で化粧し
ちゃってえ。



違うの

身体が！

身体が我慢でき
なくなっちゃったの
お化粧しないと
苦しいの！

ぷん

ぷん
ぷん
ぷん
ぷん

ヘンタイ

違うわ！

ふわ

女になん
かならな
いわ！

ぽりりん ぽりりん

元部下として
恥しいから
そんなの
履かないで
ください。

隊長お
イチゴの
パンツ丸見え
ですわ。

違う！
これはあなたが
無理やり胸揉み
ながら履かせて
あたし……
つい……

そんなに
女の子に
なりたいのね

じゃあ…

ちかう

ふっ

ふっ

アソコ

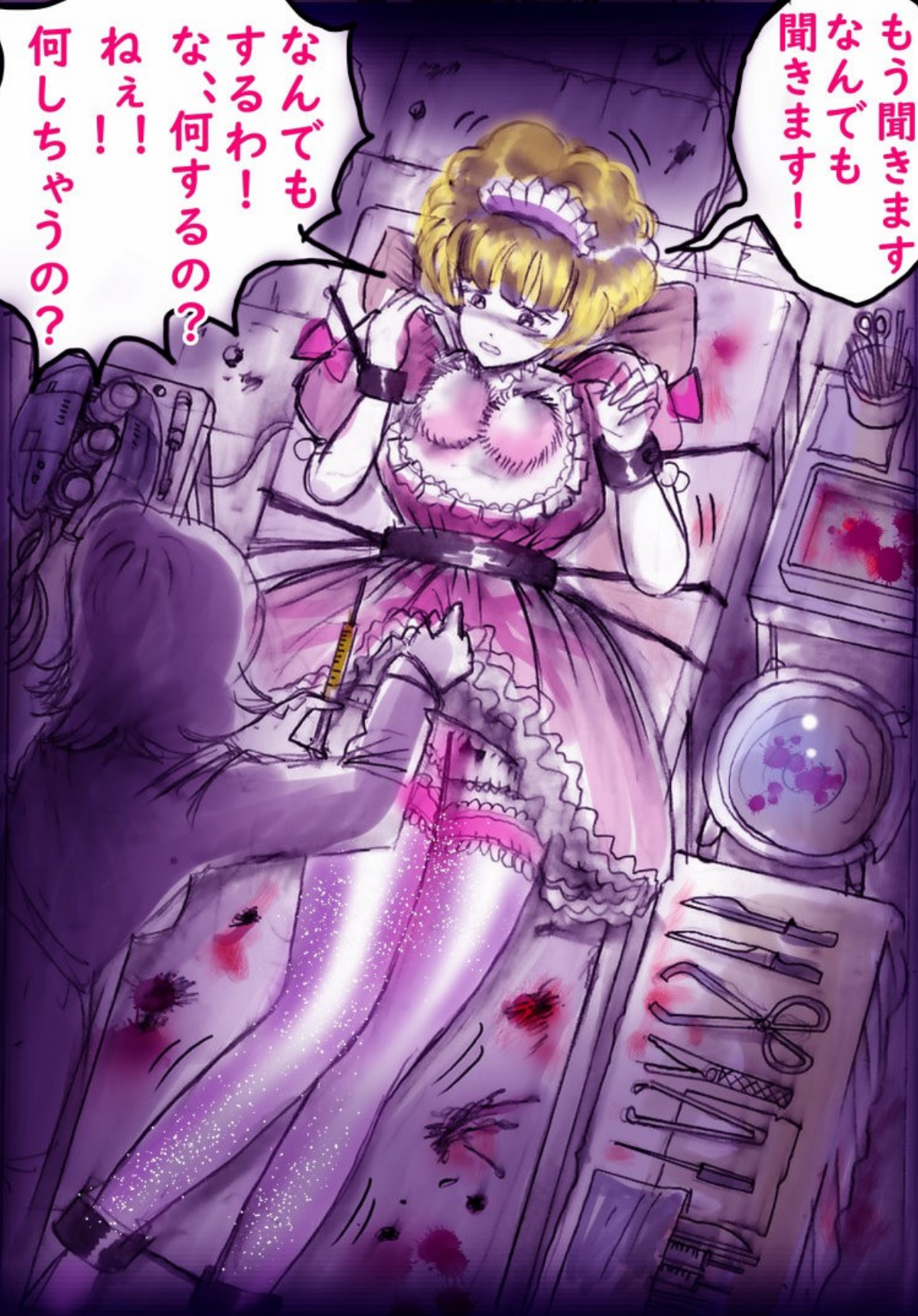
全部取って
花びらに
してアゲル
♡

ミルダ邸
オペ室

もう聞きます
なんでも
聞きます！

なんでも
するわ！
な、何するの？
ねえ！
何しちゃうの？

冷たいコンクリートの壁に囲まれた部屋にある
血の跡がついた手術台に乗せられ、
真子は身の上にかかる恐怖を悟った。そして懇願した。



玉抜いて

女の子の
お花咲かせて
あげる

い
い
わ
や
!!

い
わ
!!

おちんちん
麻酔するわね

まず玉は
ぬいて
アゲル♡

フフフ...

フフフ...

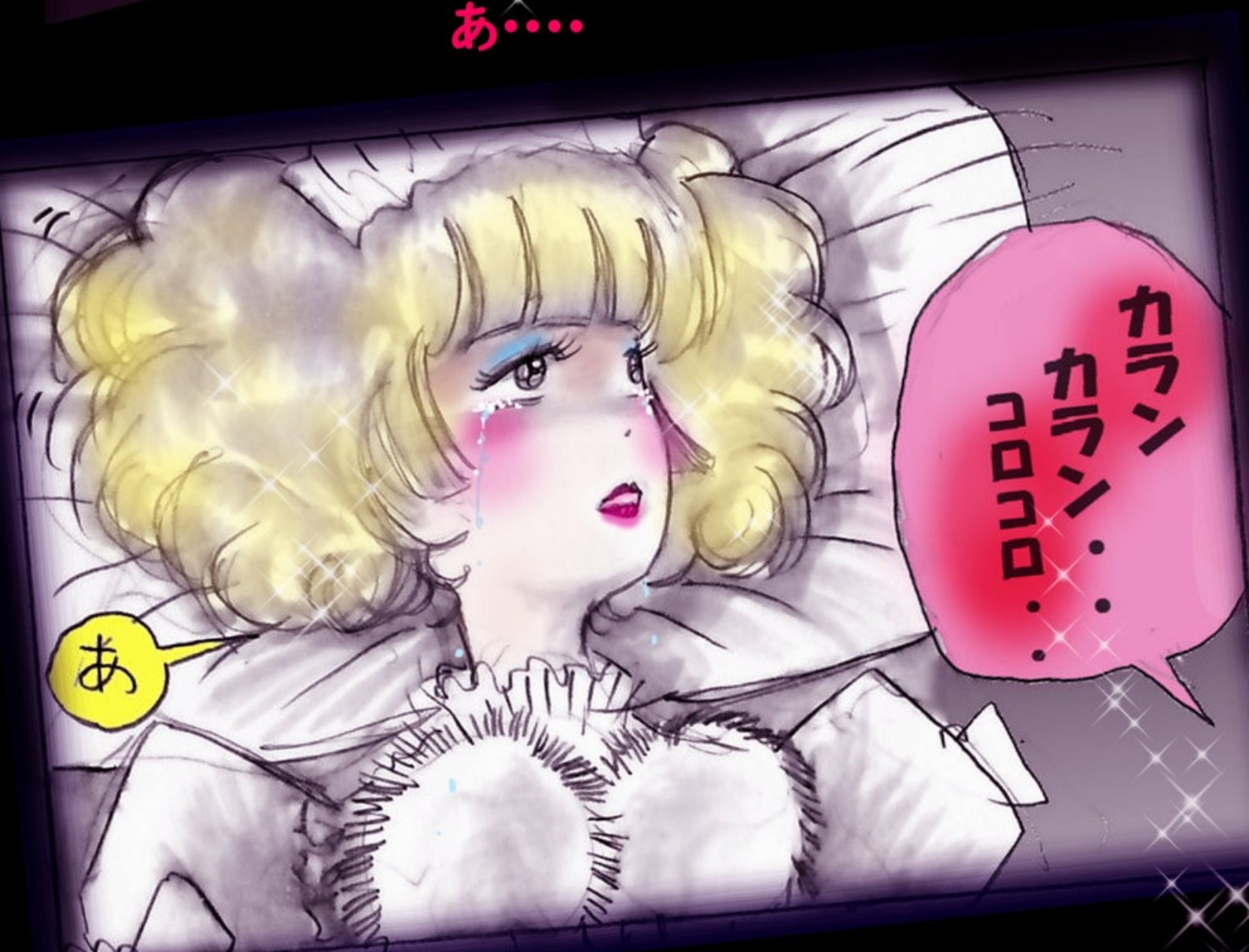
ひいひい
どわ...

ひいひい
どわ...

ほんとの
女の子になっちゃう...



あ....



それは、あまりにも虚しい音。 真人は今 真子になったのである。

イイもの吸わせてあげる



煙草よ。
心がね、物凄く厭らしい女性の気分になれるんだって

次の手術はね真子ちゃんのアソコ男取って女の子の花びら
付けてあげるからちょっと痛いの。

でもこの煙吸うとね、凄く気分紛れるからね。

どう？

女の子の気分になって来た？ それも厭らしい..



哀れだった…、あまりにも。

タマを抜かれ、男性のシンボルも切除されようとしている
現実を拒否しようとする自我を残したまま、
煙により女の身体になるためのメスを喜んで受け入れる
快楽に脳内を支配されてしまった真人。

やがて効能どおり真人にの心理に
強烈な女性化願望が訪れる…



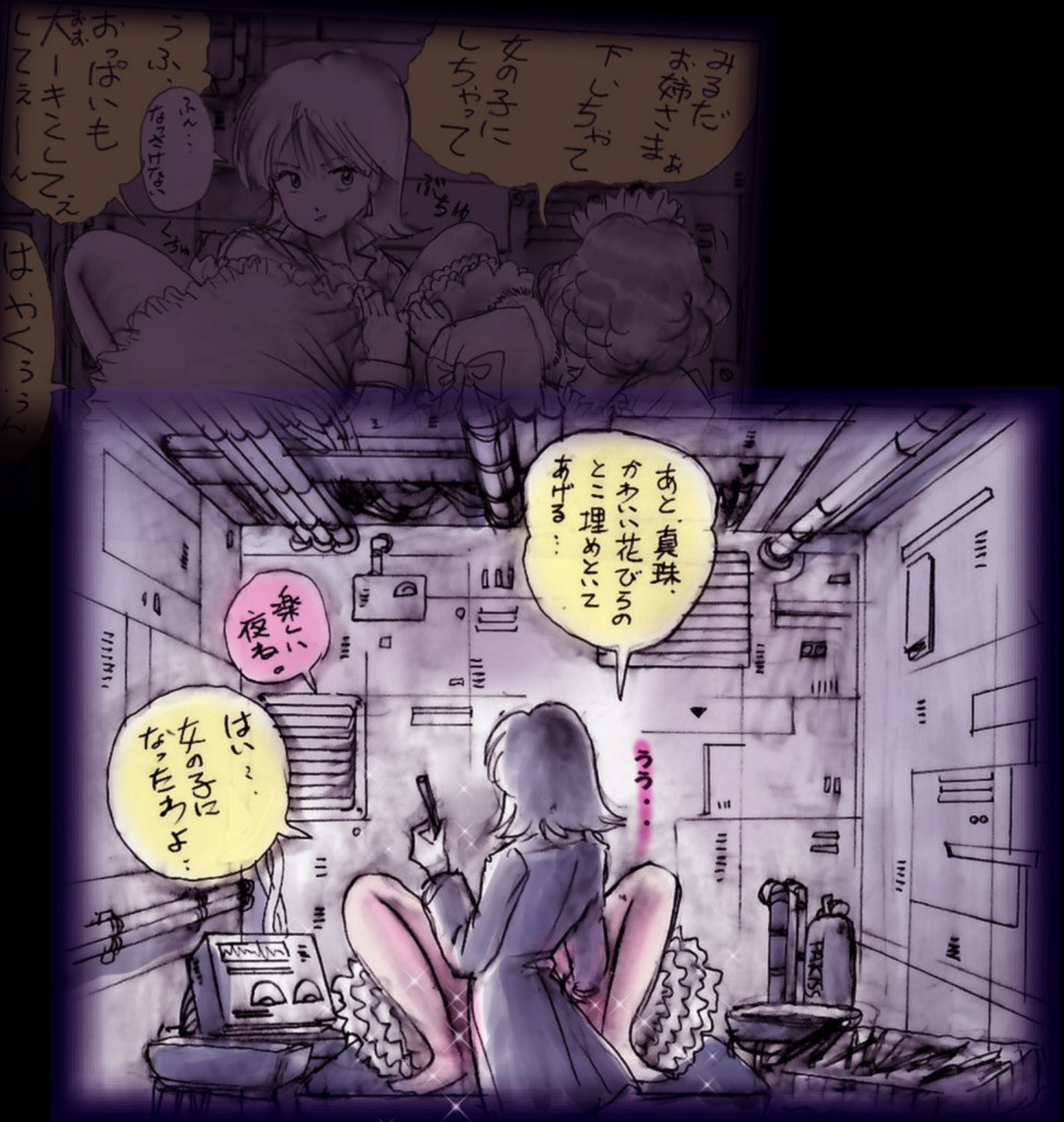
不本意なのに、薬で女になることをせがんでしまう真人。

それを知ってて、ミルダはわざと真人を罵る。

「情けない男ねえ」

じゃ全部切って女のお花埋め込んであげる

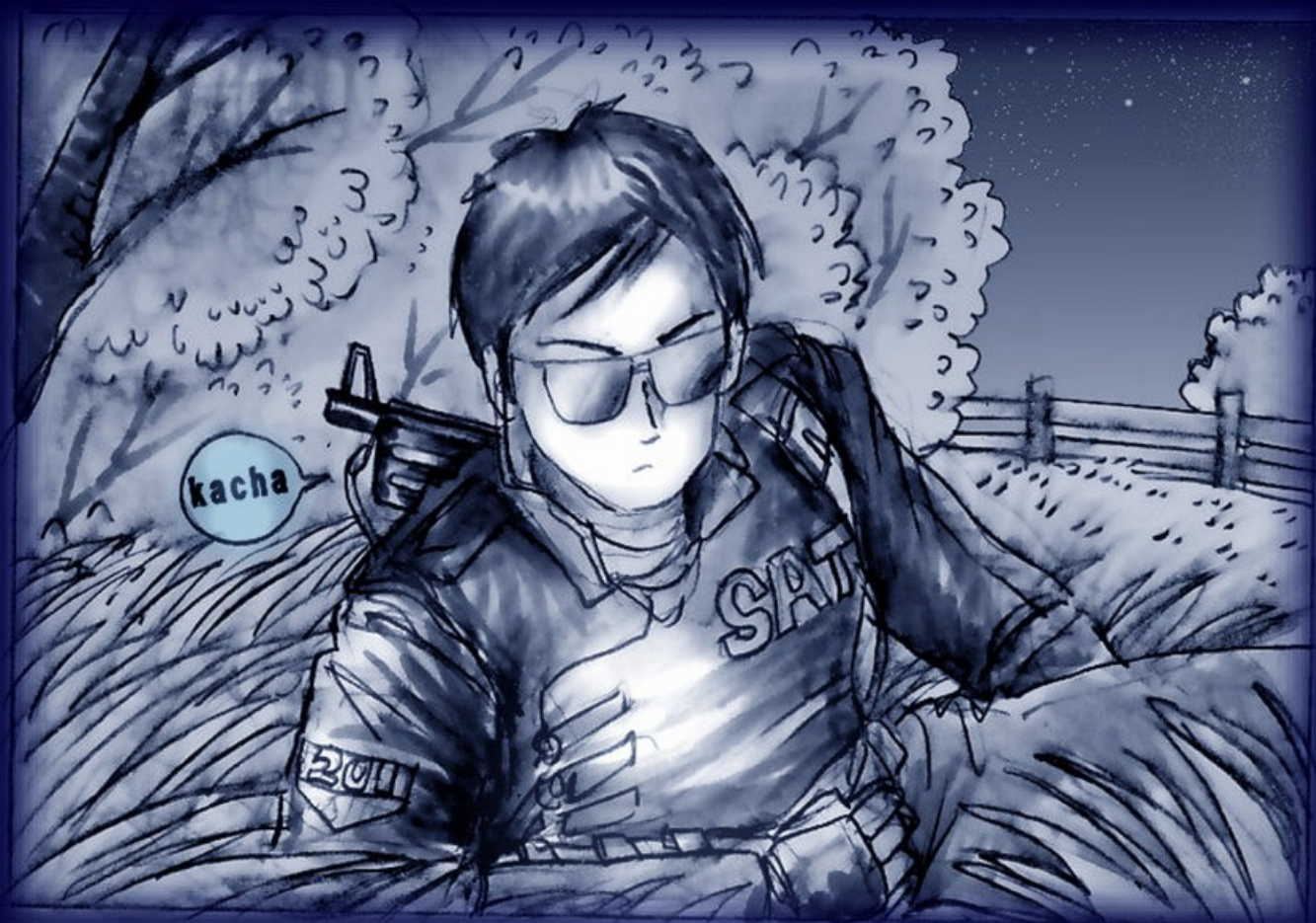


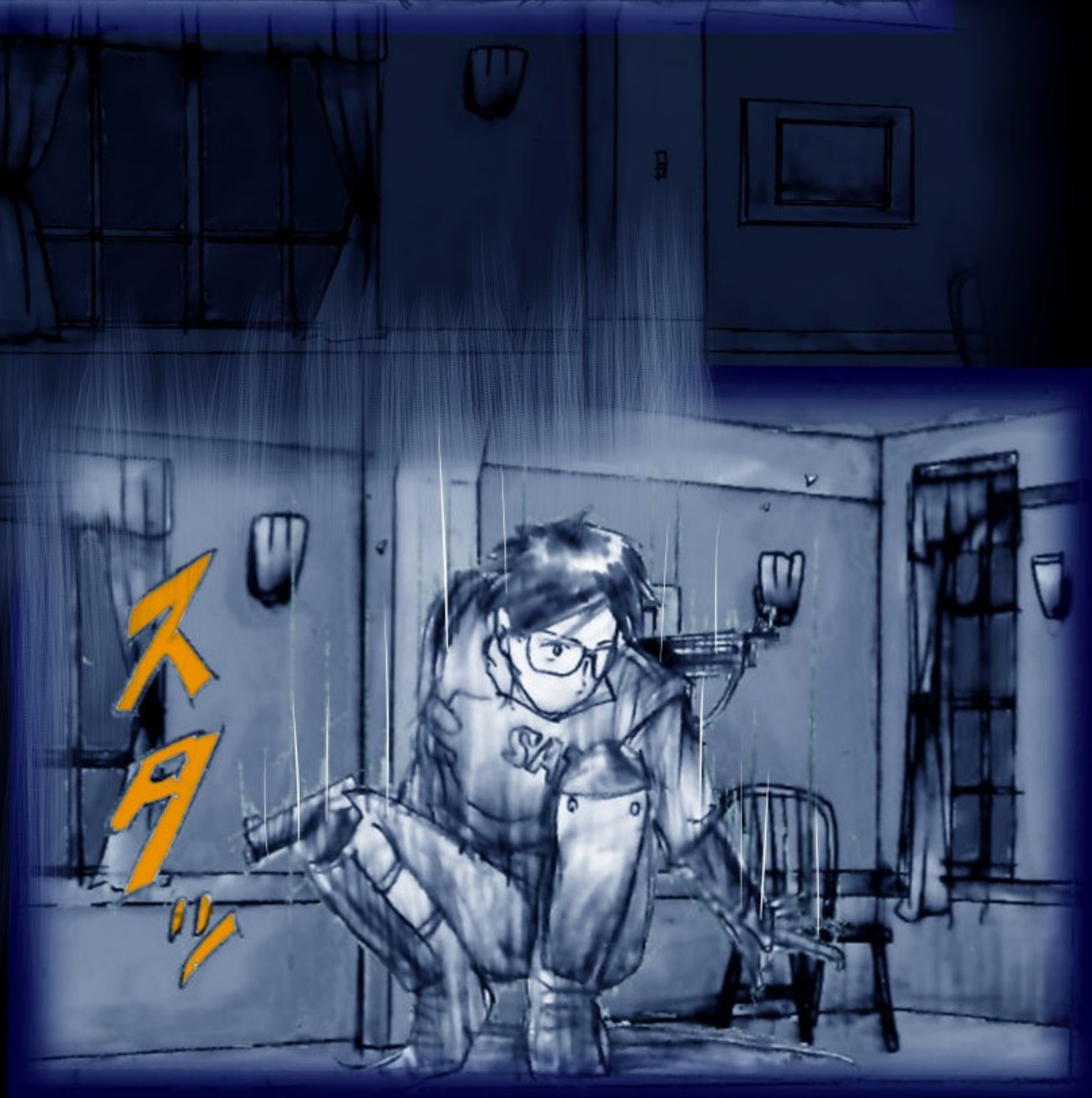


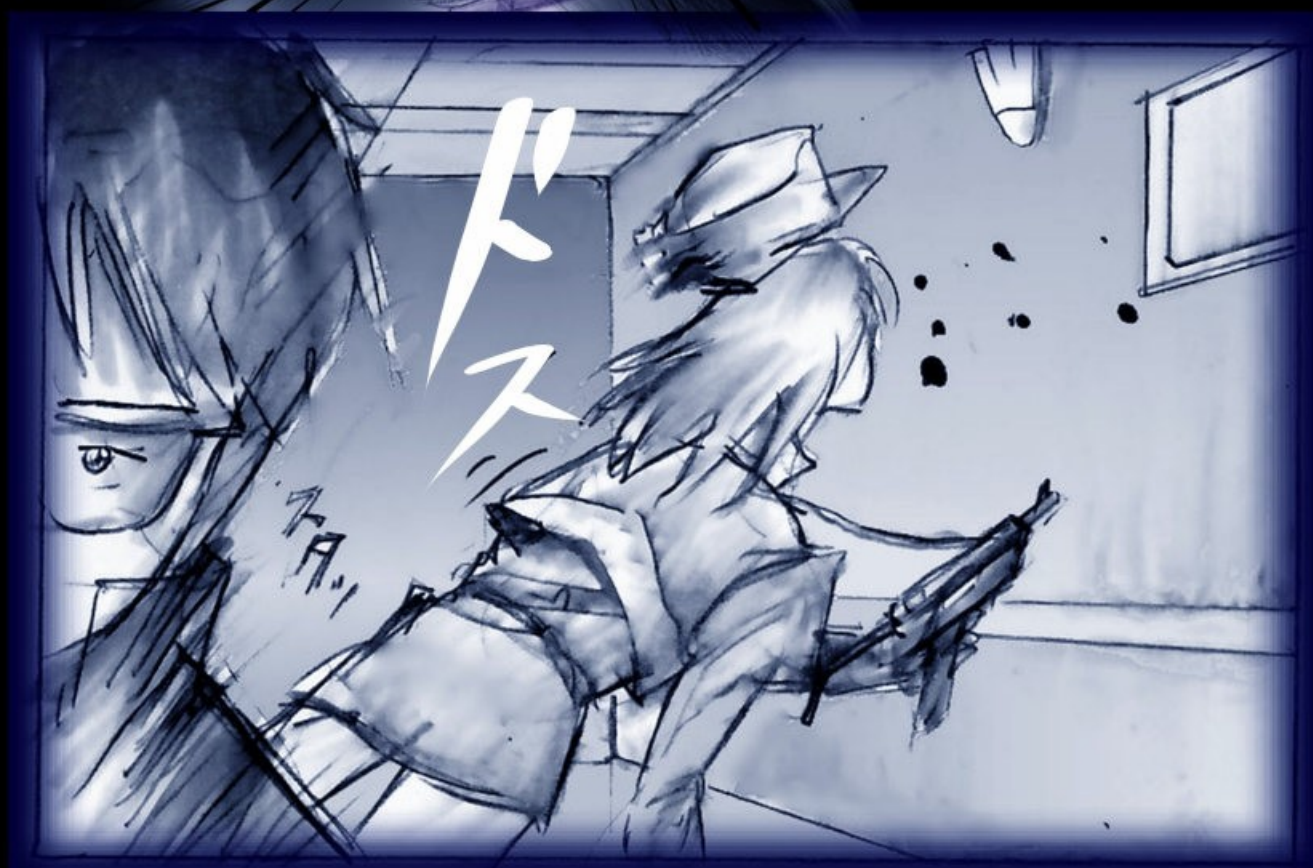
…こうして 女 真子は完成した。

手術台には男性そのものを切除され女性の割れ目を埋め込まれた「真子」がいた。

もう男にはもどれない。
真人は悔しかった、悲しかった…
真子は涙が止まらなかった。









ちがいのよ、
あたし、
お、お化粧なんて
してないわよ、
髪もずがうの
ちゃん
だけ

ちよとだけ
女の子みたい
さほをすけ...

SAI

ちよとだけ
女の子みたいだけど
違うの。
髪も伸ばされたの

耳のイヤリングは
ただの玉よ、ただの...

違うの
女っぽくない。
あたし男
でしょ？
ね、
真田！ね、



いやだったのー
女みたい
だからあー

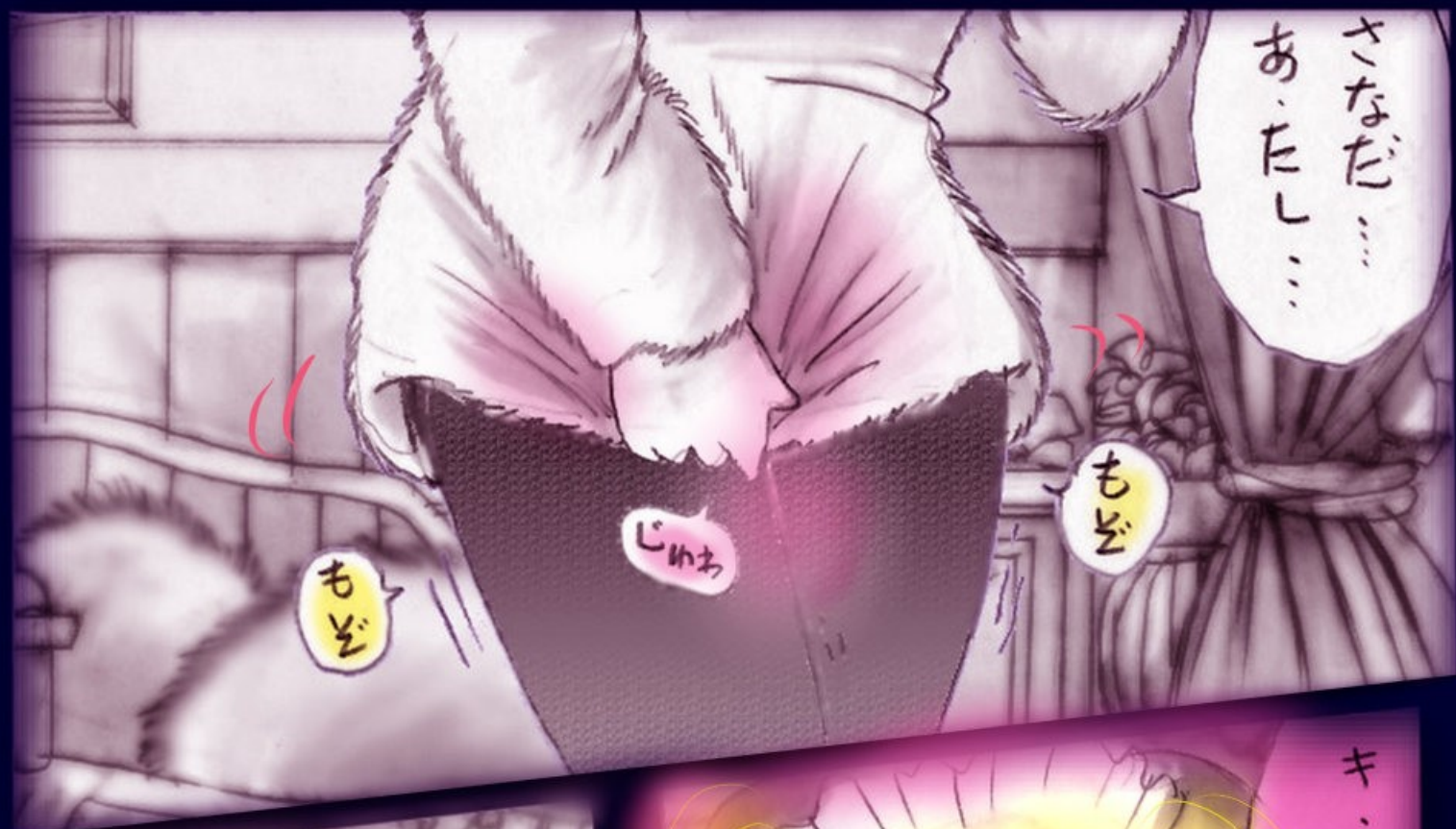
わあーん

真田
あー
あー



女にやあたの...
女にやあたの...
女にやあたの...



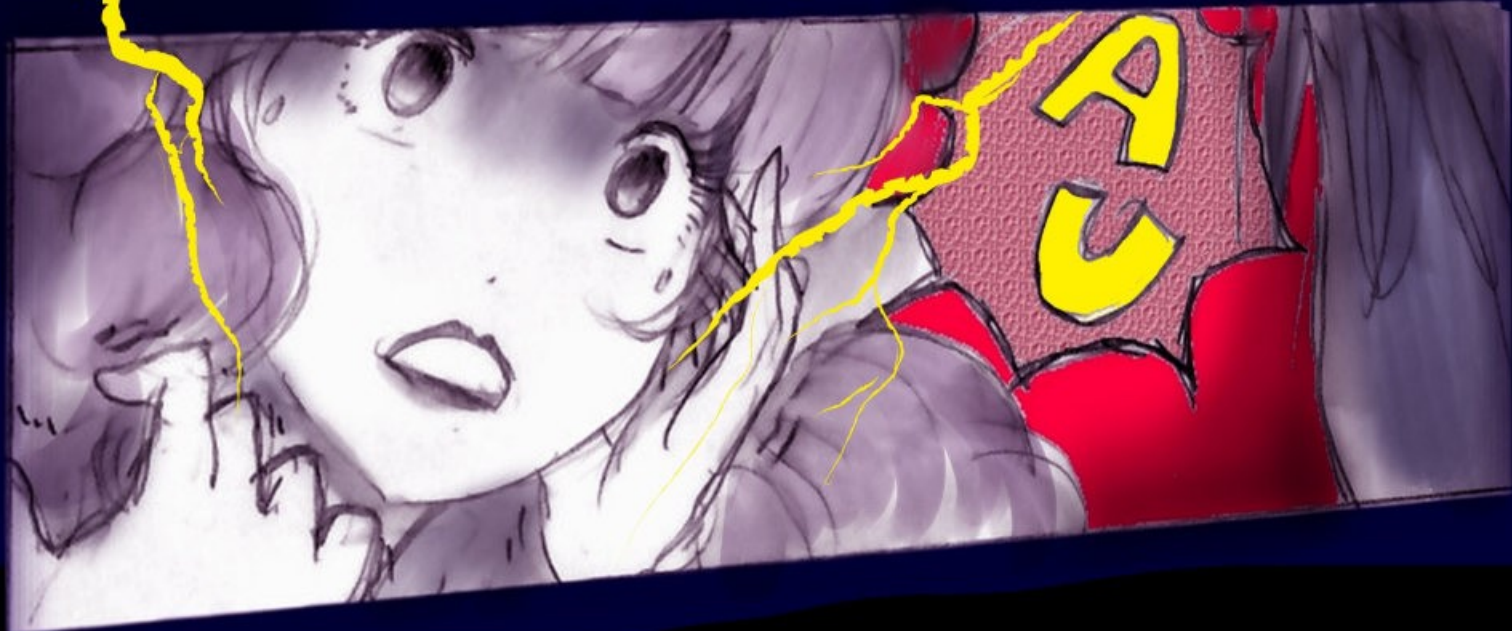




いや……いやいや！
真田の前で
キスなんて……
あたし……男なのに……

真人、おまえ……

そんなに女にされて……どれだけ辛かったんだ。





ぱん、ぱん、ぱん、ぱん！
ぱん、ぱん、ぱん、ぱん！
ぱん、ぱん、ぱん、ぱん！

真人は情けなかった……

どうして真田の前で化粧パフを大きな音を立てながら

己の顔を叩かなければならないのか…

あたひい
もう、だめなの、
ここでお化粧よ
しないと...

だめな体
に
されひゃたこの...

ううう

は、

は、

きゅ

きゅ

男なのに...

こい。
俺たちが
治してやる。





真子がいそいそと身支度をしようとしていたその時、
ドアに人の気配がする。

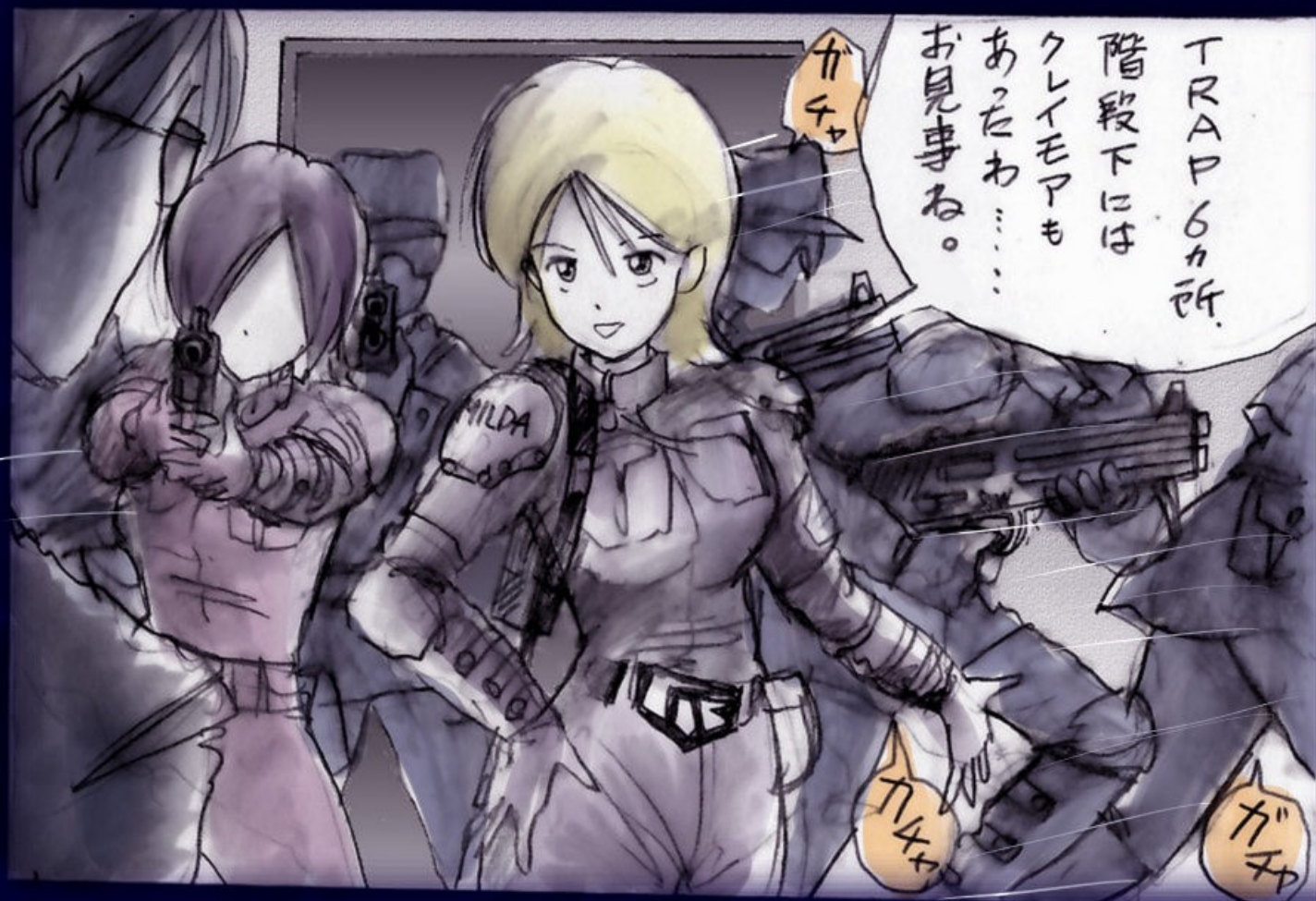


タイム アウト! 侵入者さん。

お楽しみ中ごめんなさい。
邪魔して悪いけど、そろそろ時間よ。

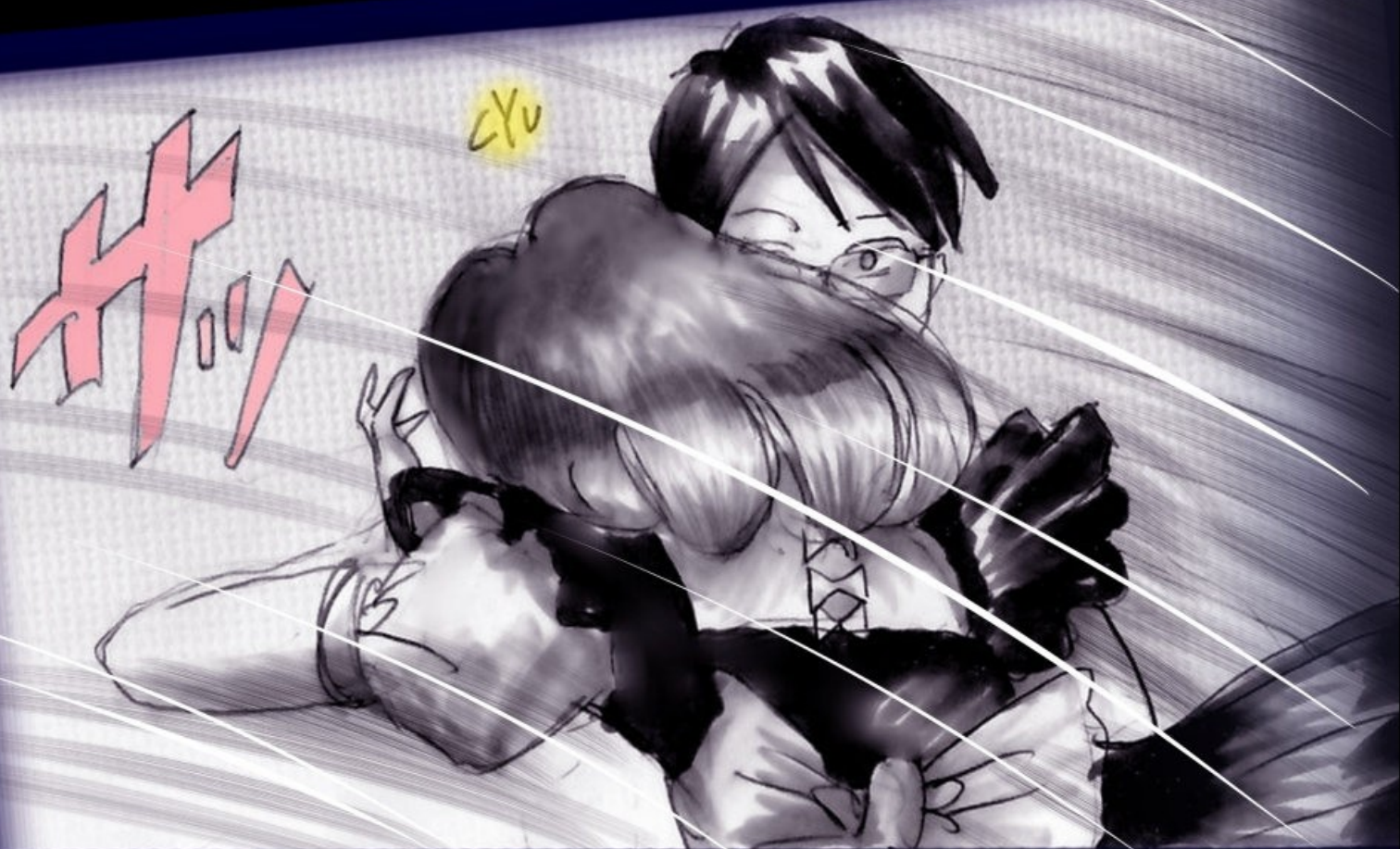


いつから居たのか、部屋の入りに完全武装したミルダ達が居た。



ミルダ邸には並の戦闘員では突破できない軍用トラップを仕掛けていたのだ。それを難なくクリアして侵入した真田。

と、その時 真田の視界に瞬時に入る人影があった。







我隊にも、とくに
支配を消すのが
得意な部下も
いるの。

ぶん

ねえ島崎

くく

でも…
玉ぬいて
お化粧する
よーになつてから、
ちょっと遅くなった
かな？



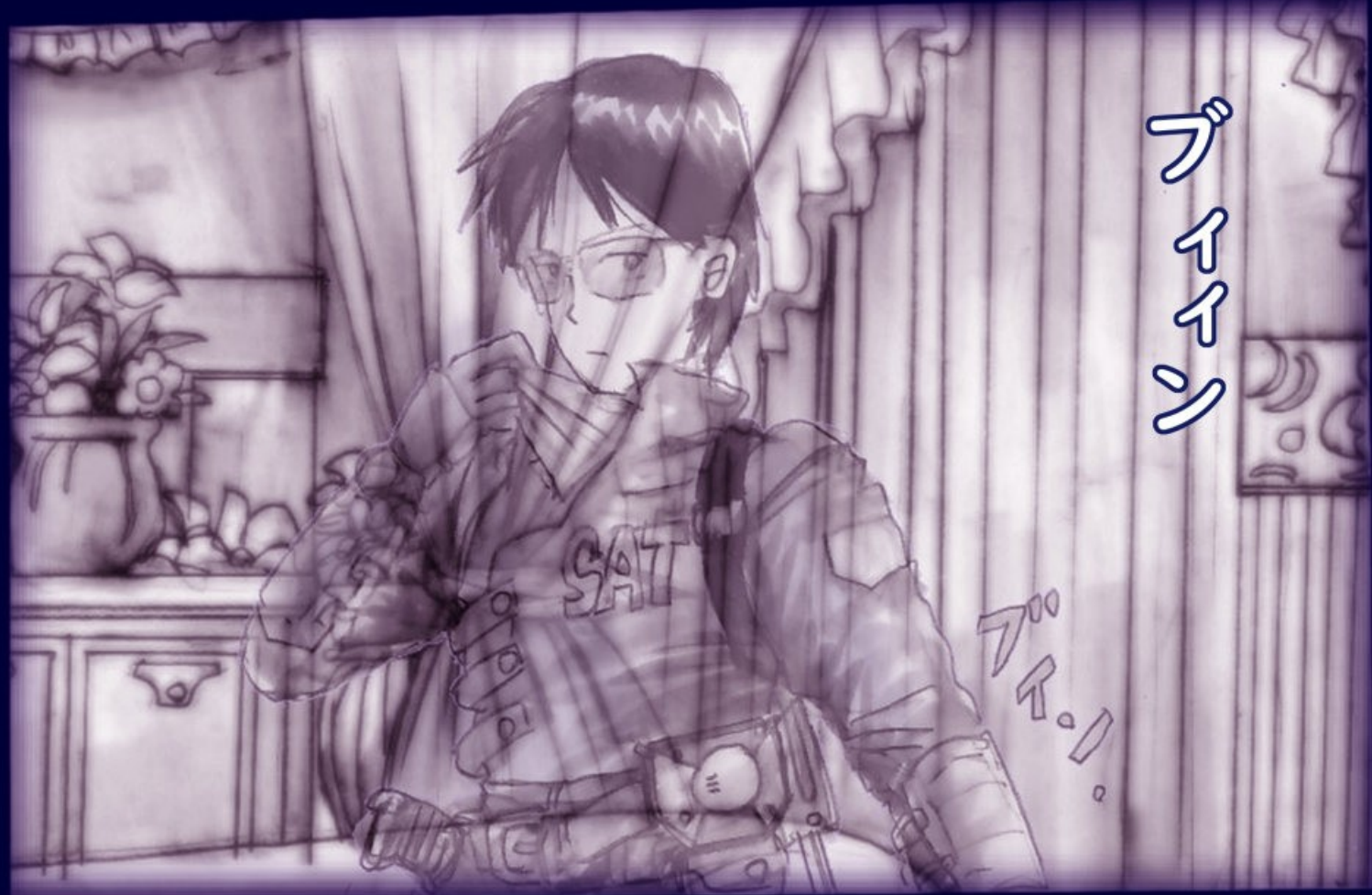






M
84
を使う
伏せろ
真人





ブイーン

ブイーン!

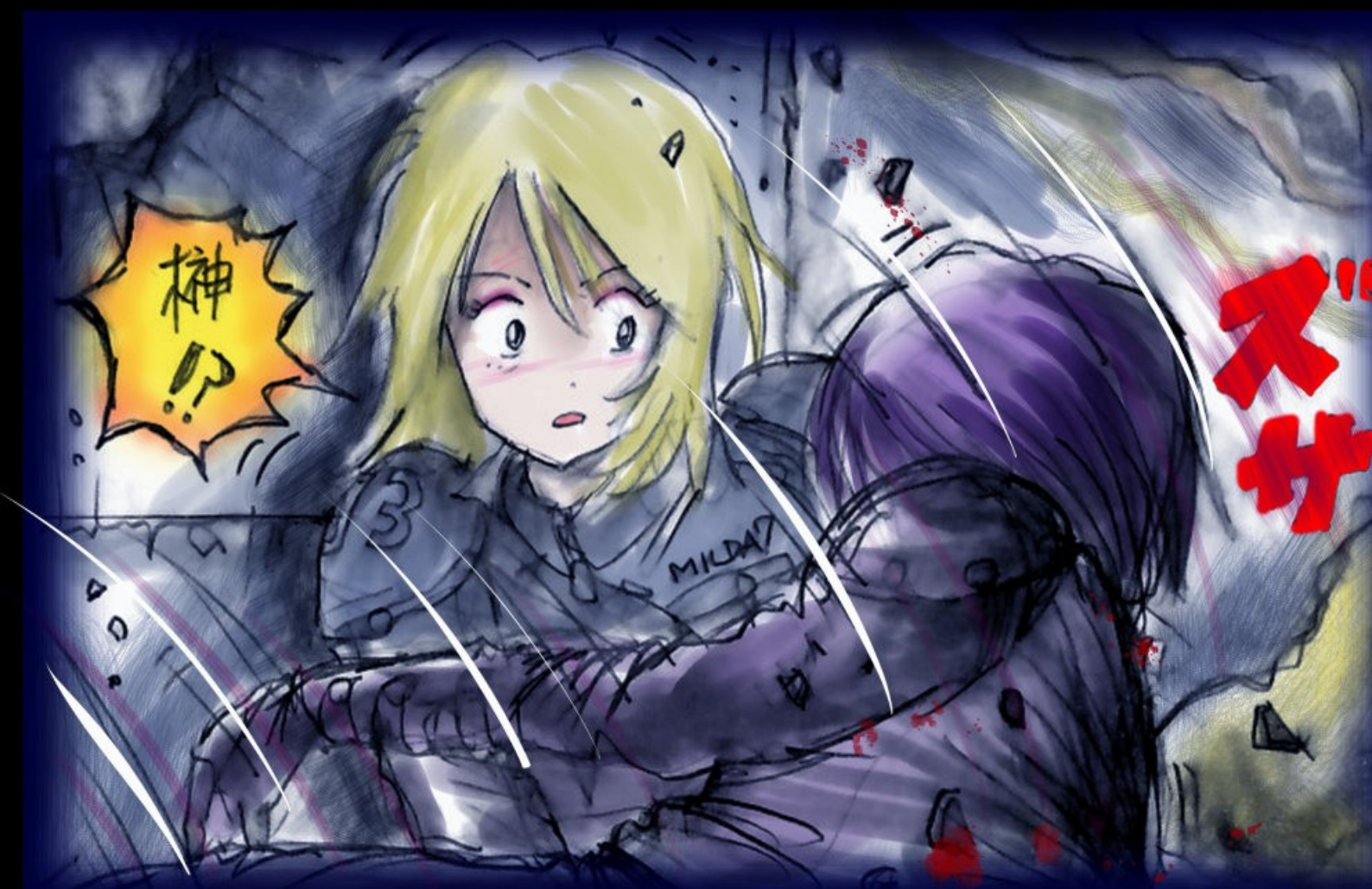


京レの
光学迷彩?

あなた
陸自なの?









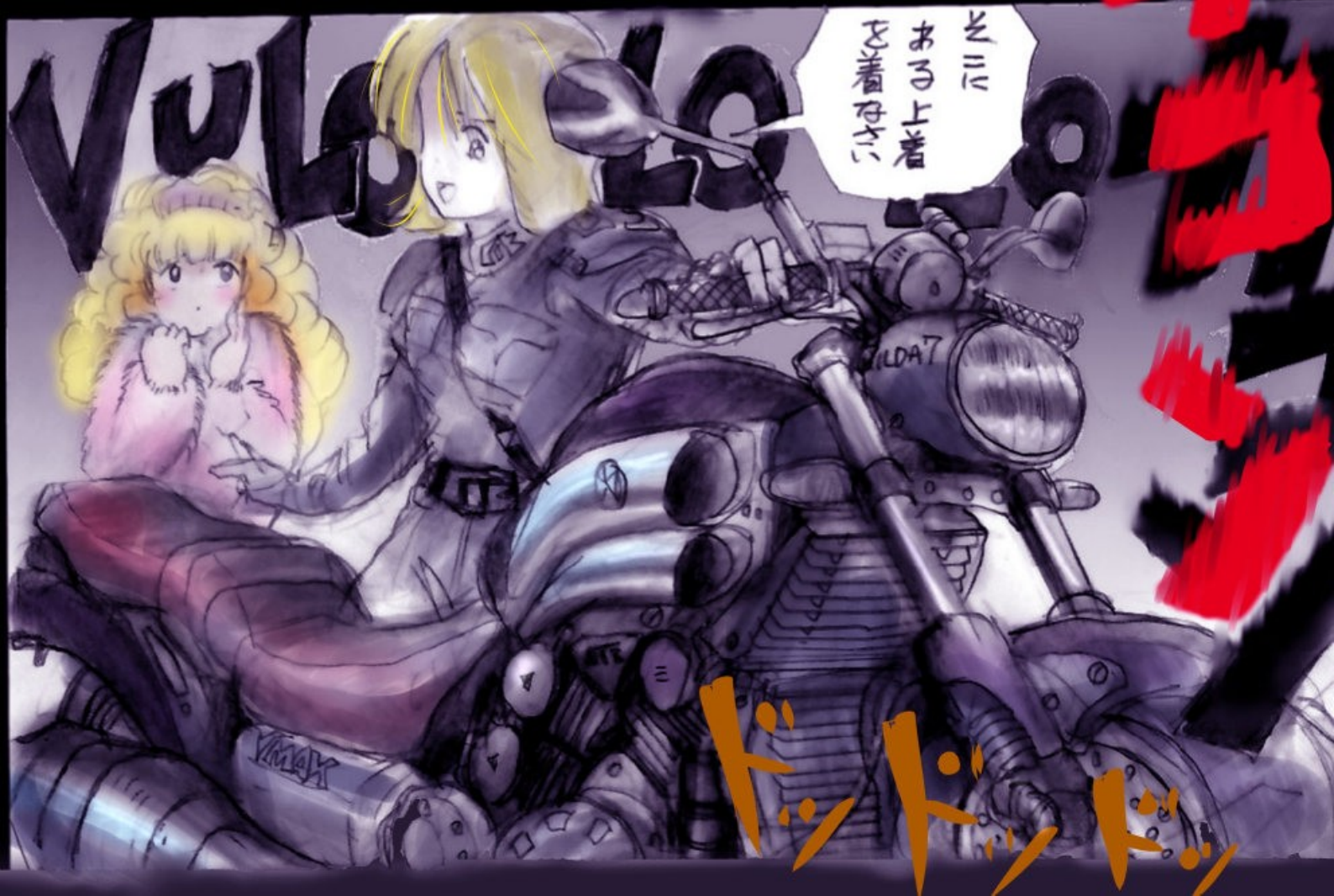
ジャリ、ジャリ…

飛び散ったガラスの破片を踏みつぶしながら
ミルダは家具の陰に隠れていた真子に近づいて行った。



ミルダの口調は荒かった…

怒・ミルダ





女にされた身体を、SATの部下たちに見せろと言う。
しかも下半身は何も付けずに....



そんな命令、受け入れれるわけなかった。

真子は懸命に拒否した。

しかし.....



ミルダの凄まじい気迫。

怒っていたのだ、櫛をやられたことに。

思わず地面へとへたり込む真子。
そして不本意に履かされてる女物の下着を
仕方なく脱ぐのだった……

情けなかった…



女にされて
履かされた下着を
部下に見せるために
自ら脱ぐ……

その生暖かい下着からは
熟した女の匂いしかなかった…



真人は力なく
自ら脱いだ女物のパンティ
を傍に脱ぎ捨てた。

男だった真人が
不本意に履かされていた
敗北感まみれの
生暖かい
女物のパンティ、



真人は今、できたばかりの女の下半身を外の空気に晒していた。

出来たばかりの秘部。
真子となった真人は放心状態だった……

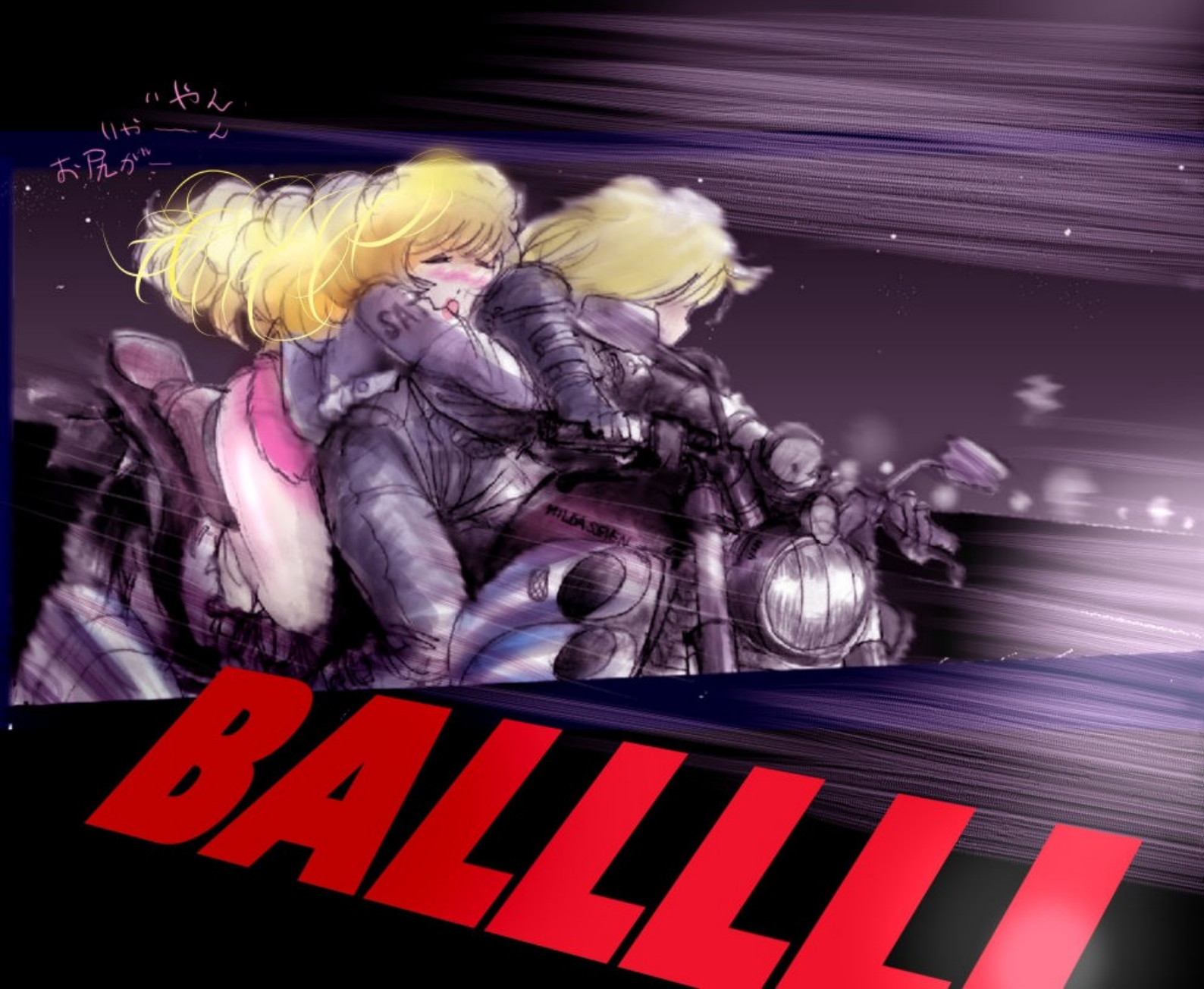
それらをまったく意に介せずミルダは「K」を無線で呼び出す。



メスクリン特務隊 特殊科学担当 K







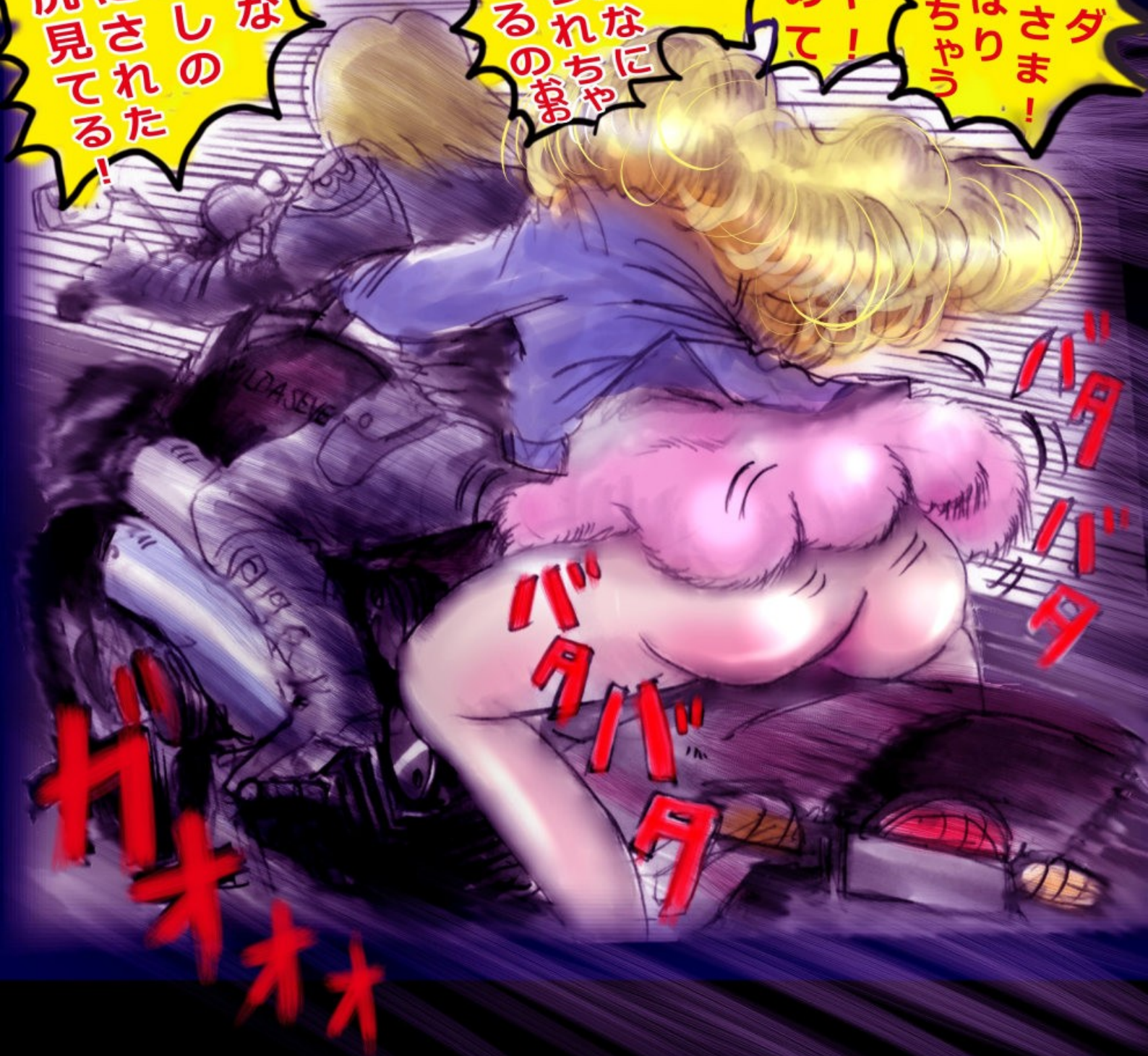
恥しい〜〜〜 - 恥しすぎるう〜〜〜

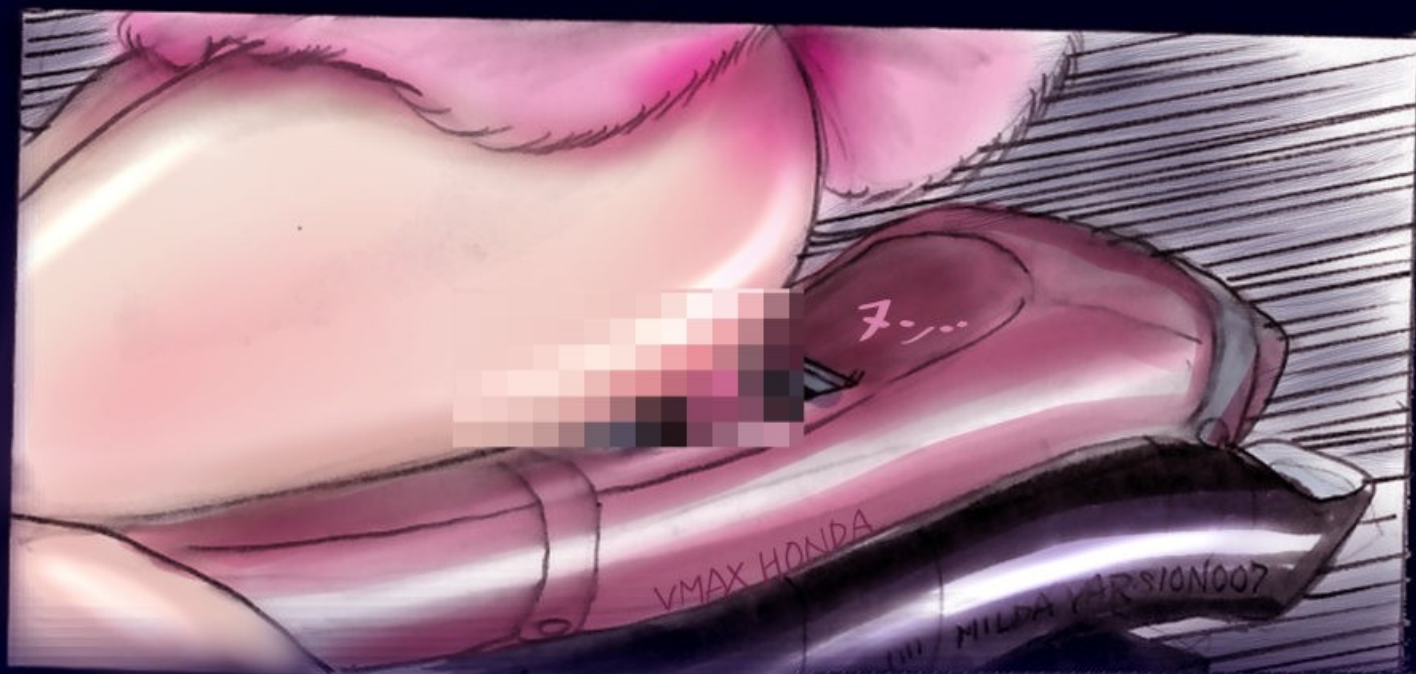
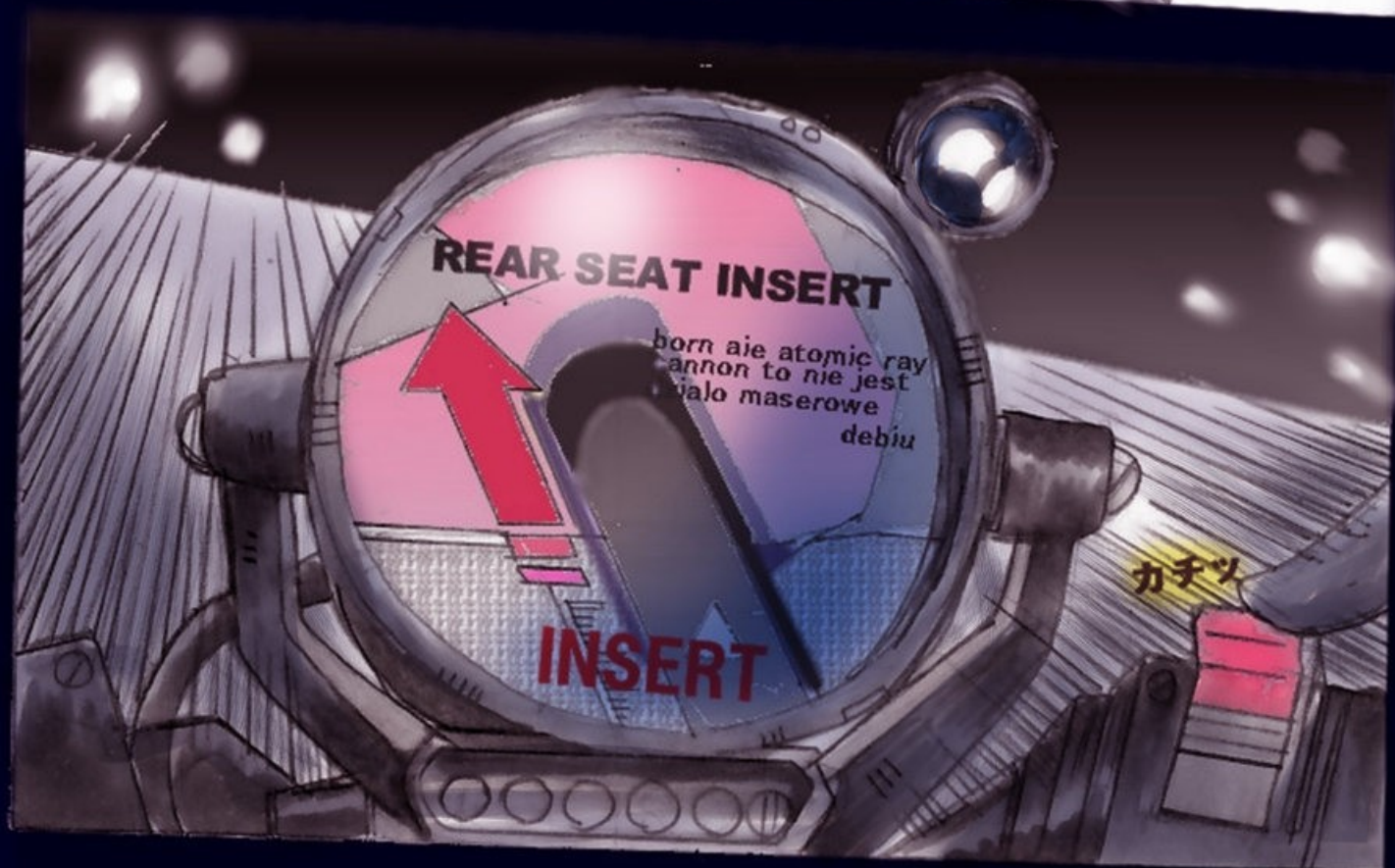
みんな
あたしの
女にされた
お尻見てる！

女のお尻の
みらんな
見られちゃ
つてるの
お

い
や
め
て！

ミルダ
お姉さま！
やっぱり
見えちゃう



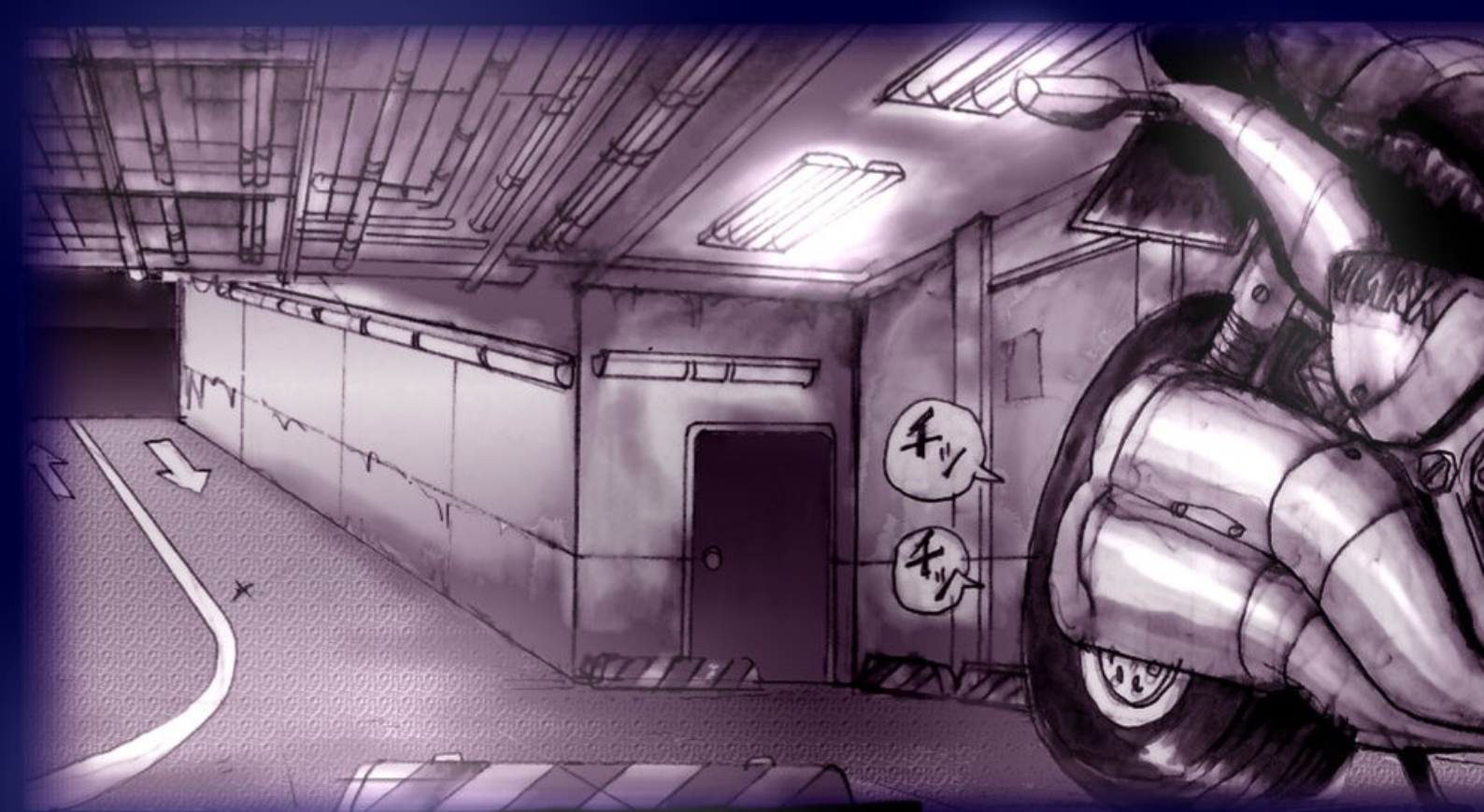






ピッ、

「ケイ、1分30秒後にSAT本部の地下駐車場のセキュリティを無効にして!」



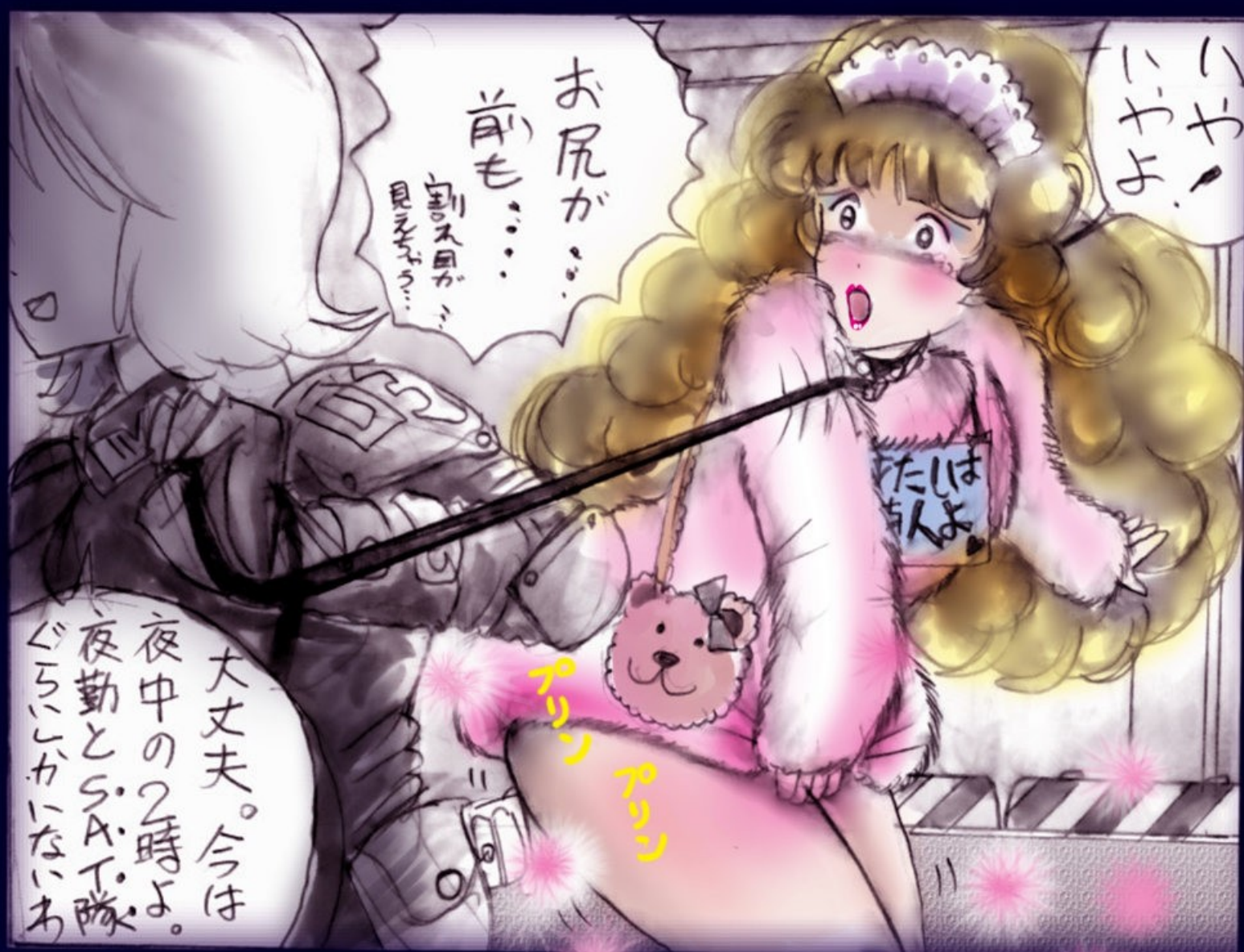
降りて。
古巣のSAT
本部よ。部下に
見てもらいなさ
いその身体!

ガタン



ミルダはかつては隊長として、男として、
屈強SAT特警第四小隊を率いていたのに、今や
跡形もなく女にされたこの身体で
部下たちのいる部屋へ行けという。





いや
いや
よ

お尻が

前も

割る風が
見える...

たいは
人よ

プリン
プリン

大丈夫。今は
夜中の2時よ。
夜勤とら。A.T.隊
ぐらにしかいないあ

みるた様
ひびき...
ひびきあ

い

いざよ女に
されたのみんな
に見せるよんて

ひどいあ
おながい

大きい
おはいも
い

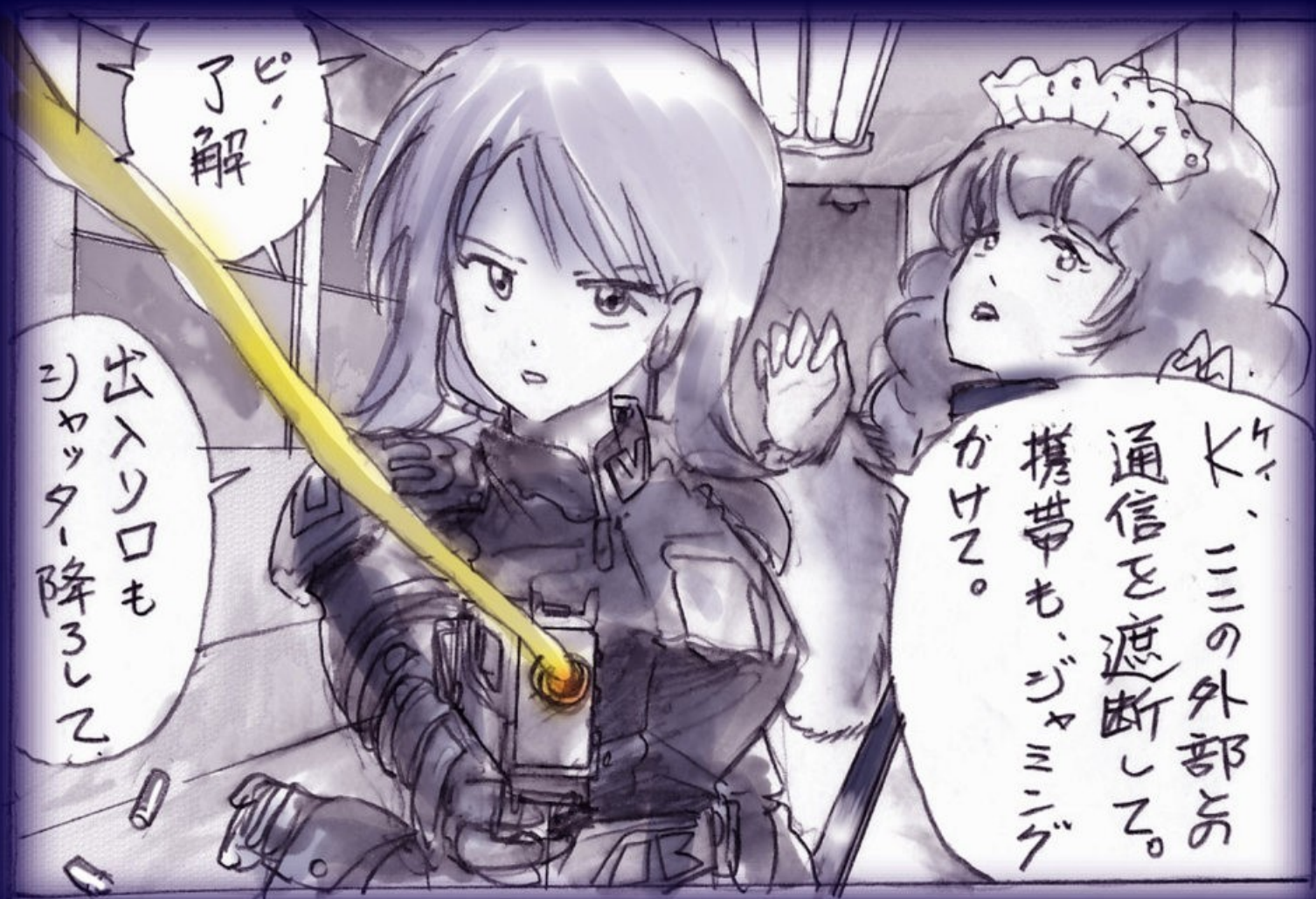
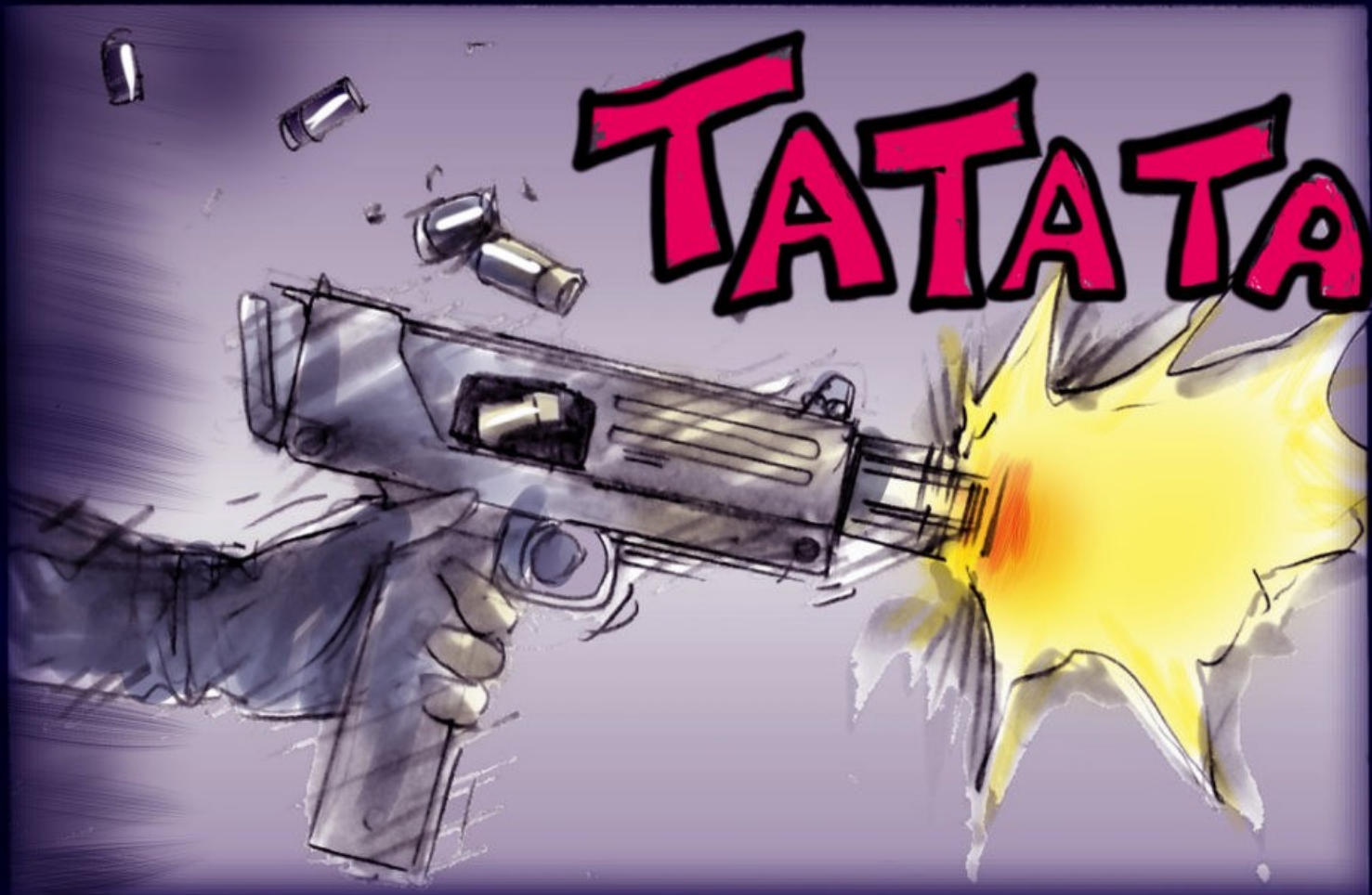
いざ
いざ
いざ

いざ
いざ
いざ

PULIN
PULIN

あまが
女の子に
されたの
もい
の!

あまが
女の子に
されたの
もい
の!





了解...

それにしても
すごいシステム
構築したの
ですね、中尉。
これじゃ...

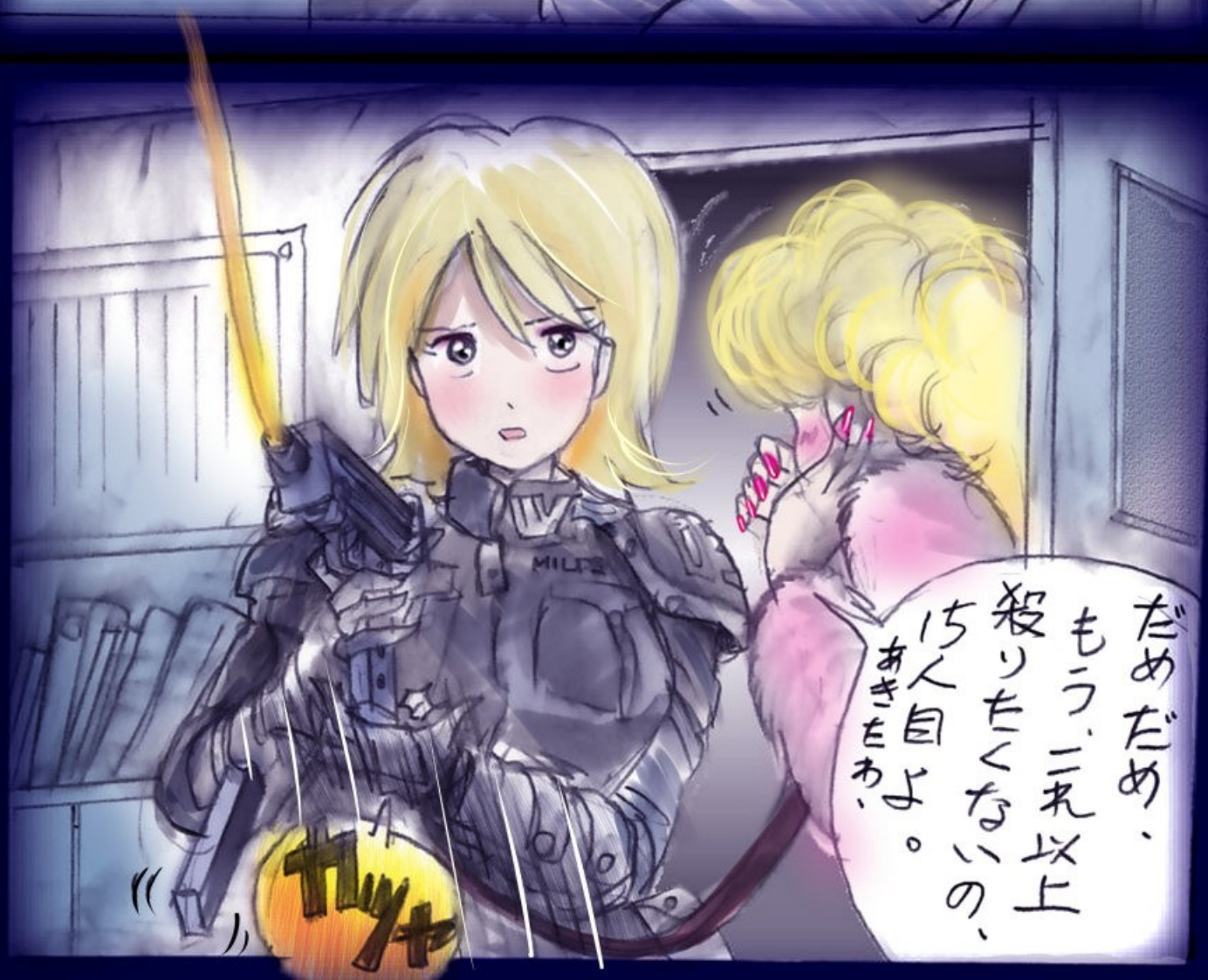
SAT本部
丸腰だわ。

カッ
カッ



榊よ、作った
のは...
それより、
なるべく人の
少ない通路
教えてくれる
？





だめだめ、
もう、二枚以上
殺したくないの、
おきまわい。



ミルダ中尉は強引に嫌がる真人を元自分の部下の前に押し出す。

腰まで届くブラウンの髪、 はち切れそうな胸、 臭い厚化粧、 そして下半身から見え隠れする女の花びら。

どれも不本意なまま植え付けられた物ばかり。

非力にされた真人にはミルダの腕力には敵わない。

次第に前に押しやられる。



真人 隊長……なのですか？

真人……
隊長？

うん

PSAT

そうよ
この格好が
趣味なの。

ため

ちがう

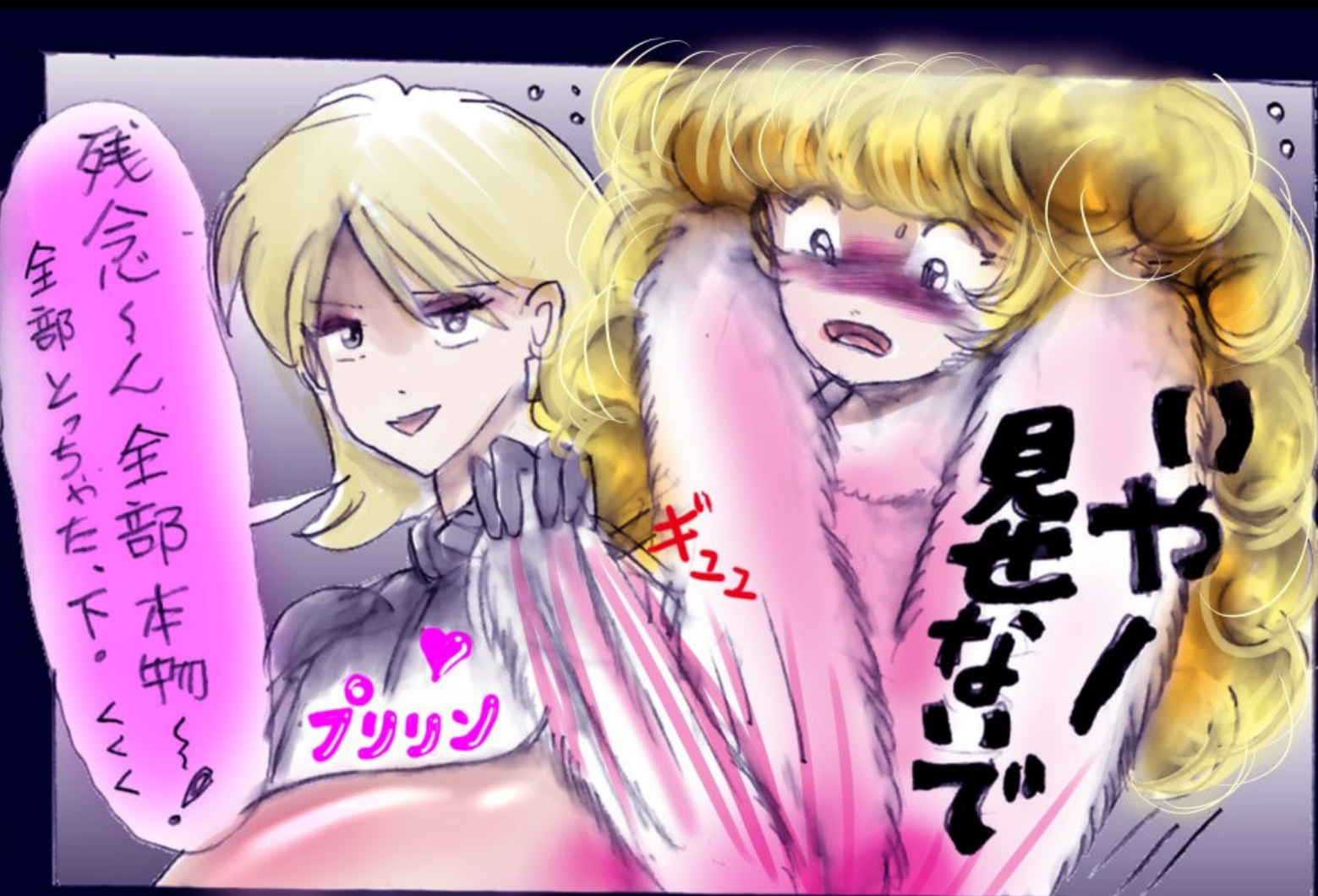
ま、肋骨とったし、
女性ホルモン漬けで
オッパイばんばんにして
あとこも真子ちゃん。
フドーしてもよ……ミニ
ので女の子のせでう
にしちやたから
ちよと前より

やばい
いざ
いざ

MILDA

変あちやた
かな？

女の子みたいになちやた。





ミルダ中尉は 真人に施した「魔薬化粧」の禁断症状の現れる時間を予め計算していたのである。

超化学合成による魔薬化粧の禁断症状は想像を絶する。
強烈な「化粧を塗りたいくりたくなる欲求」が真人を襲う……

強烈な禁断症状が真人を襲う。

「ファンデーションを塗りたい、
塗りたい
塗りたい
塗りたいくりたいくりたい！」



でも、できるわけ無い、
かつてのとともに戦った仲間の前で、慕ってくれてる部下の前で、

女として「化粧」するなんて、
ありえないことだった……

しかし……

お化粧するウ？ 気持ちいいわよオ～

とあともやめとくうん。



draw by milda7

ブン とミルダの近づけた化粧パフから得も言われぬ快樂の
香りが漂う。強烈な誘惑……

その誘惑についに真人の男としてのアイデンティティーが
崩れ始める……

…して
ください……

なあに？真子ちゃん、聞・こ・え・な・い。



おけしょう

して

くだちやい。





あん

あん

あん

あん

あん

あん

ああん...

おけしやう
いいわあ〜ん

いいち

やうい〜

ああん

ああん

ぱん

ぱん



おかしそう
サイン

ハルハル
ななな

なな
い

はち
♡

あー

♡
んん

あたし
みんなの
前で

お化粧
しちゃってる
恥しい
恥しい
恥しい
恥しい
恥しい

あたし
男だった
のに……

あたしは
真人よ♡

どうして
みんな
……?

あたし
男よ！
……の隊長
だったのよ
みんな
思ってた
はずなのに
はなかい
はなかい
……

ばん ばん

ばん

ここでミルダ中尉は
魔薬によるトランス状態の真子に
悪魔の囁きをする。



真人隊長、
今、下、
部下が笑って
ます。

ばん

ばん

ばん

真人隊長、部下が笑ってます。

陰で笑ってますよ。

あなたの化粧する無様な姿を
バカにして、笑ってますよ。

あ、また一人、大笑いしてるわ

男の癖に白粉塗りたくって

最低よね、あなた**最低**よね！

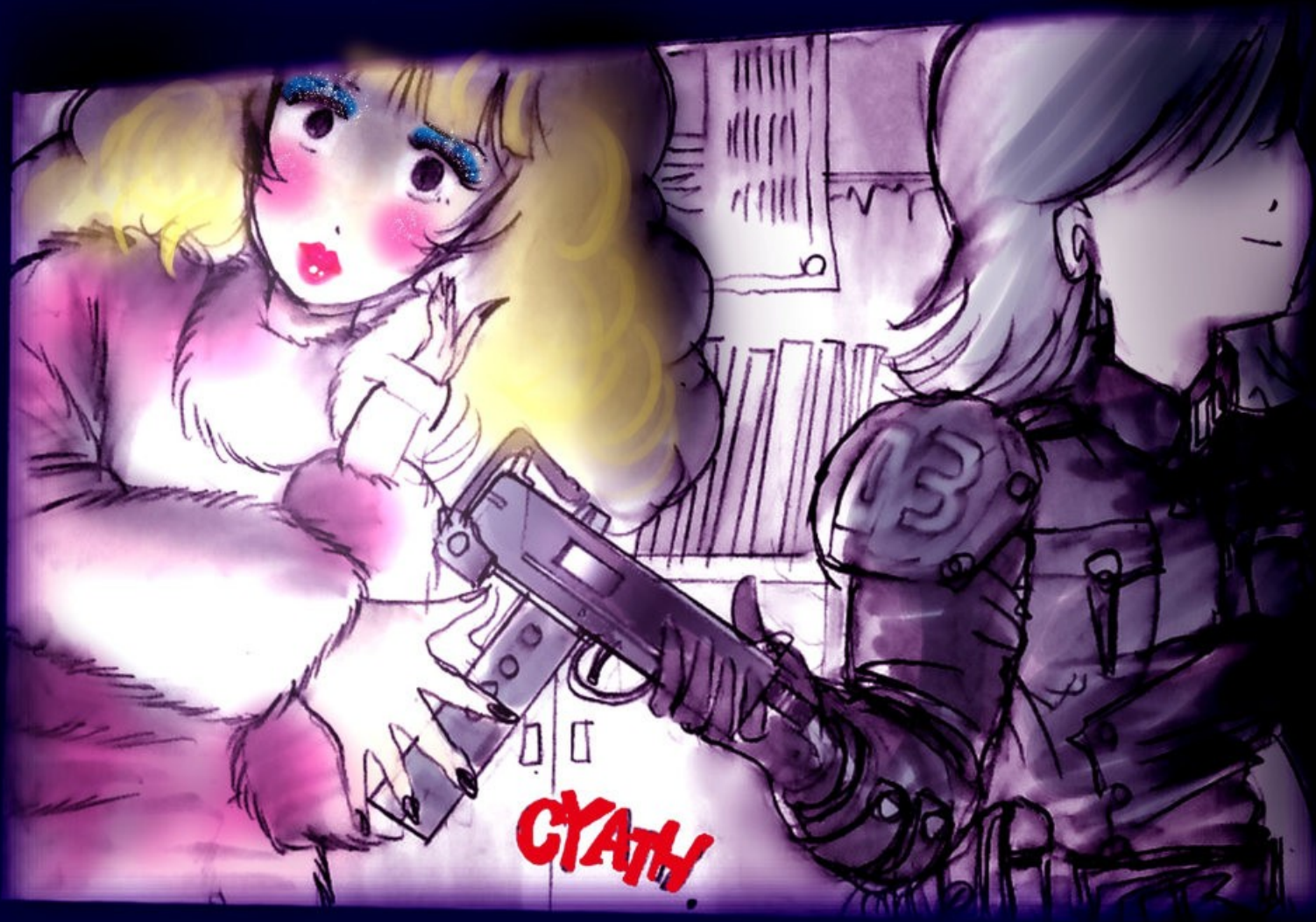


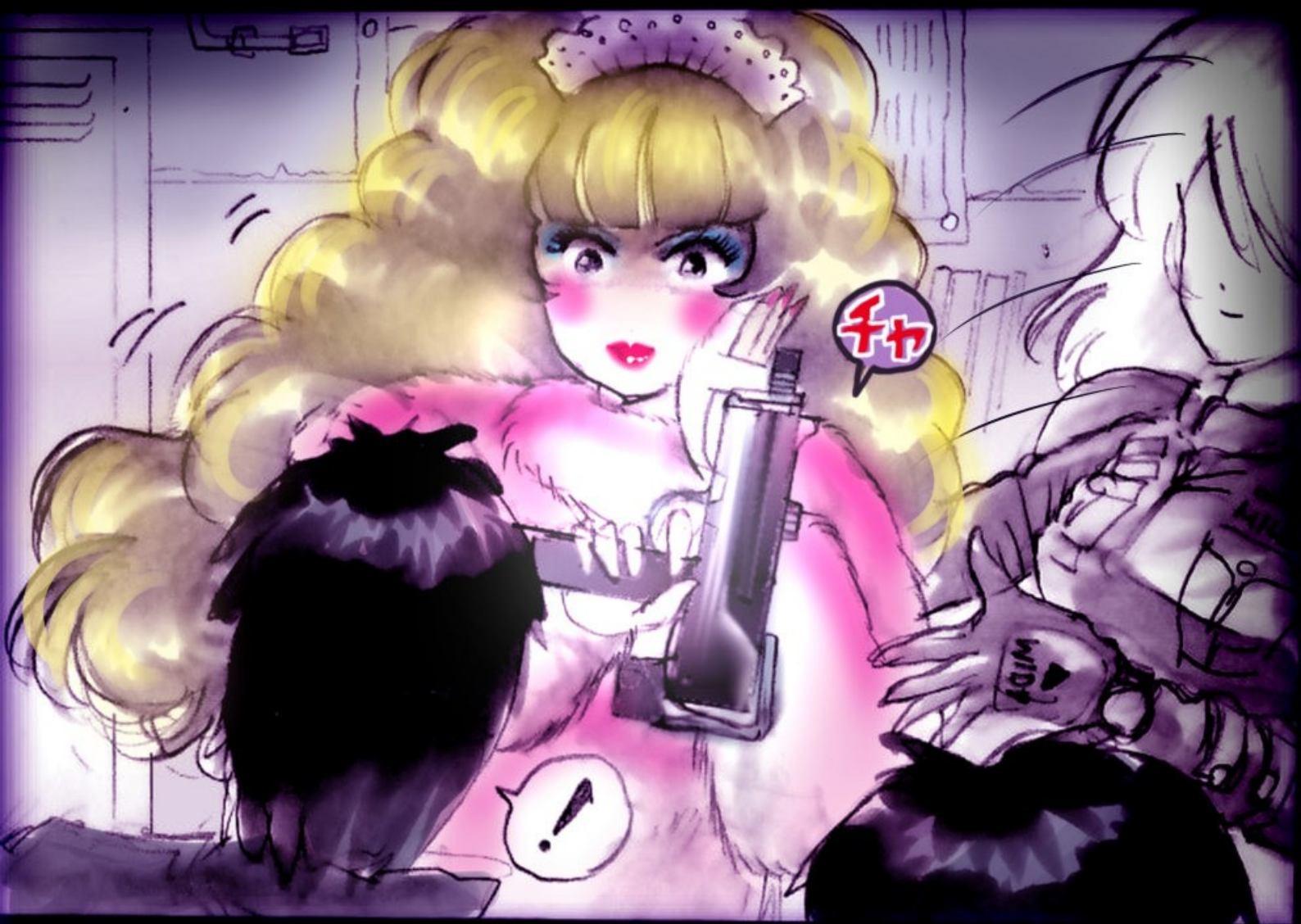
撃っちゃえば？

静かになるわよお

どうせあなた男の腐った女なんだし...

ミルダ中尉がそっと真子の手元に愛用のイングラムを手渡す…







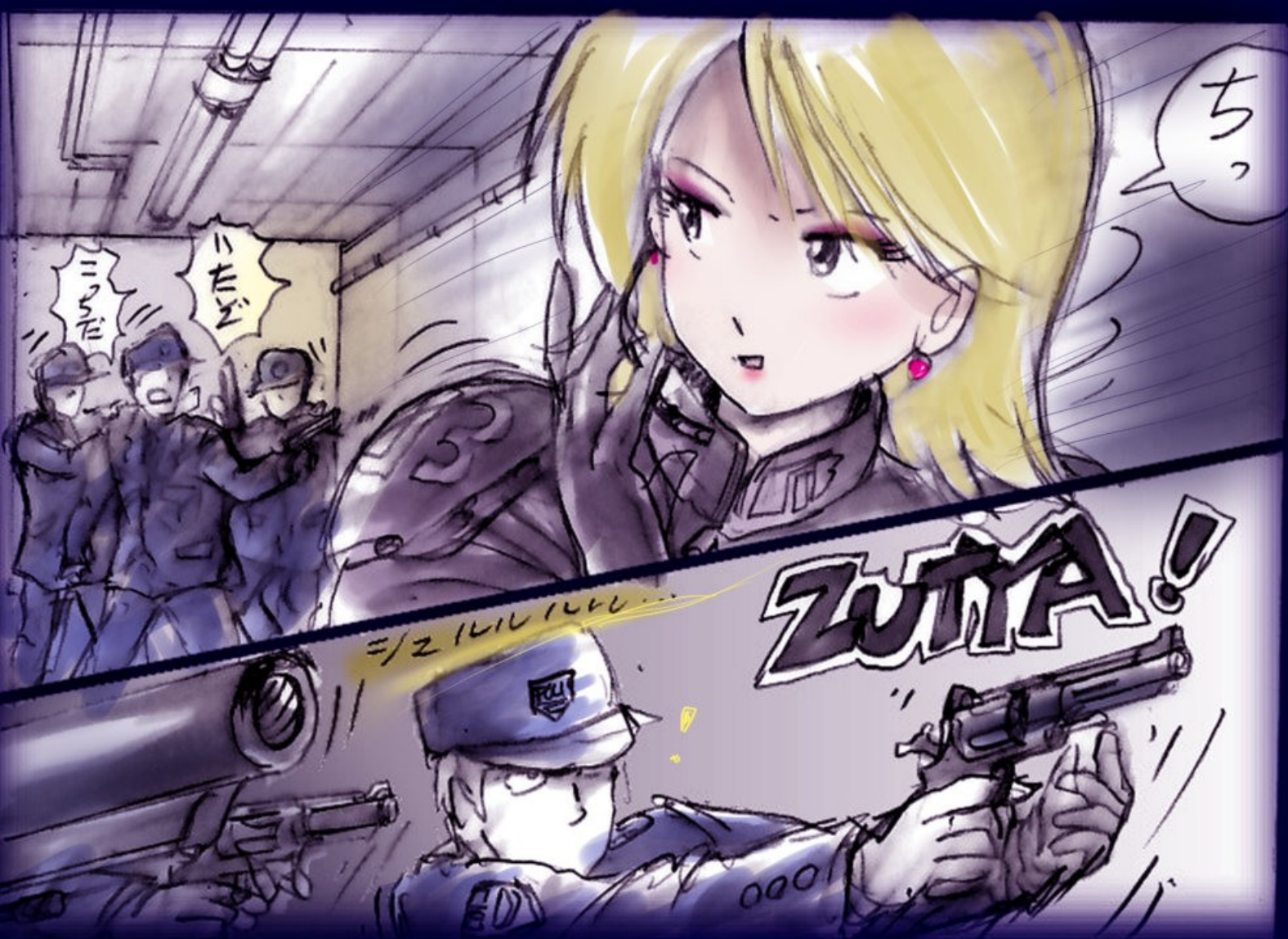
ほほほほ

ケイ、
脱出
するわ。
退路を指示
して

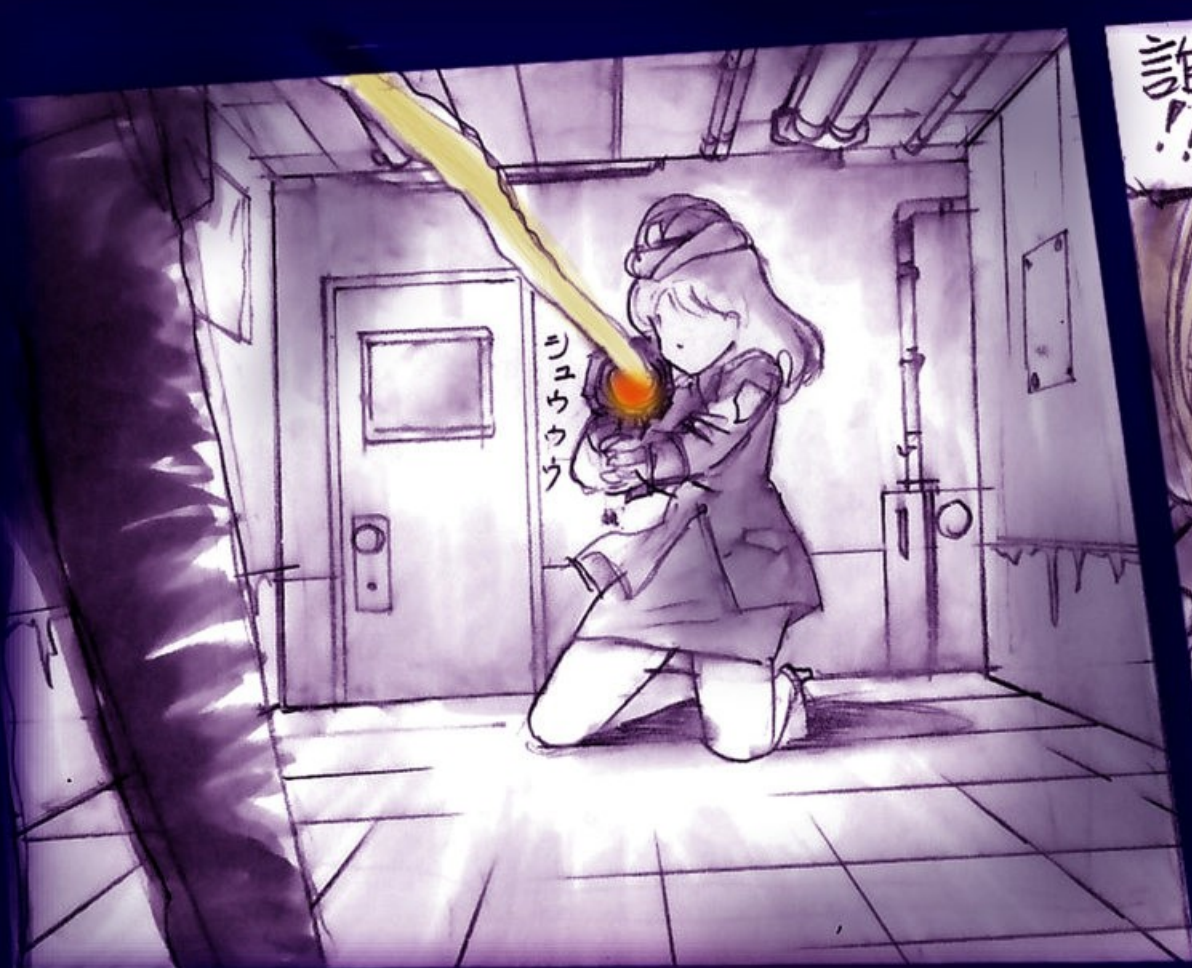


あと陸自の
特殊で、真田
で調べといて。
光学迷彩が配備
されてる部隊よ。
どう多くはないわ

カニヤ







潜入隊員の
憲子でえす

はあ
ミランダナマ

おまたあー



メスクリン特務隊
潜入隊員 憲子



憲子？



今はここに
潜入してたの？



はい、ミルダ様が
いらっしゃる情報を
得たのでフル装備で
参りました♡

また、可愛がってほしくて…



いい娘ね。
好きよ。
こもね、今は
ここを出るのか
先。その後ね
鬼子。



今度
あたしの
屋敷へいら
っしゃい

ちcmの付け腰
埋めこんで一生ぬげない
お姫様のドレス着せて
あげる。

×イクも特別な気持ち
になっちゃうのしてあげる
やめられないの

ピーッ

メスクリン本社
から緊急伝です。

伊集院？

ミルダ中尉
お遊びは
それまでの
ようね。

陸自の西普連
特殊が動き出
したわ。

AH-1が2機
イコロイが3機
あなたの邸宅に
向かっている。
恐らくその中に…



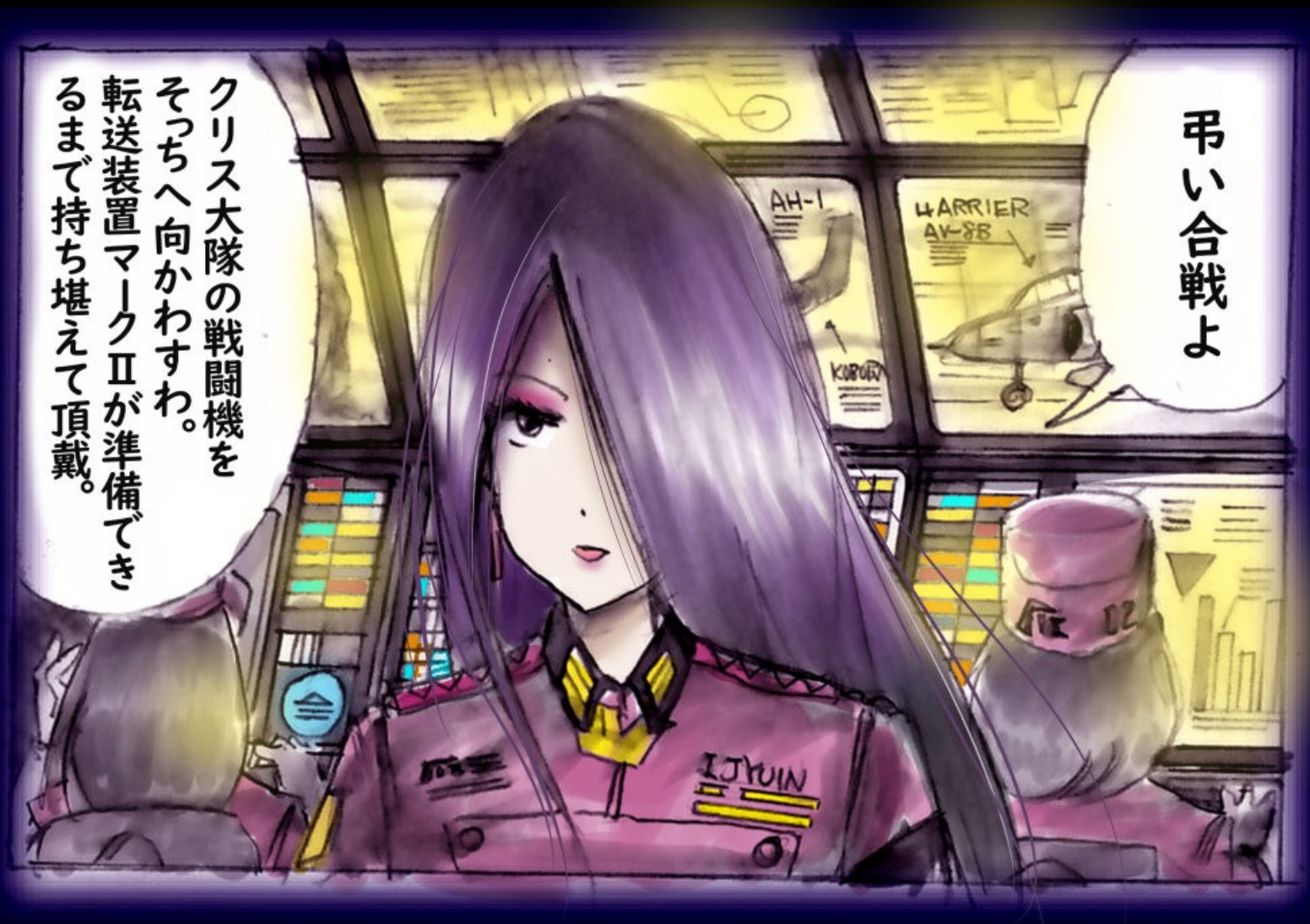
ハイ
ダ
ダ
ダ





弔い合戦よ

クリス大隊の戦闘機を
そっちへ向かわすわ。
転送装置マークIIが準備でき
るまで持ち堪えて頂戴。





ミルダ邸攻防戦











真子、
撃て。

タ-タ-タ-



思い出せ
ないでしょうね
ククク、



あなたのこと
もう微塵も



第三部隊ごと
回収します。

ミルダ中尉
転送装置
MARK II
準備できました。

MARK II
始動！



メスクリン軌道上戦艦アルティメイト

SYUINN

そして榊を
傷つけた。

おまえは
わたしから
彩を奪った。



おまえは
簡単には
消さない。

おまえに関わ
る人間を次々と
女や畜生に、
改造してやる



DOWNNN

転送装置完成し
てたのか！



敵が消え
ていく！？





サナダ
バイバイ……



そしてすべての物語がはじまるのだった。 . . .

特警第四小隊隊長の女装陥落 完